

職能に資するエビデンス研究

福祉用具・義肢・装具支援に関する

啓発と実態調査～装具編～

調査対象 会員

報告書



平成 30 年 3 月

日本理学療法士学会

日本支援工学理学療法学会



## 目 次

【要旨】	2
第1章 本事業の概要	3
第1節 背景と目的	4
第2節 実施体制	4
第3節 調査方法	5
第2章 結果	7
第1節 回収状況	8
第2節 調査結果	8
1. 基本属性	8
2. 理学療法士の下肢装具への関与度	12
3. 理学療法士に必要とされる装具の知識・能力(全体)	15
4. 理学療法士に必要とされる装具の知識・能力(個別)	21
第3章 結果のまとめ	101
資 料	105
1. 依頼文(メール文)	106
2. 調査項目	108

## 【要旨】

### 福祉用具・義肢・装具支援に関する啓発と実態調査～装具編～

#### <目的>

脳卒中治療ガイドラインや理学療法診療ガイドライン等で装具の有効性についての根拠が示され、早期からの活用が推奨されている。一方、平成 28 年度に全国の施設代表者を対象とした実態調査より、理学療法士の装具に対する知識・技術の不足や教育状況の不十分さが明らかとなった。今回、このような背景を受けて、会員個人の現状を把握し、啓発・教育にて実施すべき内容を明らかにすることを目的に本調査を実施した。

#### <方法>

平成 29 年 12 月 7 日現在、日本理学療法士協会会員データベースにメールアドレスの登録があり理学療法士教員及び行政職を除いた在会会員を対象とし、web アンケートにて実施した。アンケート対象者 88,111 名のうち、回答者は 13,288 名(回収率 15.1%)、その内、有効回答者数は 13,005 名(有効回収率 14.8%)であった。

#### <結果と考察>

下肢装具の目的・種類・部品・修理等に関する知識、疾患や病態・機能解剖学・運動学等に関する知識、歩行練習や介助方法等に関する知識など理学療法士に必要とされる装具の知識・能力に関する 20 項目について本調査を実施した。その結果、すべての項目において半数以上の理学療法士が、これら装具の知識・能力に対して「大いに持つべき」、ほぼ全員が「持つべき」と回答していた。一方、「大いに持っている」と回答した者は 3 割未満で、「持っている」を合わせた知識・能力保有数も半数程度に留まっており、理想と実際との間には大きなギャップが生じていた。装具の知識・能力において、理想の「大いに持つべき」と実際の「大いに持っている」とのギャップが大きい項目は、装具活用の機能解剖学の知識、異常歩行の知識、正常歩行の知識など日常的に必要とされる知識・能力であり、理想の「持つべき」と実際の「持っている」とのギャップが大きい項目は、装具作製・修理制度の知識、装具の衛生管理知識、装具部品の種類と適応の知識、装具の劣化・破損知識など必要な場面が生じたときのみ対応する知識・能力であった。すなわち、装具学習の基礎となる装具活用の意義・目的に関する知識、装具の種類や適応の知識とは別な項目において、理想と実際との間に大きなギャップが生じていた。これらのギャップを生じさせる理由として、卒前・卒後に関わらず教育の不足や日常業務における装具に関わる機会の少なさが挙げられた。装具の知識・能力において、理想の「持つべき」と実際の「持っている」の割合が高い回答者は、どちらも回復期リハ病棟、訪問で多く、地域包括ケア病棟や療養病棟では少ない傾向がみられた。また臨床経験年数が少ないほど減少し、職場の理学療法士の人数が 30 人以上では増加する傾向がみられた。今後装具の啓発・教育活動を行う際には、これらを踏まえたきめ細かな対策が必要である。

# 第 1 章 本事業の概要

## 第1節 背景と目的

---

脳卒中治療ガイドラインや理学療法診療ガイドライン等で装具の有効性についての根拠が示され、早期からの活用が推奨されている現状において、理学療法士の装具や活用に関する知識・技術の未熟さを指摘する声が広がりつつある。そこで、日本支援工学理学療法学会では、平成28年度に全国の施設代表者を対象とした理学療法士の福祉用具・義肢・装具支援に関する実態調査を実施した。その中で、装具に関する様々な場面で理学療法士が関与しているという結果が得られた。一方で、関与していないという回答もあり、その理由としては「知識・技術の不足」が5割程度を占めていた。また、装具に対する教育状況についても卒前・卒後ともに十分ではないという回答が半数を超えており、装具療法の啓発・教育の必要性がうかがえた。今回、このような背景を受けて、会員個人の現状を把握し、啓発・教育にて実施すべき内容を明らかにすることを目的に本調査を実施した。

## 第2節 実施体制

---

研究責任者	半田 一登	日本理学療法士学会会長
研究代表者	大峯 三郎	日本支援工学理学療法学会代表運営幹事 九州栄養福祉大学
共同研究者(班長)	中野 克己	日本支援工学理学療法学会運営幹事 埼玉県総合リハビリテーションセンター
共同研究者	宮原 拓也	日本支援工学理学療法学会運営幹事 上尾中央医療専門学校
研究協力者	遠藤 正英	日本支援工学理学療法学会運営幹事 桜十字福岡病院
研究協力者	大垣 昌之	愛仁会リハビリテーション病院
研究協力者	佐伯 茂行	松山リハビリテーション病院
研究協力者	長倉 裕二	日本支援工学理学療法学会運営幹事 大阪人間科学大学
調査委託企業	株式会社ネオマーケティング	

## 第3節 調査方法

---

---

### 1. 対象

平成29年12月7日現在、日本理学療法士協会会員データベースにメールアドレスの登録がある在会会員88,111人(理学療法士教員及び行政職を除く)を対象とした。

### 2. 調査方法

調査方法は、対象会員へメールにて案内を送り、web アンケートにて実施した。Web による回答では、指定された URL へアクセスし、メールに書かれた対象者固有の ID、パスワードを入力した。

### 3. 調査期間

調査期間は、平成29年12月13日(水)から平成29年12月26日(火)18時まで

### 4. 調査項目

設問数は49問で、調査項目は下記のとおりである。

1. 所属施設の基本的属性
2. 下肢装具に関する項目
3. 装具活用の意義・目的に関する項目
4. 装具の種類と適応に関する項目
5. 装具の部品の種類と適応に関する項目
6. 装具の活用に関わる疾患や病態に関する項目
7. 装具の活用に関わる機能解剖学に関する項目
8. 装具の運動学に関する項目
9. 装具の活用に関わる正常歩行の知識に関する項目
10. 装具の活用に関わる異常歩行の知識に関する項目
11. 装具の選択や部品の調整時における歩行を評価する能力に関する項目
12. 装具を活用した歩行練習や介助方法の技術に関する項目
13. 装具の必要性に関する項目
14. 装具の劣化・破損に関する項目
15. 装具活用による足部の創傷と対応に関する項目

16. 装具の汚れや除菌など衛生管理に関する項目
17. 装具の装着方法に関する項目
18. 装具の生活関連動作活用に関する項目
19. 装具の活用に関して患者や家族に説明する能力についての項目
20. 装具の活用に関して他職種に説明する能力についての項目
21. 装具作製・修理に関する制度についての項目
22. 装具に関する相談先についての項目

## 5. 解析方法

得られたデータは単純集計を行い、必要に応じてクロス集計を行った。

## 6. 倫理的配慮

本研究は日本理学療法士学会倫理審査部会の承認(承認番号 H29-002)を受けて実施した。

調査対象者に対して、本調査の目的、結果の利用について案内時のメールにて説明を実施した。本調査に対する同意は調査の回答をもってみなすこととした。

## 7. 利益相反の開示

研究責任者、研究代表者共同研究者および研究協力者の全てにおいて、開示すべき項目はない。

## 第 2 章 結果

## 第1節 回収状況

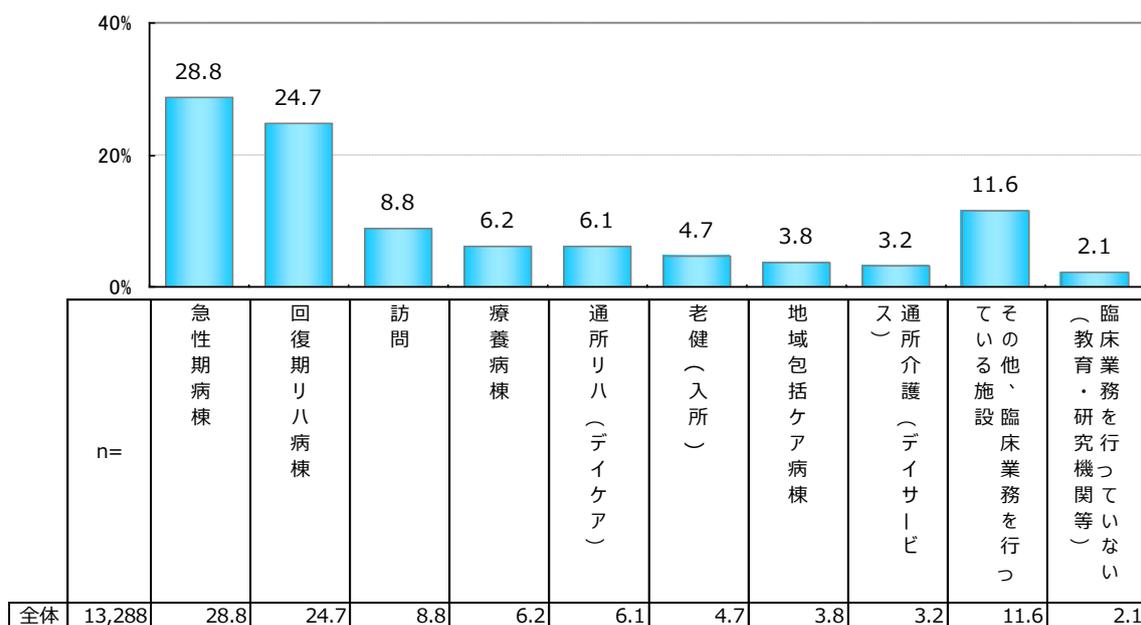
アンケート対象者 88,111 名のうち、回答者は 13,288 名(回収率 15.1%)、その内、有効回答者数は 13,005 名(有効回収率 14.8%)であった。

## 第2節 調査結果

### 1. 基本属性

#### 1) 職場の種類

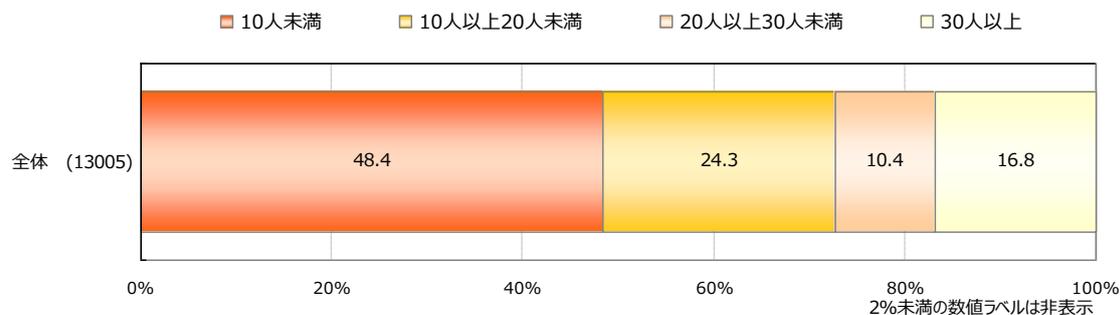
Q1 あなたが現在、主に勤務している職場の種類をお答えください。(お答えは1つ)。



- ✓ 職場の種類について最も多いのは、「急性期病棟」(28.8%)である。次いで「回復期リハ病棟」(24.7%)、「その他、臨床業務を行っている施設」(11.6%)、「訪問」(8.8%)と続く。

## 2) 職場の理学療法士の人数

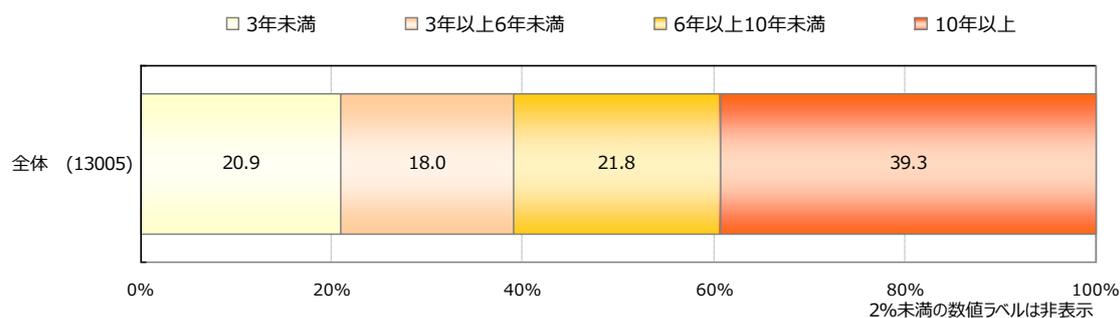
Q2 前問でご回答いただいた職場の理学療法士の人数をお答えください。(お答えは1つ)



- ✓ 職場の理学療法士の人数について最も多いのは、「10人未満」(48.4%)である。次いで「10人以上20人未満」(24.3%)、「30人以上」(16.8%)、「20人以上30人未満」(10.4%)と続く。

## 3) 臨床経験年数

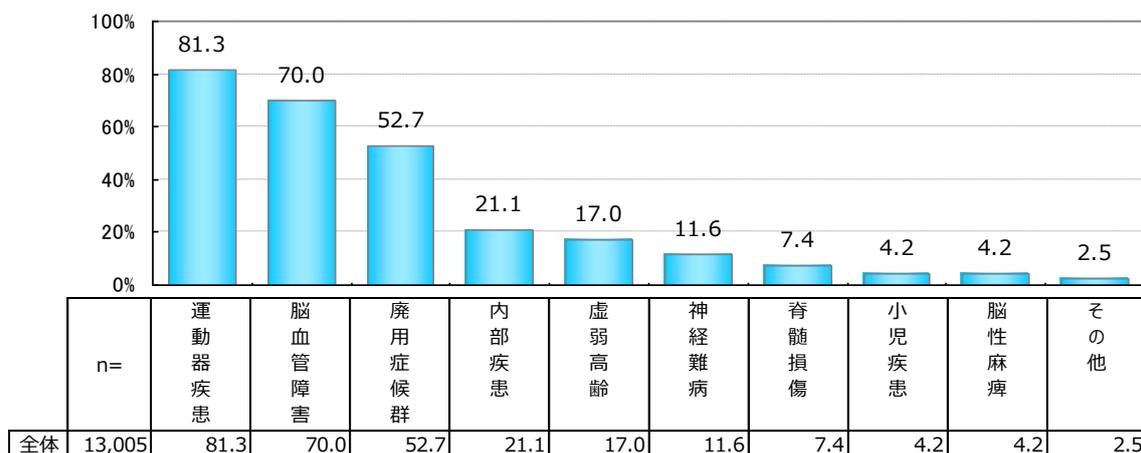
Q3 あなたの臨床経験年数をお答えください(臨床業務を行っていない期間は除いてください)。(お答えは1つ)



- ✓ 臨床経験年数について最も多いのは、「10年以上」(39.3%)である。次いで「6年以上10年未満」(21.8%)、「3年未満」(20.9%)、「3年以上6年未満」(18.0%)と続く。

## 4) 日常的に関わっている主な疾患

Q4 あなたが日常的に関わっている主な疾患を 3 つまでお答えください。（お答えは 3 つまで）



- ✓ 日常的に関わっている主な疾患について最も多いのは、「運動器疾患」(81.3%)である。次いで「脳血管障害」(70.0%)、「廃用症候群」(52.7%)、「内部疾患」(21.1%)と続く。

#### 5) 装具を必要とする支援対象者の割合

Q5 あなたが関わる支援対象者のうち、装具を必要とする方のおおよその割合をお答えください。（お答えは半角数字で）※0～10の数字でお答えください。対象者がいない場合は「0」と入力してください。

	n=	統計量母数	合計	平均	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	13,005	13005	25253	1.94	1.707	0	10	1

- ✓ 装具を必要とする支援対象者の割合の平均は約 2 割である。

## 6) 日常的に関わっている下肢装具の種類

Q6 あなたが日常的に関わっている下肢装具の種類についてお答えください。（お答えはいくつでも）※あなたが関わっている支援対象者に、装具を必要とする方がいない方は「ほとんど関わらない」をお選びください。

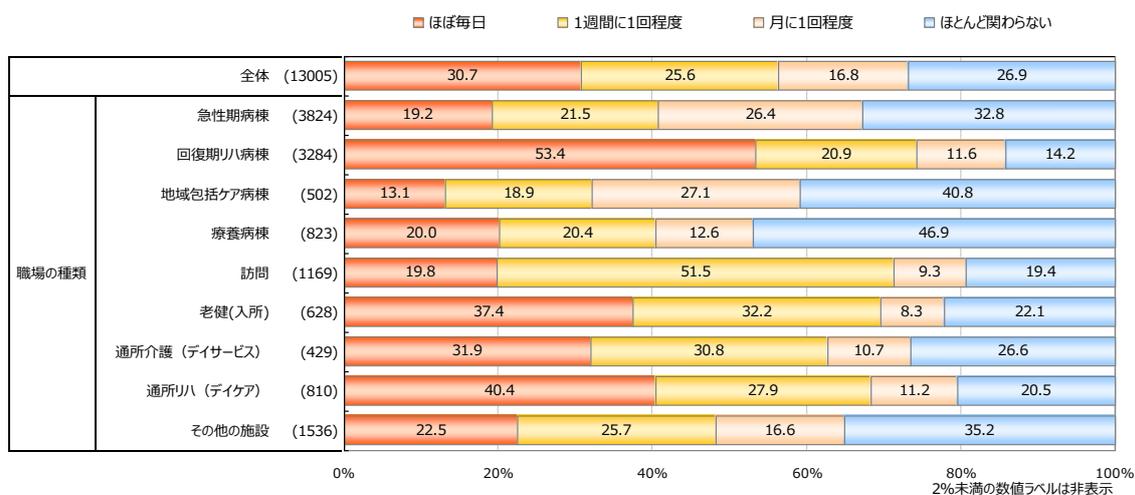


- ✓ 日常的に関わっている下肢装具の種類について最も多いのは、「靴べら式短下肢装具 (SHB)」(43.7%)である。次いで「オ尔特ップ AFO」(42.5%)、「膝装具」(41.9%)、「金属支柱付き短下肢装具」(38.9%)と続く。
- ✓ 急性期病棟では、全体と比較して同等もしくは少ない使用状況である。回復期リハ病棟では、長下肢装具、短下肢装具ともに全体と比較して多い使用状況である。地域包括ケア病棟、療養病棟では、全体と比較して同等もしくは少ない使用状況であり「ほとんど関わらない」が全体と比較して多い。訪問リハビリ、老健(入所)では短下肢装具の使用が多く、デイサービスでは、全体と比較して同等もしくは少ない使用状況であるが、デイケアでは、短下肢装具の使用が全体と比較して多い。
- ✓ 臨床経験年数別では、短下肢装具では、「3年未満」が他の経験年数と比較して1割前後少ない使用状況であるが、長下肢装具では、経験年数による著明な差は見られない。「ほとんど関わらない」は、3年未満が2割弱であり、他の経験年数よりも多い。

## 2. 理学療法士の下肢装具への関与度

### 1) 下肢装具への「活用」関与度

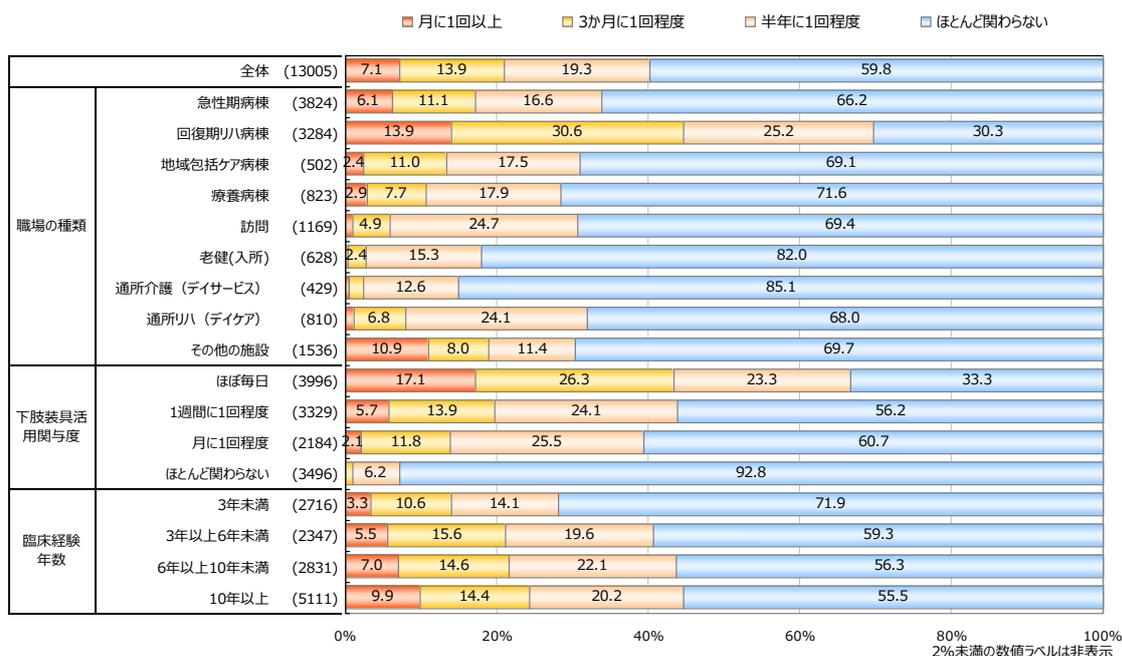
Q7 あなたが日常業務において、下肢装具の「活用」に関わることはどの程度ありますか。(お答えは1つ)



- ✓ 下肢装具の「活用」関与度について最も多いのは、「ほぼ毎日」(30.7%)である。次いで「ほとんど関わらない」(26.9%)、「1週間に1回程度」(25.6%)、「月に1回程度」(16.8%)と続く。
- ✓ 職場の種類でみると、回復期リハ病棟は「ほぼ毎日」、療養病棟・地域包括ケア病棟は「ほとんど関わらない」、訪問は「1週間に1回程度」が最も多い。

## 2) 下肢装具への「作製」関与度

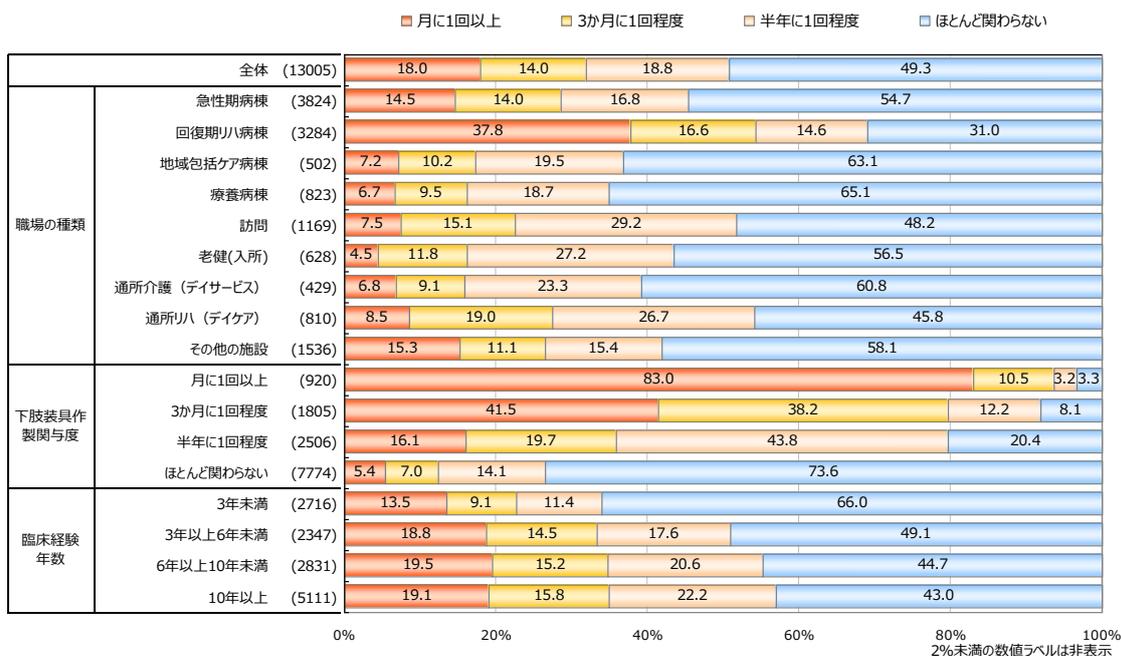
Q8 あなたが日常業務において、下肢装具の「作製」に関わることはどの程度ありますか。(お答えは1つ)



- ✓ 下肢装具の「作製」関与度について最も多いのは、「ほとんど関わらない」(59.8%)である。次いで「半年に1回程度」(19.3%)、「3か月に1回程度」(13.9%)、「月に1回以上」(7.1%)と続く。
- ✓ 職場の種類でみると、回復期リハ病棟は「3か月に1回程度」、老健(入所)や通所介護(デイサービス)は「ほとんど関わらない」が最も多い。
- ✓ 下肢装具の活用関与度が低下するほど、作製関与度の「ほとんど関わらない」が増加し、活用関与度が「ほぼ毎日」でも作製関与度の「ほとんど関わらない」、「半年に1回」は56.6%に及んでいる。
- ✓ 臨床経験年数で比べると、装具の作製に「3年未満」で約7割、その他の経験年数では6割弱が「ほとんど関わらない」と回答している。また、経験年数の増加に伴い、装具の作製が「月に1回以上」の割合は増加している。

### 3) 下肢装具への「調整」関与度

Q9 あなたが日常業務において、下肢装具の「調整」(関節角度の調整、部品の交換等)に関わることはどの程度ありますか。(お答えは1つ)



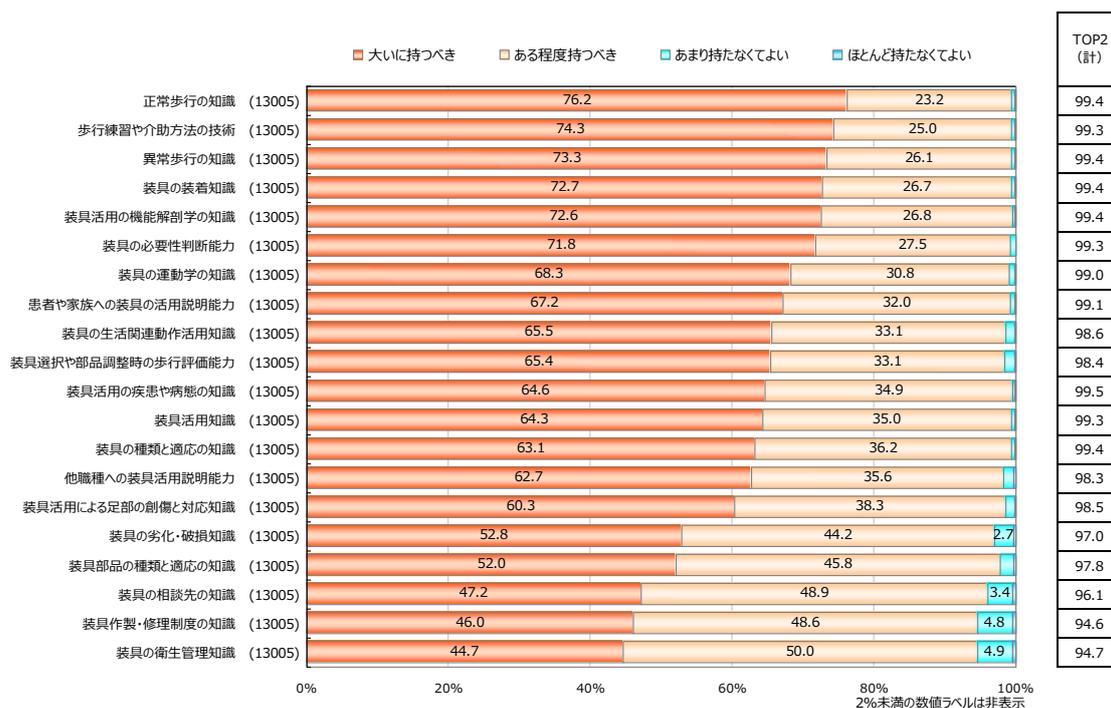
- ✓ 下肢装具の「調整」関与度について最も多いのは、「ほとんど関わらない」(49.3%)である。次いで「半年に1回程度」(18.8%)、「月に1回以上」(18.0%)、「3か月に1回程度」(14.0%)と続く。
- ✓ 職場の種類でみると、回復期リハ病棟は「月に1回以上」、地域包括ケア病棟・療養病棟は「ほとんど関わらない」が最も多い。
- ✓ 下肢装具の作製関与度が低下するほど、調整関与度の「月に1回以上」は低下する。作製関与度が「ほとんど関わらない」場合、調整関与度の「ほとんど関わらない」は73.6%である。
- ✓ 臨床経験年数別の装具調整関与度「ほとんど関わらない」は、「3年未満」で66%と最も多い。おおよそ臨床経験年数が増加するにつれて、装具調整関与度は増加する。

### 3. 理学療法士に必要とされる装具の知識・能力(全体)

結果の数字は小数点処理の関係で一致しない箇所がある。

#### 1) 理学療法士が持つべき装具の知識・能力

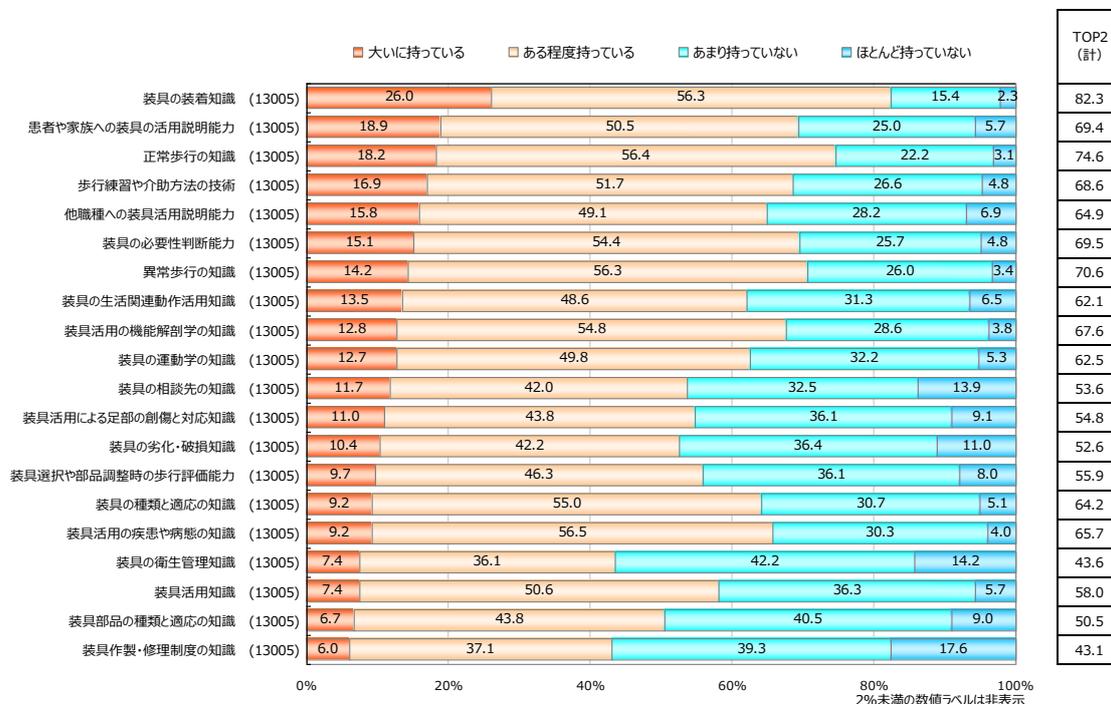
あなたは理学療法士がどの程度持つべきだと思いますか。(お答えは1つ)



- ✓ 「大いに持つべき」が最も多いのは、「正常歩行の知識」(76.2%)である。次いで「歩行練習や介助方法の技術」(74.3%)、「異常歩行の知識」(73.3%)、「装具の装着知識」(72.7%)、「装具活用の機能解剖学の知識」(72.6%)と続く。

## 2) 回答者の持っている装具の知識・能力

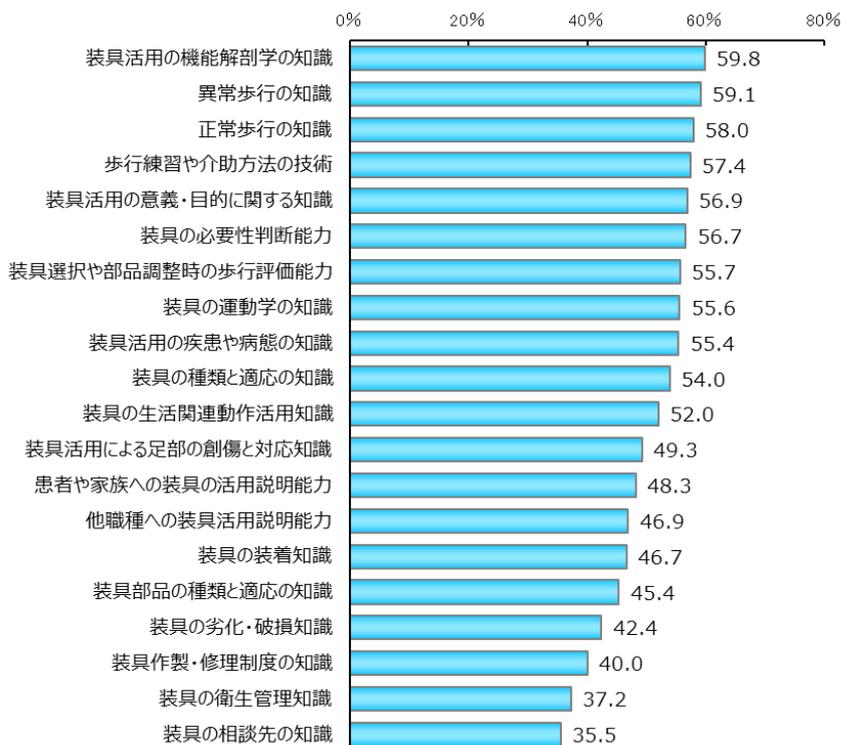
あなたはどの程度持っていますか。(お答えは1つ)



- ✓ 「大いに持っている」が最も多いのは、「装具の装着知識」(26.0%)である。次いで「患者や家族への装具の活用説明能力」(18.9%)、「正常歩行の知識」(18.2%)、「歩行練習や介助方法の技術」(16.9%)、「他職種への装具活用説明能力」(15.8%)と続く。
- ✓ 「ほとんど持っていない」が最も多いのは、「装具作製・修理制度の知識」(17.6%)である。次いで「装具の衛生管理知識」(14.2%)、「装具の相談先の知識」(13.9%)、「装具の劣化・破損の知識」(11.0%)、「装具活用による足部の創傷対応知識」(9.1%)と続く。

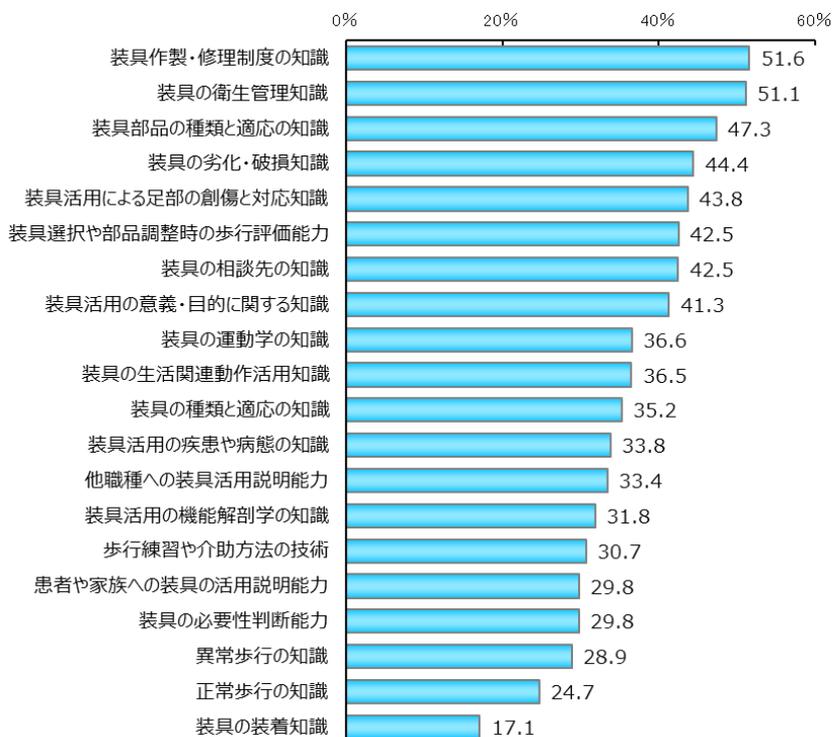
### 3) 知識・能力の理想と実際のギャップ

#### ①知識・能力の大きい持つべき理想と実際とのギャップ



- ✓ 「大いに持つべき知識・能力」(理想)と「大いに持っている知識・能力」(実際)とのギャップは、項目によって 35.5pt から 59.8pt まで存在する。
- ✓ これらのギャップで最も多いのは、「装具の活用に関わる機能解剖学に関する知識」(59.8pt)である。次いで「装具の活用に関わる異常歩行の知識」(59.1 pt)、「装具の活用に関わる正常歩行の知識」(58.0 pt)、「装具を活用した歩行練習や介助方法の技術」(57.4 pt)と続く。

## ②知識・能力の持つべき理想と実際とのギャップ



- ✓ 「持つべき知識・能力」(理想)と「持っている知識・能力」(実際)とのギャップは、項目によって17.1pt から51.6pt まで存在する。
- ✓ これらのギャップで最も多いのは、「装具作製・修理に関する制度(医療保険制度・障害者総合支援法等)の知識」(51.6 pt)である。次いで「装具の汚れや除菌など衛生管理に関する知識」(51.1 pt)、「装具の部品(膝・足継手、T ストラップ、膝パッド等)の種類と適応」(47.3 pt)、「装具の劣化・破損に関する知識」(44.4 pt)と続く。

#### 4) 知識・能力の理想と実際のギャップの理由(横順位別)

知識・能力について、【】と考えているのに実際には【】となっている理由をお答えください。(お答えはいくつでも)

横順位 → 1位 ■ 2位 ■ 3位 ■	n=	理学療法士養成校で	施設外の研修会など施設内の	協会や県士会など施設内の	勉強会など施設内の	雑誌や論文などの情報	対象となる患者・利用者	施設に試す備品が少	装具は主に他職種が	その他	差は生じていない
		学ぶ時間が少ない	研修会が少ない	研修会が少ない	研修会が少ない	が少ない	が少ない	が少ない	が少ない	が少ない	が少ない
	13,005	30.5	27.6	30.4	9.1	45.6	37.4	11.1	5.3	21.3	
装具の種類の適応に関する知識	13,005	27.2	25.6	27.4	8.6	43.3	33.5	9.3	4.8	27.6	
装具の部品の種類と適応に関する知識	13,005	28.4	25.8	27.6	8.9	46.0	36.7	10.3	4.0	26.7	
装具の活用に関わる疾患や病態に関する知識	13,005	27.7	26.7	28.7	9.5	42.0	29.7	8.6	4.4	28.5	
装具の活用に関わる機能解剖学に関する知識	13,005	29.5	28.6	31.1	11.0	36.6	23.3	7.1	6.0	27.9	
装具の運動学に関する知識	13,005	30.8	29.6	31.7	10.2	33.8	23.1	7.0	6.2	28.8	
装具の活用に関わる正常歩行の知識	13,005	25.9	25.2	28.3	8.5	31.9	19.9	5.9	6.3	33.1	
装具の活用に関わる異常歩行の知識	13,005	26.9	27.1	29.0	9.4	35.4	20.5	6.2	6.1	30.9	
装具の選択や部品の調整時における歩行を評価する能力	13,005	30.7	29.1	30.5	10.7	40.5	27.3	9.5	5.7	26.2	
装具を活用した歩行練習や介助方法の技術	13,005	28.6	26.5	28.0	9.4	39.5	22.1	5.3	4.8	32.0	
装具が必要かどうかを判断する能力	13,005	28.6	26.3	27.4	10.5	37.3	22.5	7.4	5.6	32.8	
装具の劣化・破損に関する知識	13,005	29.6	25.5	25.5	11.4	35.5	20.9	11.2	4.1	34.2	
装具活用による足部の創傷と対応に関する知識	13,005	31.2	27.6	28.1	11.5	40.2	18.3	8.5	3.7	31.1	
装具の汚れや除菌など衛生管理に関する知識	13,005	33.8	28.7	28.9	14.9	33.1	17.5	9.0	3.8	33.4	
装具の装着方法に関する知識	13,005	21.3	20.1	20.7	7.6	30.5	18.0	6.4	3.0	46.2	
装具を生活関連動作に活用する知識	13,005	29.8	27.7	27.5	11.7	39.5	21.3	6.5	3.9	32.9	
装具の活用に関して患者や家族に説明する能力	13,005	24.8	21.9	22.8	8.8	35.8	16.2	7.1	4.1	39.3	
装具の活用に関して他職種に説明する能力	13,005	25.0	22.7	23.9	9.3	36.0	16.9	7.7	4.5	37.7	
装具作製・修理に関する制度の知識	13,005	36.8	29.9	30.0	11.8	35.1	13.4	14.1	5.2	28.8	
装具に関する相談先についての知識	13,005	25.8	22.7	22.5	9.0	30.7	12.2	11.3	4.1	40.3	

- ✓ 理学療法士に必要とされる装具の知識・能力において、理想と実際のギャップの生じる理由は、「理学療法士養成校で学ぶ時間が少ない」、「協会や県士会など施設外の研修会が少ない」、「勉強会など施設内の研修会が少ない」がそれぞれ3割程度、「対象となる患者・利用者が少ない」が4割程度、「施設に試す備品が少ない」が2割程度、「差が生じていない」が3割程度である。
- ✓ 理由として、「装具の汚れや除菌など衛生管理に関する知識」「装具作製・修理に関する制度の知識」は「理学療法士養成校で学ぶ時間が少ない」が最も多い。また、全項目で「対象となる患者・利用者が少ない」が多い。なお、「装具の装着方法に関する知識」「装具に関する相談先についての知識」「装具の活用に関して患者や家族に説明する能力」「装具の活用に関して他職種に説明する能力」「装具の活用に関わる正常歩行の知識」の順に「差は生じていない」が多い。

## 5) 知識・能力の理想と実際のギャップの理由(縦順位別)

知識・能力について、【】と考えているのに実際には【】となっている理由をお答えください。(お答えはいくつでも)

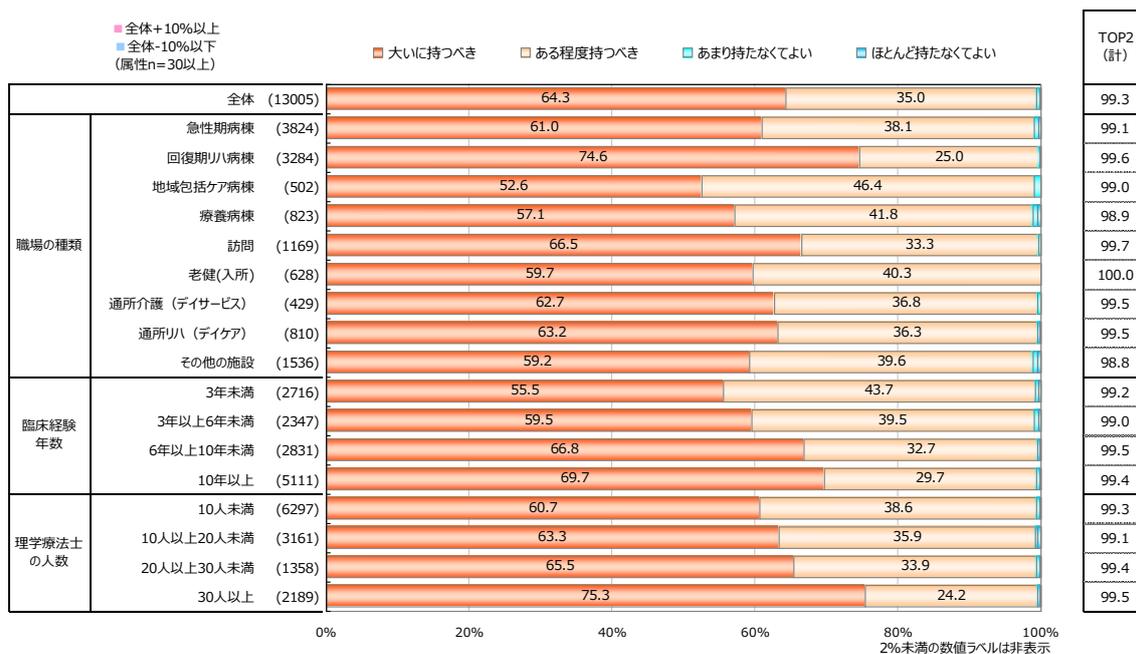
縦順位 ↓ 1位 ■ 2位 ■ 3位 ■	n=	理学療法士養成校で	い設協	研勉	報雑	用対	な施	関装	そ	差
		学理	設外	協会	勉強	誌少	象が	施設	装具	他
		時間法が少	外の研	強会が少	や論	が少	に試	は主		は生
		養不成	修士会	ない設	文な	なる患	す備	に他		じて
		校で	が少	内の	の情	者・利	品が少	職種		いて
			な施							ない
装具活用の意義・目的についての知識	13,005	30.5	27.6	30.4	9.1	45.6	37.4	11.1	5.3	21.3
装具の種類と適応に関する知識	13,005	27.2	25.6	27.4	8.6	43.3	33.5	9.3	4.8	27.6
装具の部品の種類と適応に関する知識	13,005	28.4	25.8	27.6	8.9	46.0	36.7	10.3	4.0	26.7
装具の活用に関わる疾患や病態に関する知識	13,005	27.7	26.7	28.7	9.5	42.0	29.7	8.6	4.4	28.5
装具の活用に関わる機能解剖学に関する知識	13,005	29.5	28.6	31.1	11.0	36.6	23.3	7.1	6.0	27.9
装具の運動学に関する知識	13,005	30.8	29.6	31.7	10.2	33.8	23.1	7.0	6.2	28.8
装具の活用に関わる正常歩行の知識	13,005	25.9	25.2	28.3	8.5	31.9	19.9	5.9	6.3	33.1
装具の活用に関わる異常歩行の知識	13,005	26.9	27.1	29.0	9.4	35.4	20.5	6.2	6.1	30.9
装具の選択や部品の調整時における歩行を評価する能力	13,005	30.7	29.1	30.5	10.7	40.5	27.3	9.5	5.7	26.2
装具を活用した歩行練習や介助方法の技術	13,005	28.6	26.5	28.0	9.4	39.5	22.1	5.3	4.8	32.0
装具が必要かどうかを判断する能力	13,005	28.6	26.3	27.4	10.5	37.3	22.5	7.4	5.6	32.8
装具の劣化・破損に関する知識	13,005	29.6	25.5	25.5	11.4	35.5	20.9	11.2	4.1	34.2
装具活用による足部の創傷と対応に関する知識	13,005	31.2	27.6	28.1	11.5	40.2	18.3	8.5	3.7	31.1
装具の汚れや除菌など衛生管理に関する知識	13,005	33.8	28.7	28.9	14.9	33.1	17.5	9.0	3.8	33.4
装具の装着方法に関する知識	13,005	21.3	20.1	20.7	7.6	30.5	18.0	6.4	3.0	46.2
装具を生活関連動作に活用する知識	13,005	29.8	27.7	27.5	11.7	39.5	21.3	6.5	3.9	32.9
装具の活用に関して患者や家族に説明する能力	13,005	24.8	21.9	22.8	8.8	35.8	16.2	7.1	4.1	39.3
装具の活用に関して他職種に説明する能力	13,005	25.0	22.7	23.9	9.3	36.0	16.9	7.7	4.5	37.7
装具作製・修理に関する制度の知識	13,005	36.8	29.9	30.0	11.8	35.1	13.4	14.1	5.2	28.8
装具に関する相談先についての知識	13,005	25.8	22.7	22.5	9.0	30.7	12.2	11.3	4.1	40.3

理想と実際のギャップが生じる理由において、理学療法士に必要とされる装具の知識・能力の項目を比較すると、「施設に試す備品が少ない」は「装具活用の意義・目的についての知識」、「対象となる患者・利用者が少ない」は「装具の部品の種類と適応に関する知識」、「勉強会など施設内の研修会が少ない」は「装具の運動学に関する知識」が最も多い。

#### 4. 理学療法士に必要とされる装具の知識・能力(個別)

##### 1-1)装具活用の意義・目的の知識を理学療法士がどの程度持つべきか

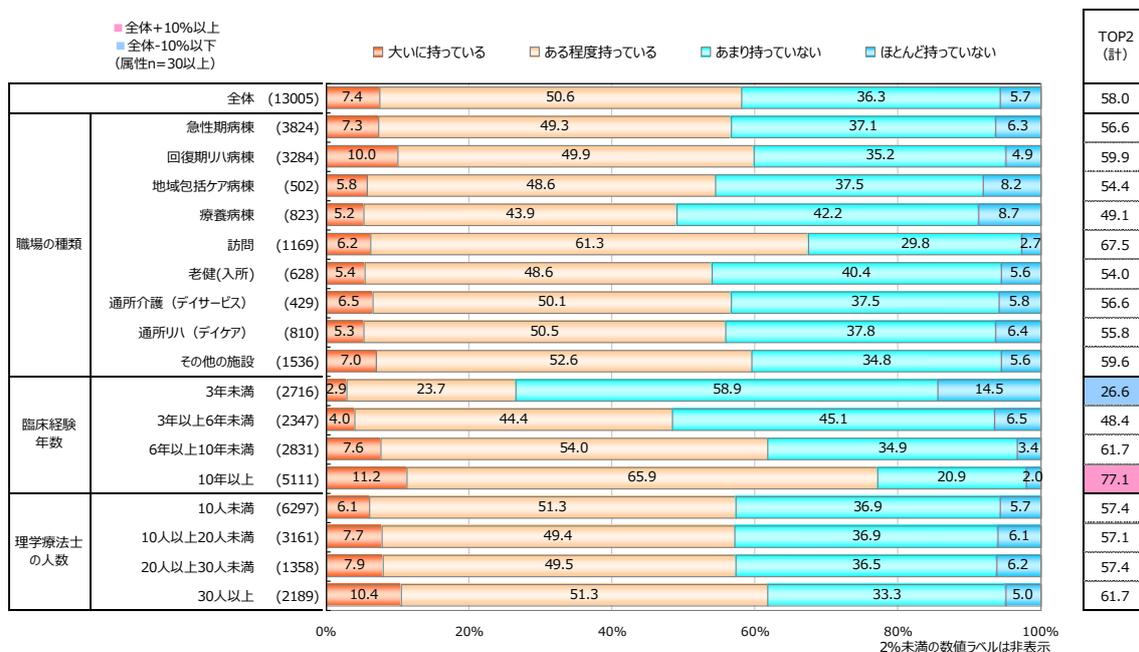
Q10\_1 装具活用の意義・目的に関する知識について、あなたは理学療法士がどの程度持つべきだと思いますか。(お答えは1つ)



- ✓ 装具活用の意義・目的の知識を理学療法士がどの程度持つべきかについては、「大いに持つべき」は64.3%、「ある程度持つべき」(35.0%)を合計すると99.3%である。
- ✓ 職場の種類では、「大いに持つべき」が「回復期リハ病棟」(74.6%)で最も多く、次に「訪問」(66.5%)が続く。
- ✓ 臨床経験年数が多いほど、装具活用の意義・目的の知識を「大いに持つべき」が増加する。
- ✓ 職場の理学療法士の人数が多いほど、装具活用の意義・目的の知識を「大いに持つべき」が増加する。

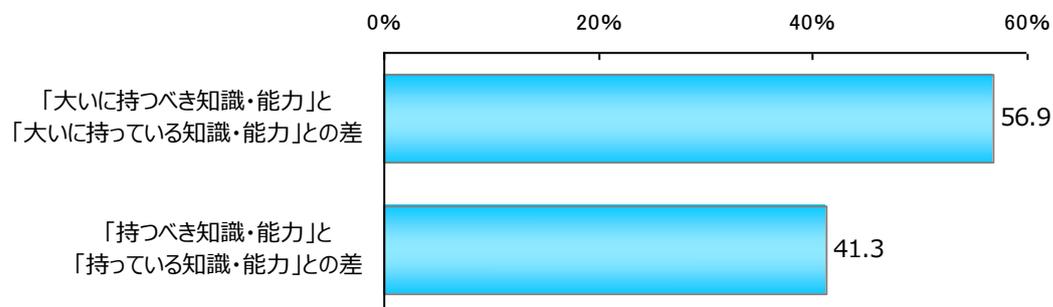
## 1-2)回答者の装具活用の意義・目的の知識

Q10\_2 装具活用の意義・目的に関する知識について、あなたはどの程度持っていますか。  
(お答えは1つ)



- ✓ 回答者の装具活用の意義・目的の知識については、「大いに持っている」は 7.4%、「ある程度持っている」は 50.6%で、合計した「知識・能力保有数」は 58.0%である。
- ✓ 職場の種類では、「知識・能力保有数」が「訪問」(67.5%)で最も多く、次に「回復期リハ病棟」(59.9%)が続く。
- ✓ 臨床経験年数が少ないほど、「知識・能力保有数」が少なく、「10年以上」では77.1%であるが、3年未満では26.6%である。
- ✓ 理学療法士の人数では、「30人以上」で「知識・能力保有数」が最も多い。

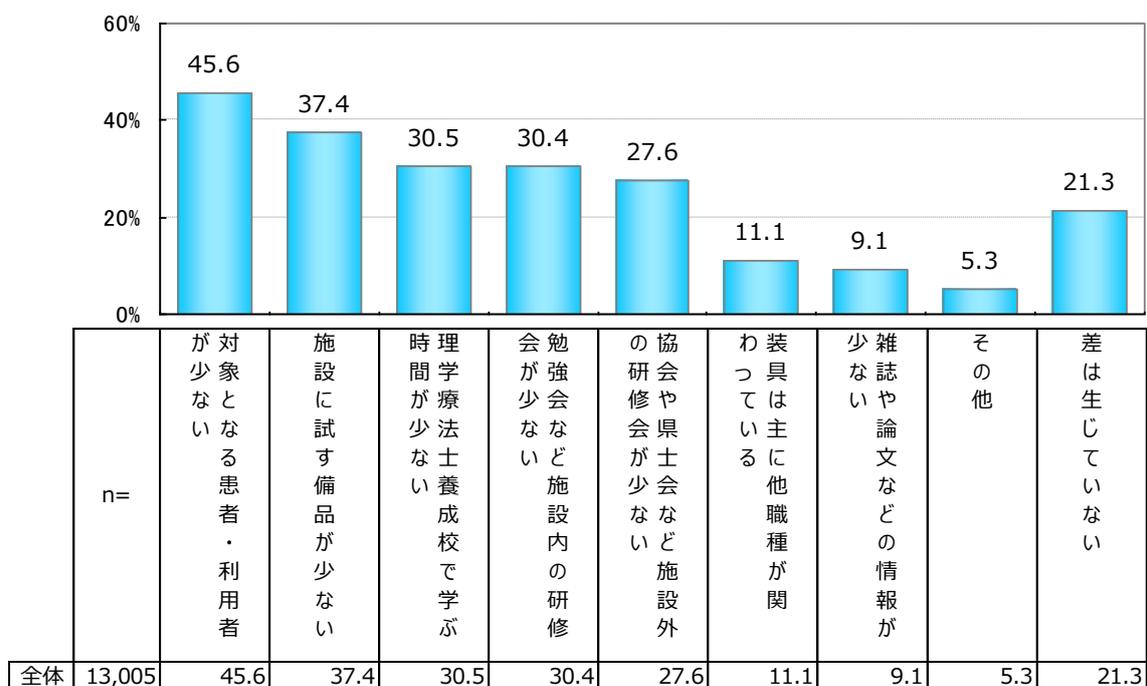
1-3) 装具活用の意義・目的の知識に対する理想と実際のギャップ



- ✓ 装具活用の意義・目的の知識において、「大いに持つべき知識・能力」と「大いに持っている知識・能力」とのギャップは、56.9pt であり、「持つべき知識・能力」と「持っている知識・能力」とのギャップは、41.3pt である。

1-4)装具活用の意義・目的の知識に対する理想と実際のギャップの理由

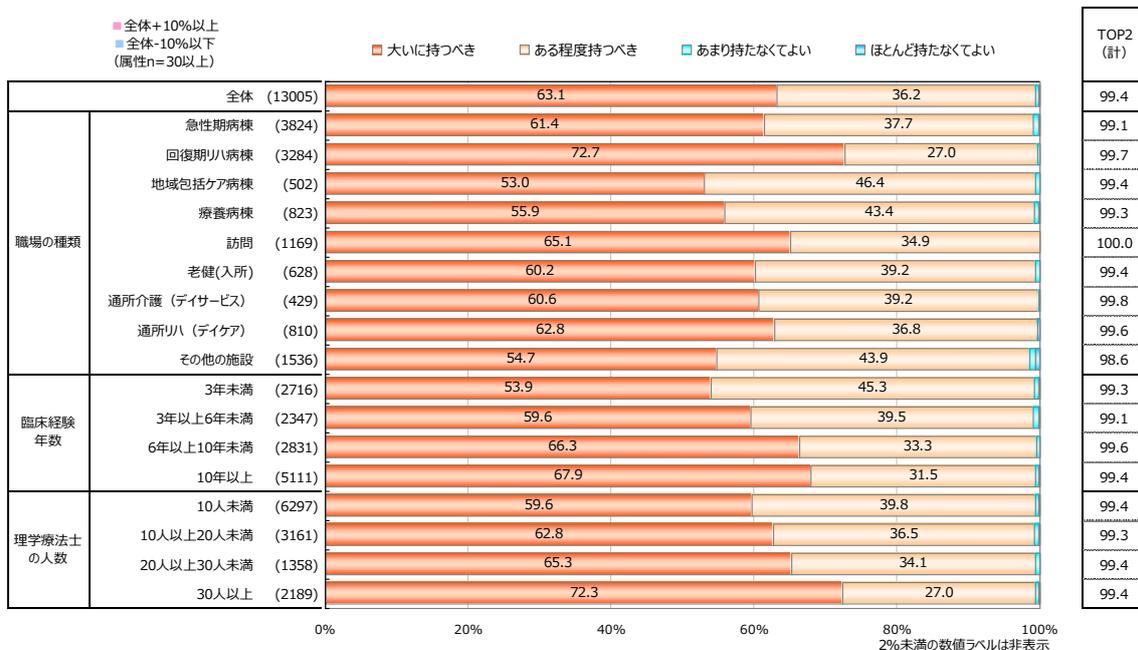
Q11 装具活用の意義・目的についての知識について、【】と考えているのに実際には【】となっている理由をお答えください。(お答えはいくつでも)



- ✓ 装具活用の意義・目的の知識において、理想と実際のギャップの理由で最も多いのは、「対象となる患者・利用者が少ない」(45.6%)である。次いで「施設に試す備品が少ない」(37.4%)、「理学療法士養成校で学ぶ時間が少ない」(30.5%)、「勉強会など施設内の研修会が少ない」(30.4%)と続く。

## 2-1)装具の種類と適応の知識を理学療法士がどの程度持つべきか

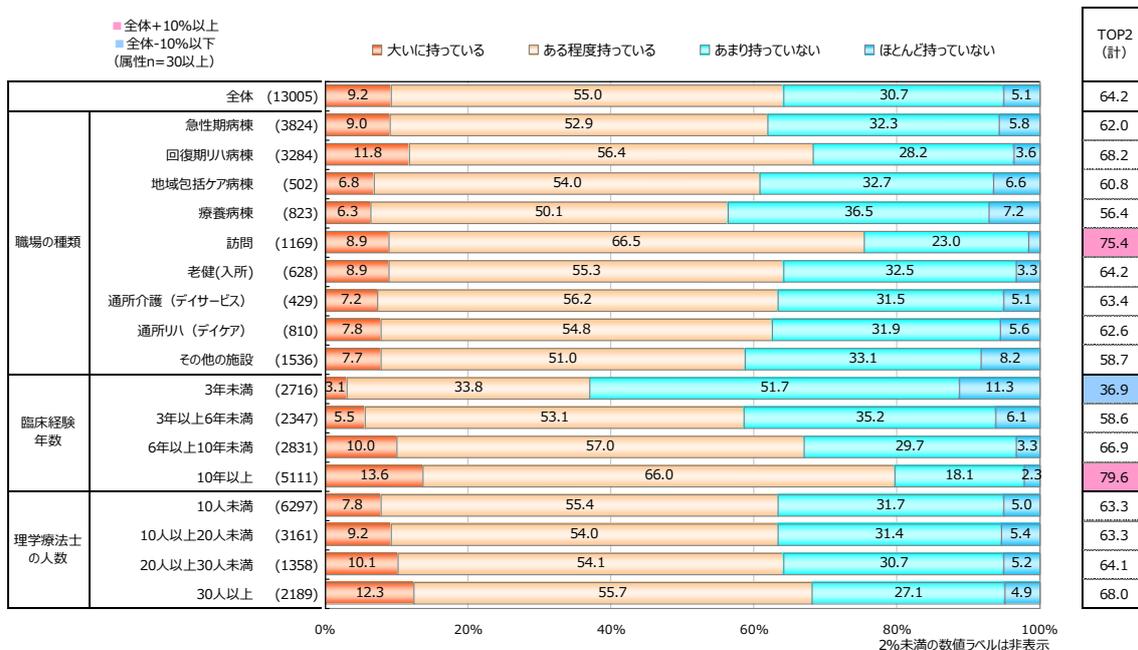
Q12\_1 装具の種類(長下肢装具、プラスチック短下肢装具、オルトトップ等)と適応に関する知識について、あなたは理学療法士がどの程度持つべきだと思いますか。(お答えは1つ)



- ✓ 装具の種類と適応の知識を理学療法士がどの程度持つべきかについては、「大いに持つべき」は63.1%、「ある程度持つべき」(36.2%)を合計すると99.4%である。
- ✓ 職場の種類では、「大いに持つべき」が「回復期リハ病棟」(72.7%)で最も多く、次に「訪問」(65.1%)が続く。
- ✓ 臨床経験年数が多いほど、装具の種類と適応の知識を「大いに持つべき」が増加する。
- ✓ 職場の理学療法士の人数が多いほど、装具の種類と適応の知識を「大いに持つべき」が増加する。

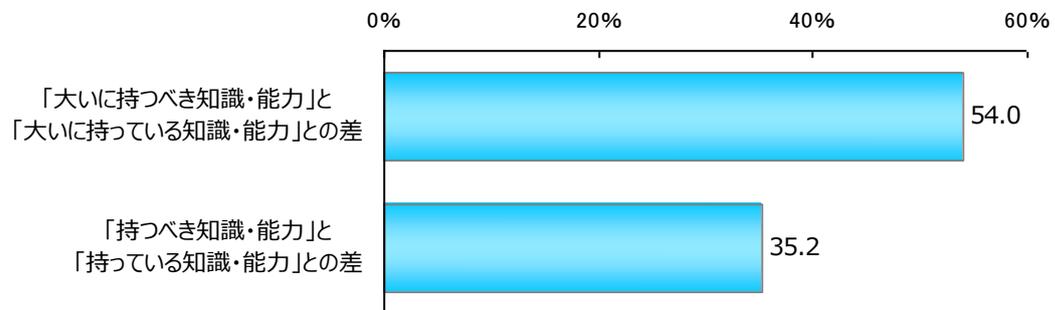
## 2-2)回答者の装具の種類と適応の知識

Q12\_2 装具の種類(長下肢装具、プラスチック短下肢装具、オルトトップ等)と適応に関する知識について、あなたはどの程度持っていますか。(お答えは1つ)



- ✓ 回答者の下肢装具の種類と適応の知識については、「大いに持っている」は 9.2%、「ある程度持っている」は 55.0%で、合計した「知識・能力保有数」は 64.2%である。
- ✓ 職場の種類では、「知識・能力保有数」が「訪問」(75.4%)で最も多く、次に「回復期リハ病棟」(68.2%)が続く。
- ✓ 臨床経験年数が少ないほど、「知識・能力保有数」が少なく、「10年以上」では 79.6%であるが、3年未満では 36.9%である。
- ✓ 理学療法士の人数では、「30人以上」で「知識・能力保有数」が最も多い。

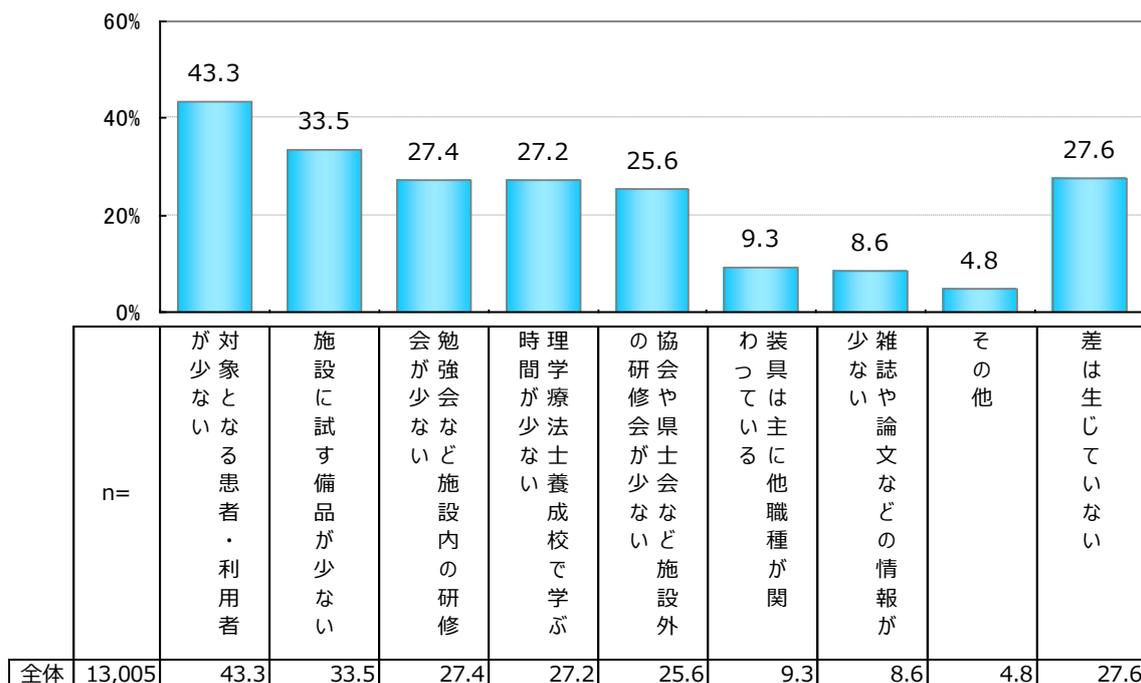
### 2-3) 装具の種類と適応に関する知識に対する理想と実際のギャップ



- ✓ 装具の種類と適応に関する知識において、「大いに持つべき知識・能力」と「大いに持っている知識・能力」とのギャップは、54.0pt であり、「持つべき知識・能力」と「持っている知識・能力」とのギャップは、35.2pt である。

2-4)装具の種類と適応に関する知識に対する理想と実際のギャップの理由

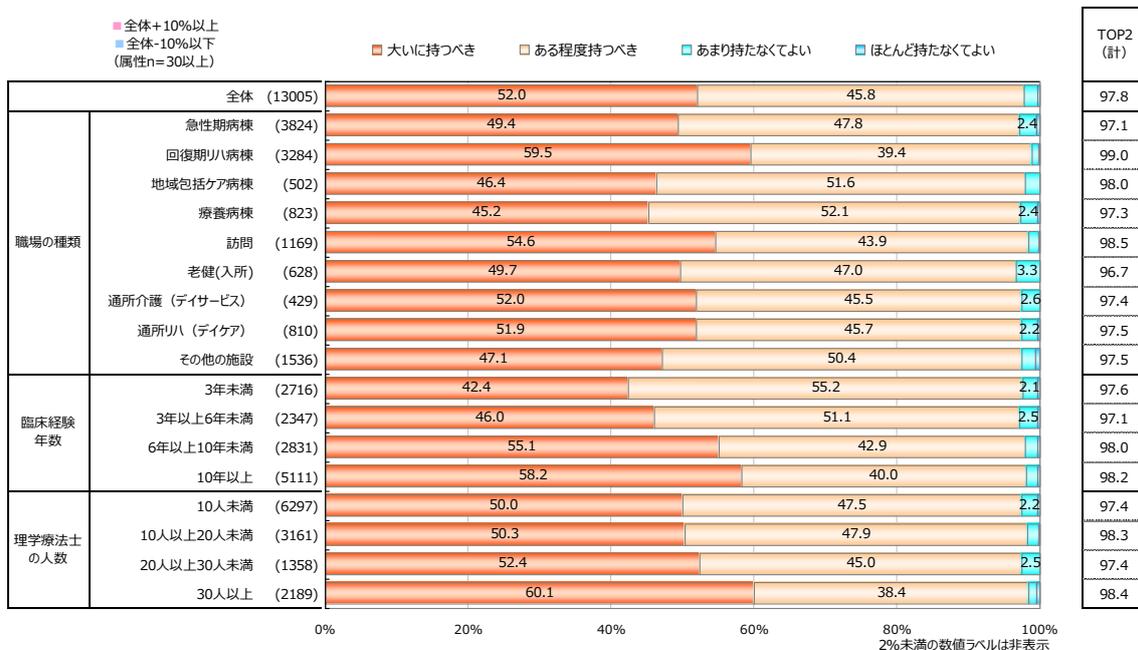
Q13 装具の種類(長下肢装具、プラスチック短下肢装具、オルトトップ等)と適応に関する知識について、【】と考えているのに実際には【】となっている理由をお答えください。(お答えはいくつでも)



装具の種類と適応に関する知識において、理想と実際のギャップの理由で最も多いのは、「対象となる患者・利用者が少ない」(43.3%)である。次いで「施設に試す備品が少ない」(33.5%)、「差は生じていない」(27.6%)、「勉強会など施設内の研修会が少ない」(27.4%)と続く。

### 3-1)装具部品の種類と適応の知識を理学療法士がどの程度持つべきか

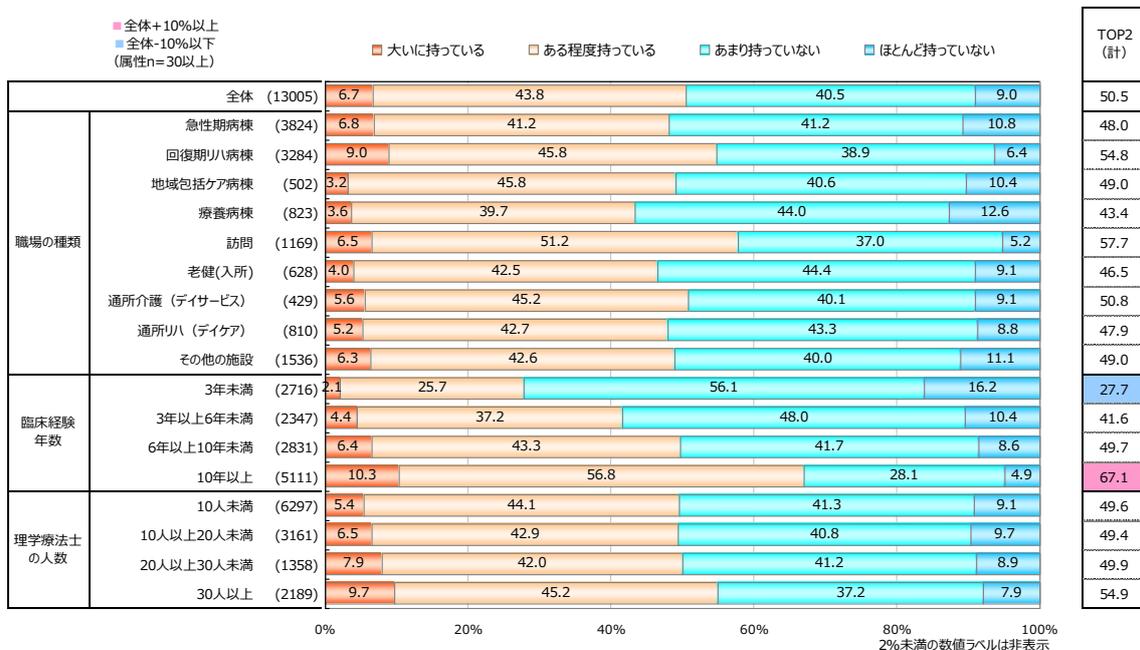
Q14\_1 装具の部品(膝・足継手、T ストラップ、膝パッド等)の種類と適応に関する知識について、あなたは理学療法士がどの程度持つべきだと思いますか。(お答えは1つ)



- ✓ 装具部品の種類と適応の知識を理学療法士がどの程度持つべきかについては、「大いに持つべき」は52.0%、「ある程度持つべき」(45.8%)を合計すると97.8%である。
- ✓ 職場の種類では、「大いに持つべき」が「回復期リハ病棟」(59.5%)で最も多く、次に「訪問」(54.6%)が続く。
- ✓ 臨床経験年数が多いほど、装具部品の種類と適応の知識を「大いに持つべき」が増加する。
- ✓ 職場の理学療法士の人数が多いほど、装具部品の種類と適応の知識を「大いに持つべき」が増加する。

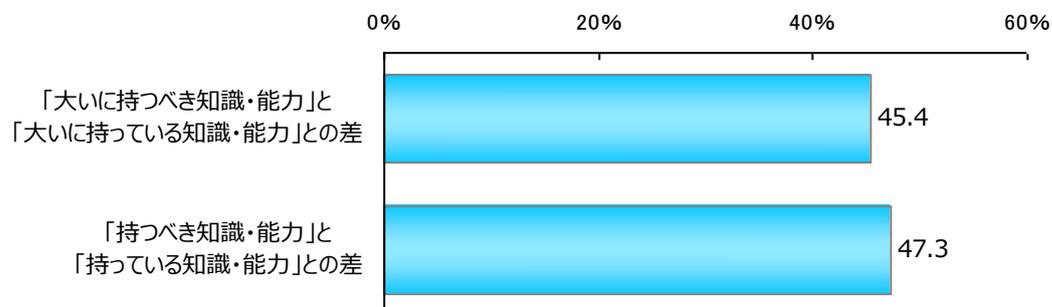
### 3-2)回答者の装具部品の種類と適応の知識

Q14.2 装具の部品(膝・足継手、T ストラップ、膝パッド等)の種類と適応に関する知識について、あなたはどの程度持っていますか。(お答えは1つ)



- ✓ 回答者の装具部品の種類と適応の知識については、「大いに持っている」は 6.7%、「ある程度持っている」は 43.8%で、合計した「知識・能力保有数」は 50.5%である。
- ✓ 職場の種類では、「知識・能力保有数」が「訪問」(57.7%)で最も多く、次に「回復期リハ病棟」(54.8%)が続く。
- ✓ 臨床経験年数が少ないほど、「知識・能力保有数」が少なく、「10年以上」では67.1%であるが、3年未満では27.7%である。
- ✓ 理学療法士の人数では、「30人以上」で「知識・能力保有数」が最も多い。

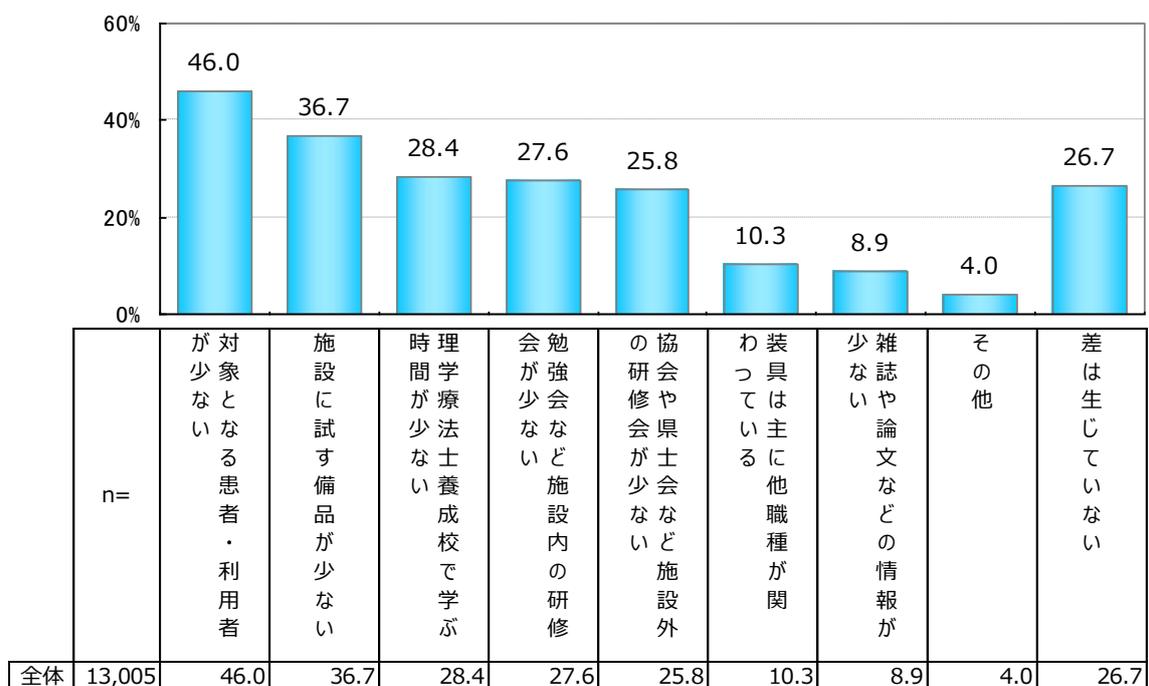
### 3-3) 装具の部品の種類と適応の知識に対する理想と実際のギャップ



- ✓ 装具の部品の種類と適応の知識において、「大いに持つべき知識・能力」と「大いに持っている知識・能力」とのギャップは、45.4pt であり、「持つべき知識・能力」と「持っている知識・能力」とのギャップは、47.3pt である。

### 3-4)装具の部品の種類と適応の知識に対する理想と実際のギャップの理由

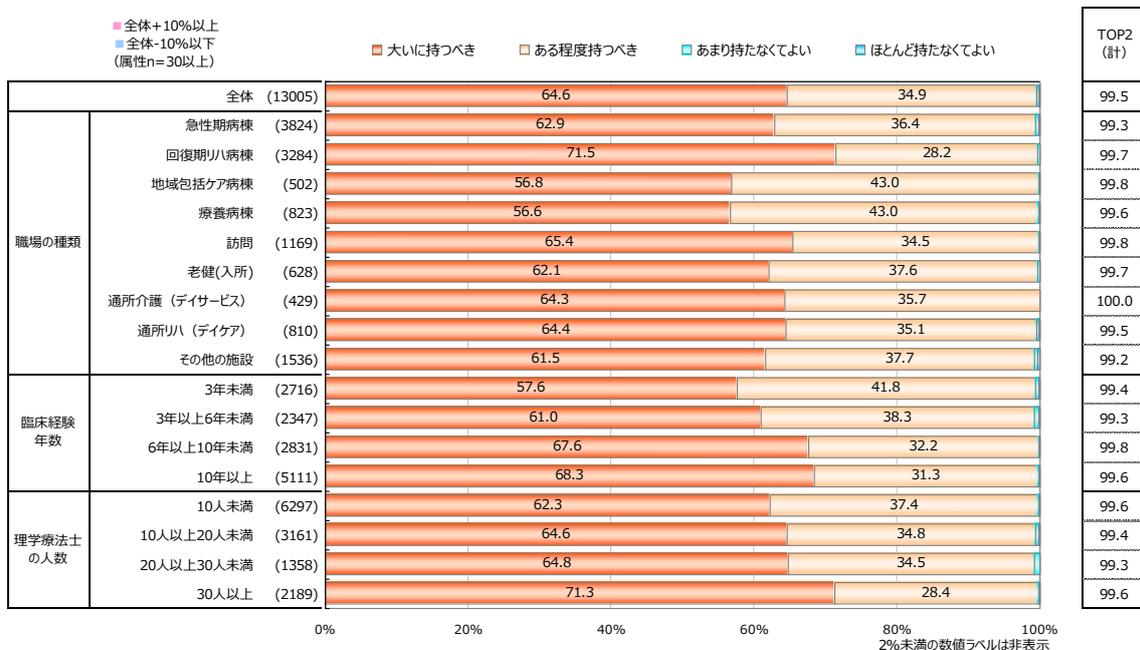
Q15 装具の部品(膝・足継手、T ストラップ、膝パッド等)の種類と適応に関する知識について、【】と考えているのに実際には【】となっている理由をお答えください。(お答えはいくつでも)



装具の部品の種類と適応の知識において、理想と実際のギャップの理由で最も多いのは、「対象となる患者・利用者が少ない」(46.0%)である。次いで「施設に試す備品が少ない」(36.7%)、「理学療法士養成校で学ぶ時間が少ない」(28.4%)、「勉強会など施設内の研修会が少ない」(27.6%)と続く。

#### 4-1) 装具活用の疾患や病態の知識を理学療法士がどの程度持つべきか

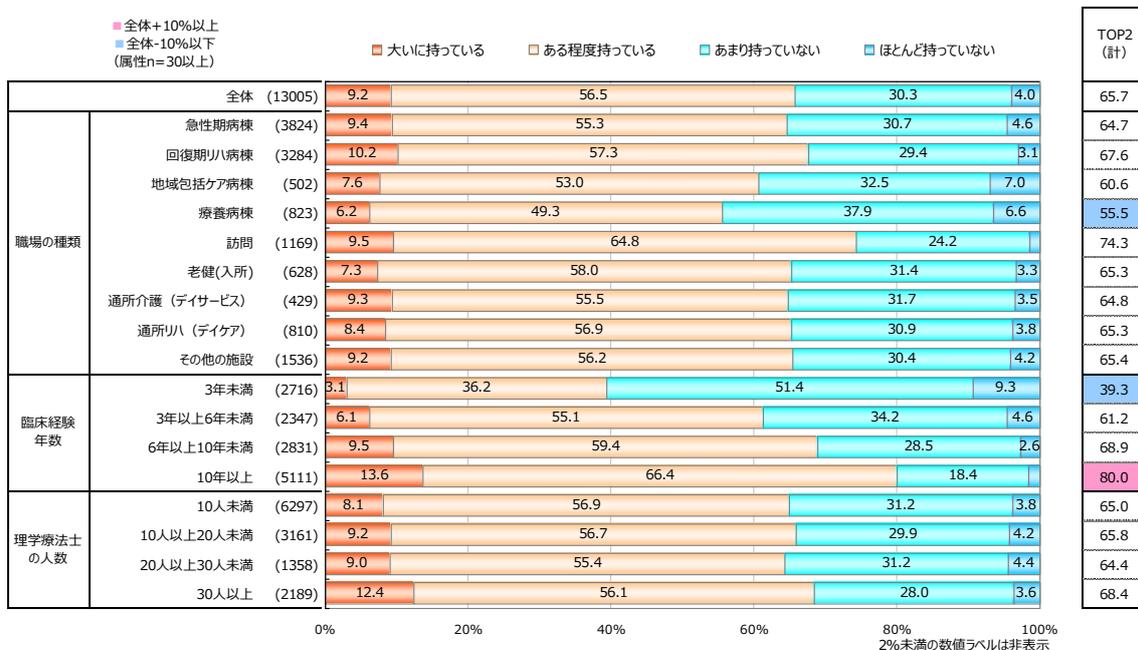
Q16\_1 装具の活用に関わる疾患や病態に関する知識について、あなたは理学療法士がどの程度持つべきだと思いますか。(お答えは1つ)



- ✓ 装具活用の疾患や病態の知識を理学療法士がどの程度持つべきかについては、「大いに持つべき」は64.6%、「ある程度持つべき」(34.9%)を合計すると99.5%である。
- ✓ 職場の種類では、「大いに持つべき」が「回復期リハ病棟」(71.5%)で最も多く、次に「訪問」(65.4%)が続く。
- ✓ 臨床経験年数が多いほど、装具活用の疾患や病態の知識を「大いに持つべき」が増加する。
- ✓ 職場の理学療法士の人数が多いほど、装具活用の疾患や病態の知識を「大いに持つべき」が増加する。

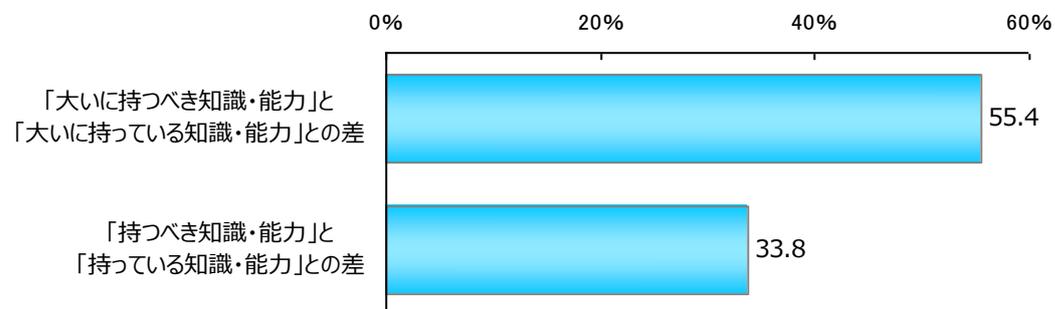
#### 4-2)回答者の装具活用の疾患や病態の知識

Q16\_2 装具の活用に関わる疾患や病態に関する知識について、あなたはどの程度持っていますか。(お答えは1つ)



- ✓ 回答者の装具活用の疾患や病態の知識については、「大いに持っている」は9.2%、「ある程度持っている」は56.5%で、合計した「知識・能力保有数」は65.7%である。
- ✓ 職場の種類では、「知識・能力保有数」が「訪問」(74.3%)で最も多く、次に「回復期リハ病棟」(67.6%)が続く。
- ✓ 臨床経験年数が少ないほど、「知識・能力保有数」が少なく、「10年以上」では80.0%であるが、3年未満では39.3%である。
- ✓ 理学療法士の人数では、「30人以上」で「知識・能力保有数」が最も多い。

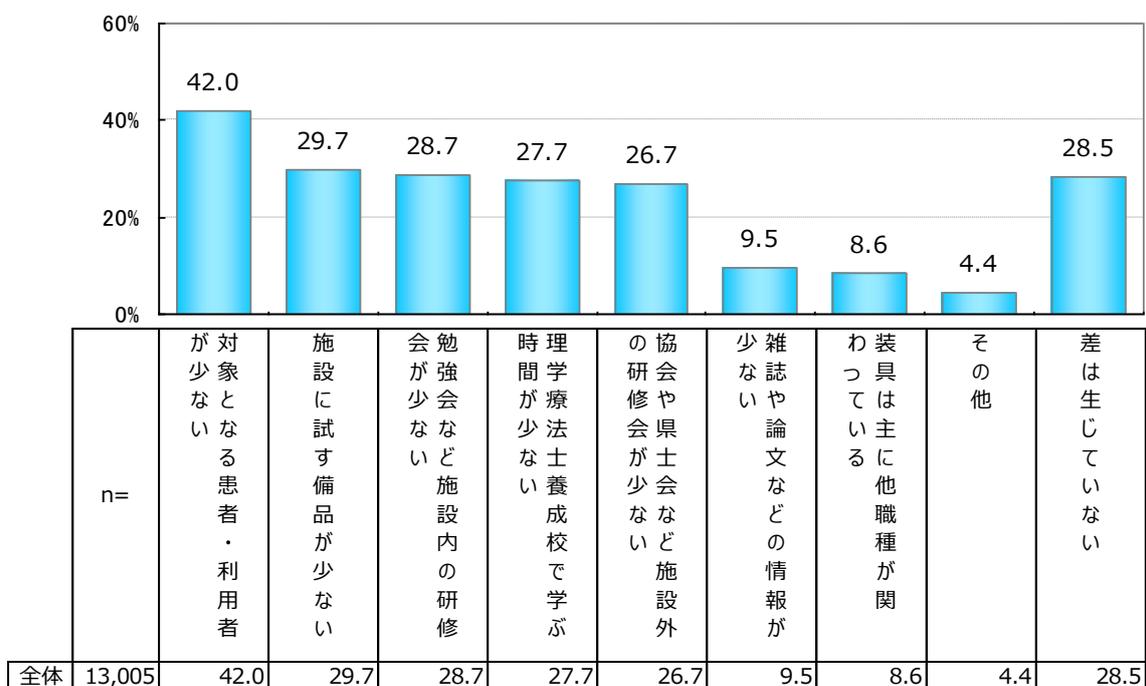
#### 4-3) 装具の活用に関わる疾患や病態に関する知識に対する理想と実際のギャップ



- ✓ 装具の活用に関わる疾患や病態に関する知識において、「大いに持つべき知識・能力」と「大いに持っている知識・能力」とのギャップは、55.4pt であり、「持つべき知識・能力」と「持っている知識・能力」とのギャップは、33.8pt である。

4-4)装具の活用に関わる疾患や病態に関する知識に対する理想と実際のギャップの理由

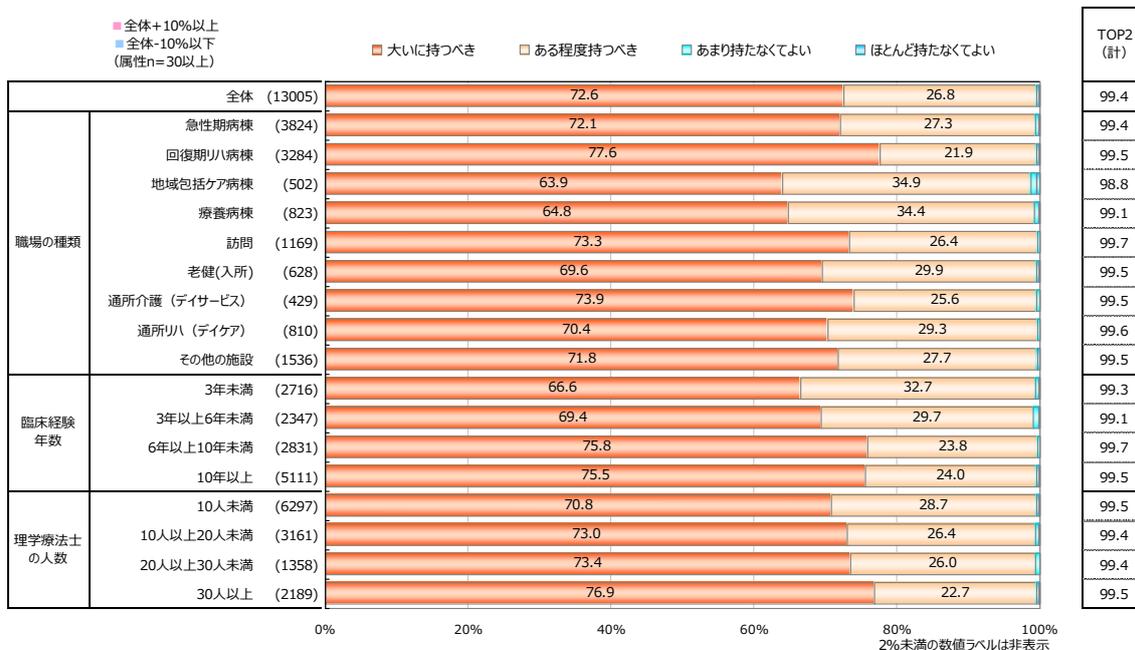
Q17 装具の活用に関わる疾患や病態に関する知識について、【】と考えているのに実際には【】となっている理由をお答えください。(お答えはいくつでも)



装具の活用に関わる疾患や病態に関する知識において、理想と実際のギャップの理由で最も多いのは、「対象となる患者・利用者が少ない」(42.0%)である。次いで「施設に試す備品が少ない」(29.7%)、「勉強会など施設内の研修会が少ない」(28.7%)、「差は生じていない」(28.5%)と続く。

## 5-1)装具活用の機能解剖学の知識を理学療法士がどの程度持つべきか

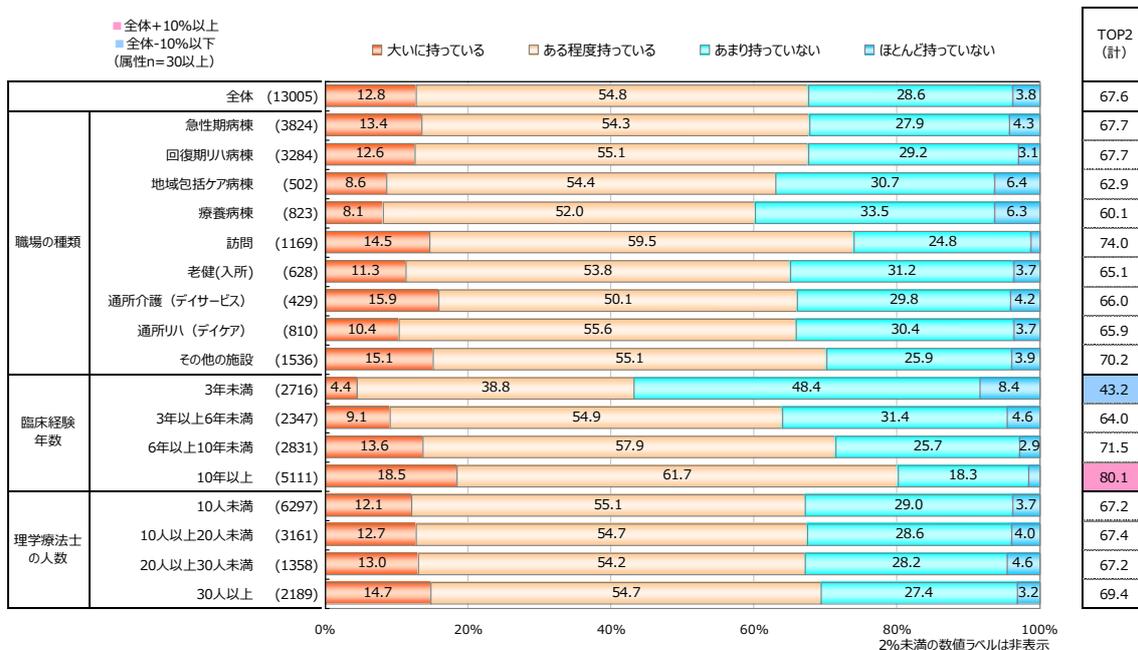
Q18\_1 装具の活用に関わる機能解剖学(筋肉の働き等)に関する知識について、あなたは理学療法士がどの程度持つべきだと思いますか。(お答えは1つ)



- ✓ 装具活用の機能解剖学の知識を理学療法士がどの程度持つべきかについては、「大いに持つべき」は72.6%、「ある程度持つべき」(26.8%)を合計すると99.4%である。
- ✓ 職場の種類では、「大いに持つべき」が「回復期リハ病棟」(77.6%)で最も多く、次に「通所介護(デイサービス)」(73.9%)が続く。
- ✓ 臨床経験年数が多いほど、装具活用の機能解剖学の知識を「大いに持つべき」が増加する傾向にある。
- ✓ 職場の理学療法士の人数が多いほど、装具活用の機能解剖学の知識を「大いに持つべき」が増加する。

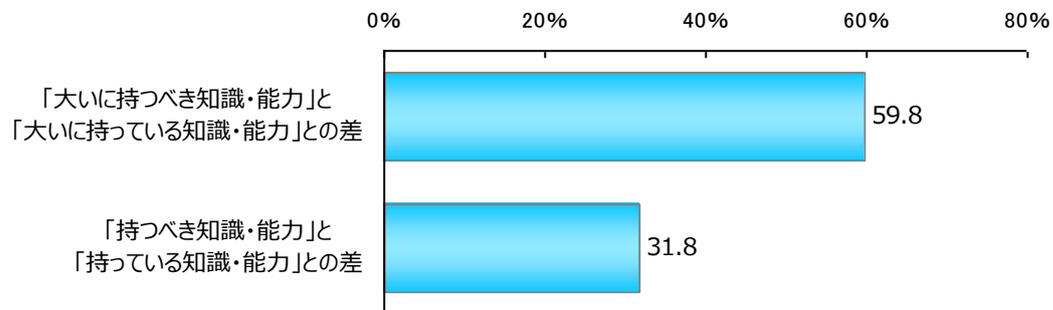
## 5-2)回答者の装具活用の機能解剖学の知識

Q18\_2 装具の活用に関わる機能解剖学(筋肉の働き等)に関する知識について、あなたはどの程度持っていますか。(お答えは1つ)



- ✓ 回答者の装具活用の機能解剖学の知識については、「大いに持っている」は 12.8%、「ある程度持っている」は 54.8%で、合計した「知識・能力保有数」は 67.6%である。
- ✓ 職場の種類では、「知識・能力保有数」が「訪問」(74.0%)で最も多く、次に「その他の施設」(70.2%)が続く。
- ✓ 臨床経験年数が少ないほど、「知識・能力保有数」が少なく、「10年以上」では 80.1%であるが、3年未満では 43.2%である。
- ✓ 理学療法士の人数では、「30人以上」で「知識・能力保有数」が最も多い。

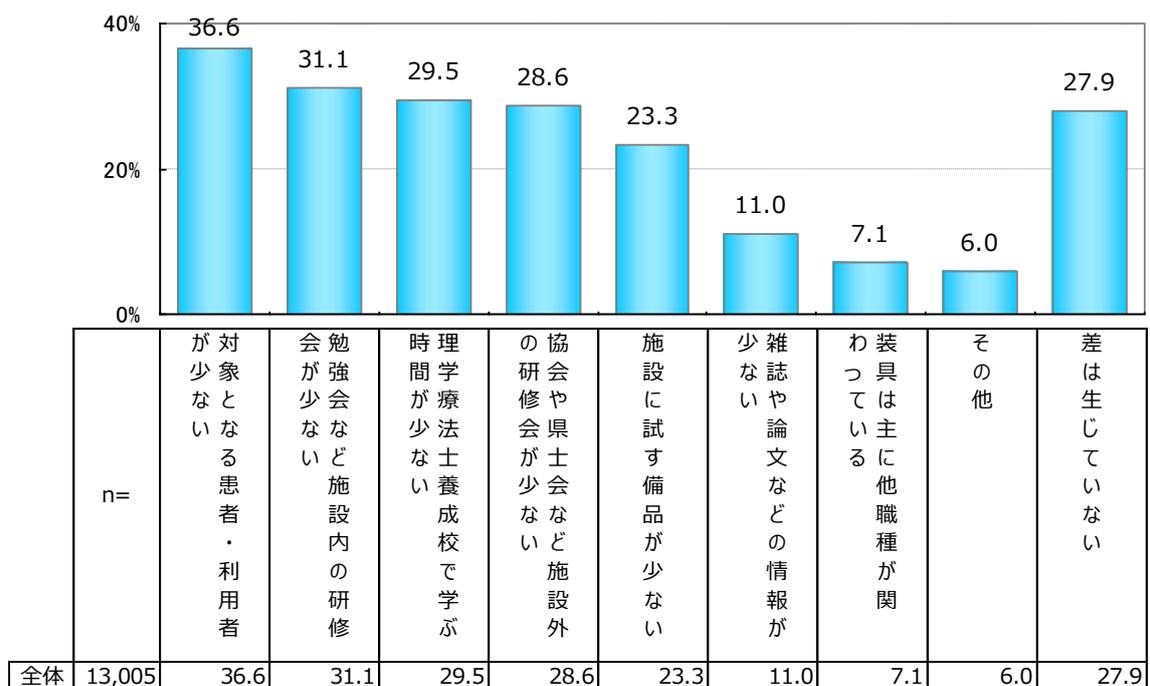
### 5-3) 装具の活用に関わる機能解剖学の知識に対する理想と実際のギャップ



- ✓ 装具の活用に関わる機能解剖学の知識において、「大いに持つべき知識・能力」と「大いに持っている知識・能力」とのギャップは、59.8pt であり、「持つべき知識・能力」と「持っている知識・能力」とのギャップは、31.8pt である。

5-4)装具の活用に関わる機能解剖学の知識に対する理想と実際のギャップの理由

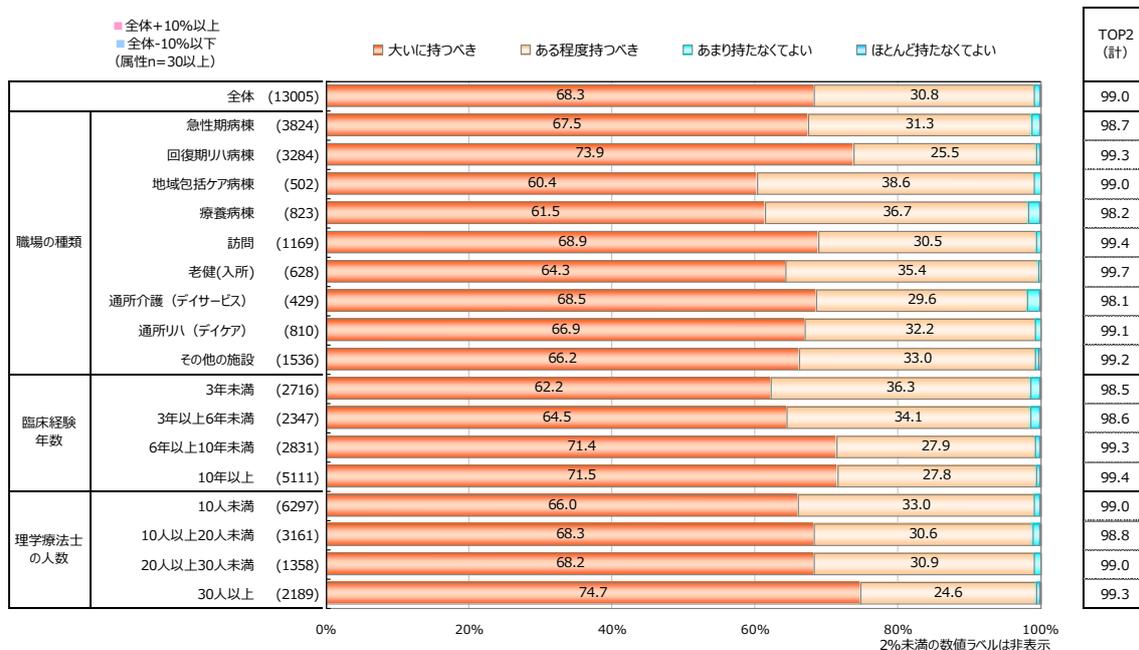
Q19 装具の活用に関わる機能解剖学(筋肉の働き等)に関する知識について、【】と考えているのに実際には【】となっている理由をお答えください。(お答えはいくつでも)



装具の活用に関わる機能解剖学の知識において、理想と実際のギャップの理由で最も多いのは、「対象となる患者・利用者が少ない」(36.6%)である。次いで「勉強会など施設内の研修会が少ない」(31.1%)、「理学療法士養成校で学ぶ時間が少ない」(29.5%)、「協会や県士会など施設外の研修会が少ない」(28.6%)と続く。

## 6-1)装具の運動学の知識を理学療法士がどの程度持つべきか

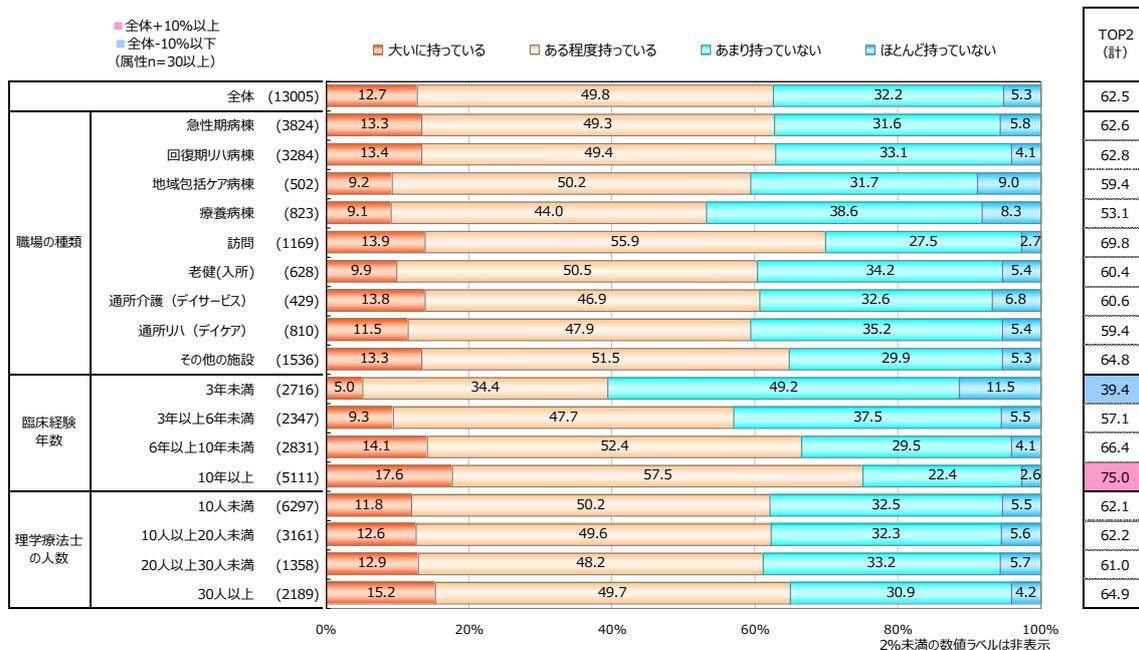
Q20\_1 装具の運動学(重心・支持基底面・モーメント等)に関する知識について、あなたは理学療法士がどの程度持つべきだと思いますか。(お答えは1つ)



- ✓ 装具の運動学の知識を理学療法士がどの程度持つべきかについては、「大いに持つべき」は68.3%、「ある程度持つべき」(30.8%)を合計すると99.0%である。
- ✓ 職場の種類では、「大いに持つべき」が「回復期リハ病棟」(73.9%)で最も多く、次に「訪問」(68.9%)が続く。
- ✓ 臨床経験年数が多いほど、装具の運動学の知識を「大いに持つべき」が増加する。
- ✓ 職場の理学療法士の人数が多いほど、装具の運動学の知識を「大いに持つべき」が増加する傾向にある。

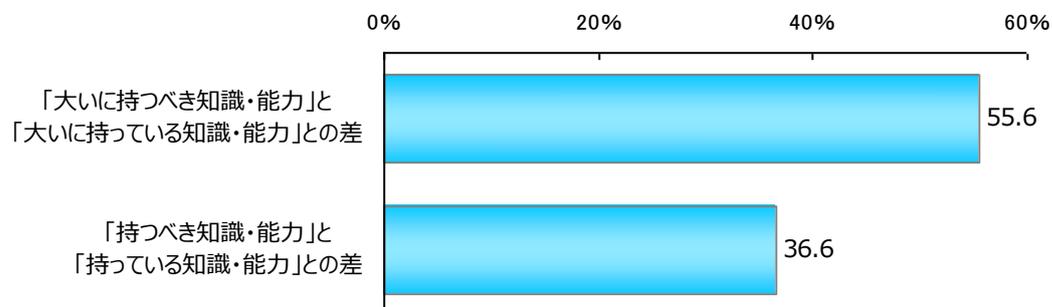
## 6-2)回答者の装具の運動学の知識

Q20\_2 装具の運動学(重心・支持基底面・モーメント等)に関する知識について、あなたはどの程度持っていますか。(お答えは1つ)



- ✓ 回答者の装具の運動学の知識については、「大いに持っている」は 12.7%、「ある程度持っている」は 49.8%で、合計した「知識・能力保有数」は 62.5%である。
- ✓ 職場の種類では、「知識・能力保有数」が「訪問」(69.8%)で最も多く、次に「その他の施設」(64.8%)が続く。
- ✓ 臨床経験年数が少ないほど、「知識・能力保有数」が少なく、「10年以上」では75.0%であるが、3年未満では39.4%である。
- ✓ 理学療法士の人数では、「30人以上」で「知識・能力保有数」が最も多い。

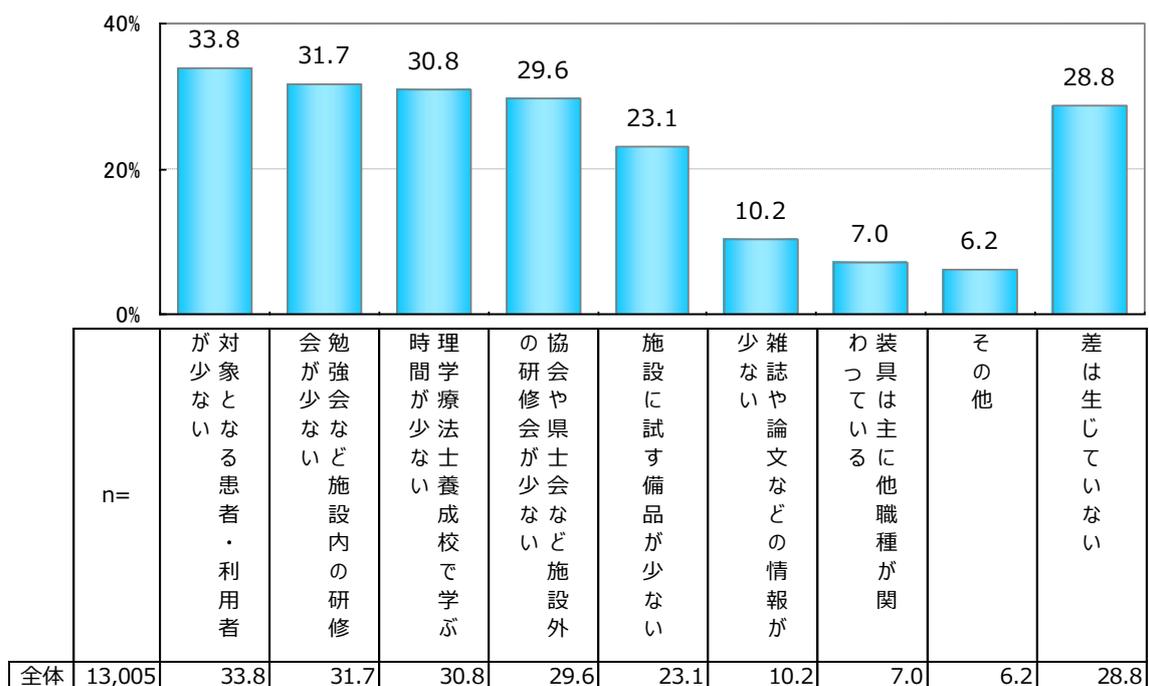
### 6-3) 装具の運動学の知識に対する理想と実際のギャップ



- ✓ 装具の運動学の知識において、「大いに持つべき知識・能力」と「大いに持っている知識・能力」とのギャップは、55.6pt であり、「持つべき知識・能力」と「持っている知識・能力」とのギャップは、36.6pt である。

#### 6-4)装具の運動学の知識に対する理想と実際のギャップの理由

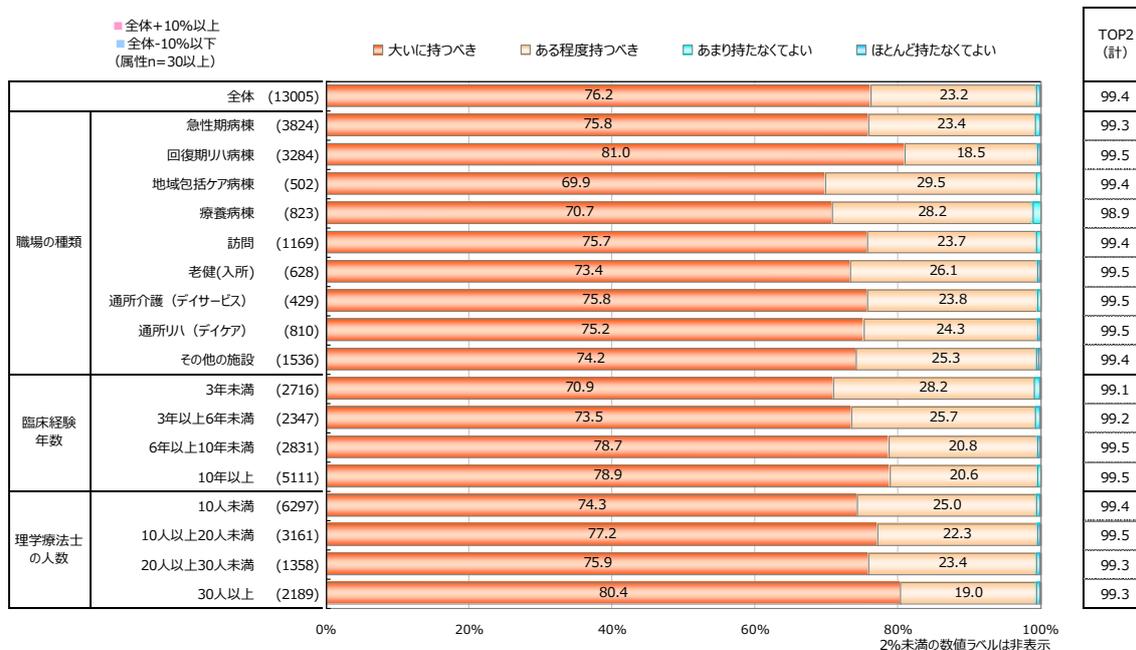
Q21 装具の運動学(重心・支持基底面・モーメント等)に関する知識について、【】と考えているのに実際には【】となっている理由をお答えください。(お答えはいくつでも)



装具の運動学の知識において、理想と実際のギャップの理由で最も多いのは、「対象となる患者・利用者が少ない」(33.8%)である。次いで「勉強会など施設内の研修会が少ない」(31.7%)、「理学療法士養成校で学ぶ時間が少ない」(30.8%)、「協会や県士会など施設外の研修会が少ない」(29.6%)と続く。

## 7-1)正常歩行の知識を理学療法士がどの程度持つべきか

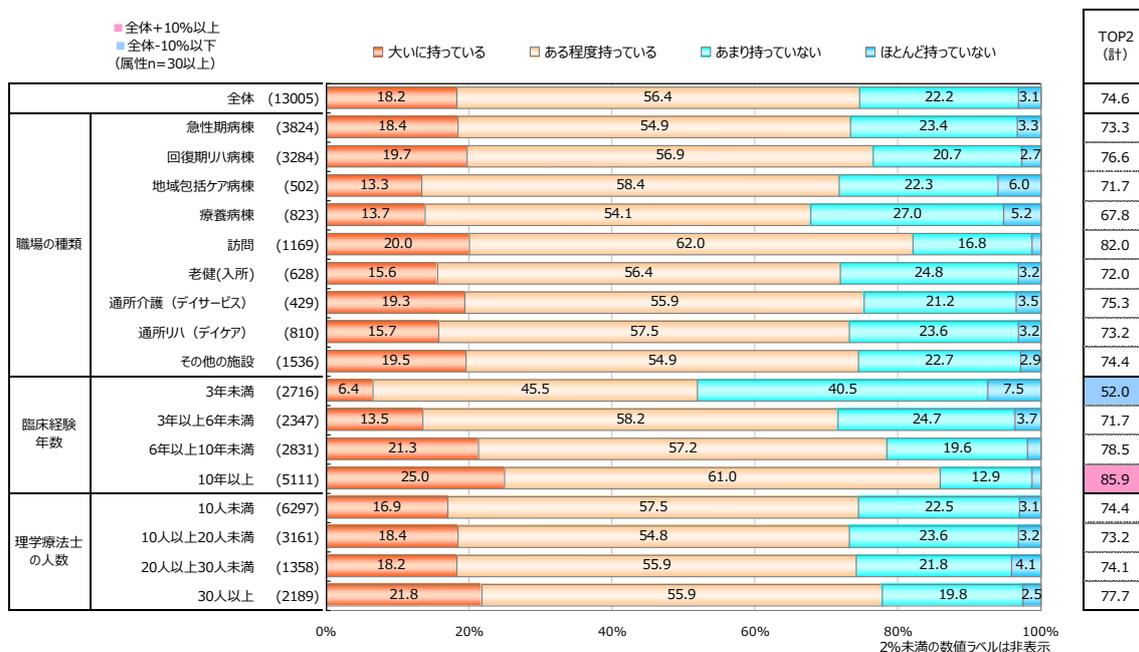
Q22\_1 装具の活用に関わる正常歩行の知識について、あなたは理学療法士がどの程度持つべきだと思いますか。(お答えは1つ)



- ✓ 正常歩行の知識を理学療法士がどの程度持つべきかについては、「大いに持つべき」は76.2%、「ある程度持つべき」(23.2%)を合計すると99.4%である。
- ✓ 職場の種類では、「大いに持つべき」が「回復期リハ病棟」(81.0%)で最も多く、次に「通所介護(デイサービス)」(75.8%)が続く。
- ✓ 臨床経験年数が多いほど、正常歩行の知識を「大いに持つべき」が増加する。
- ✓ 職場の理学療法士の人数が多いほど、正常歩行の知識を「大いに持つべき」が増加する傾向にある。

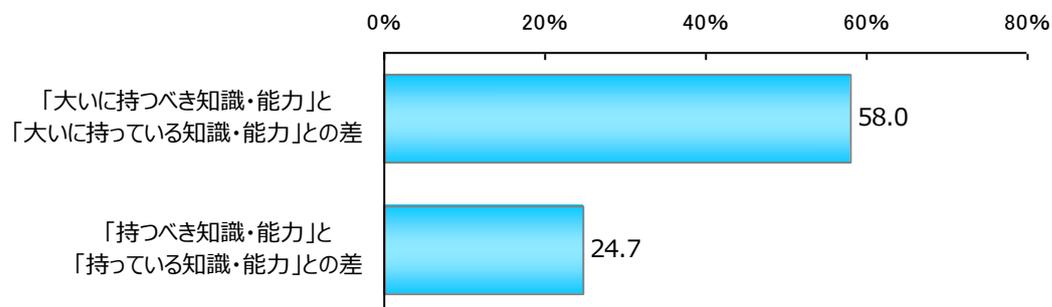
## 7-2)回答者の正常歩行の知識

Q22\_2 装具の活用に関わる正常歩行の知識について、あなたはどの程度持っていますか。  
(お答えは1つ)



- ✓ 回答者の正常歩行の知識については、「大いに持っている」は18.2%、「ある程度持っている」は56.4%で、合計した「知識・能力保有数」は74.6%である。
- ✓ 職場の種類では、「知識・能力保有数」が「訪問」(82.0%)で最も多く、次に「回復期リハ病棟」(76.6%)が続く。
- ✓ 臨床経験年数が少ないほど、「知識・能力保有数」が少なく、「10年以上」では85.9%であるが、3年未満では52.0%である。
- ✓ 理学療法士の人数では、「30人以上」で「知識・能力保有数」が最も多い。

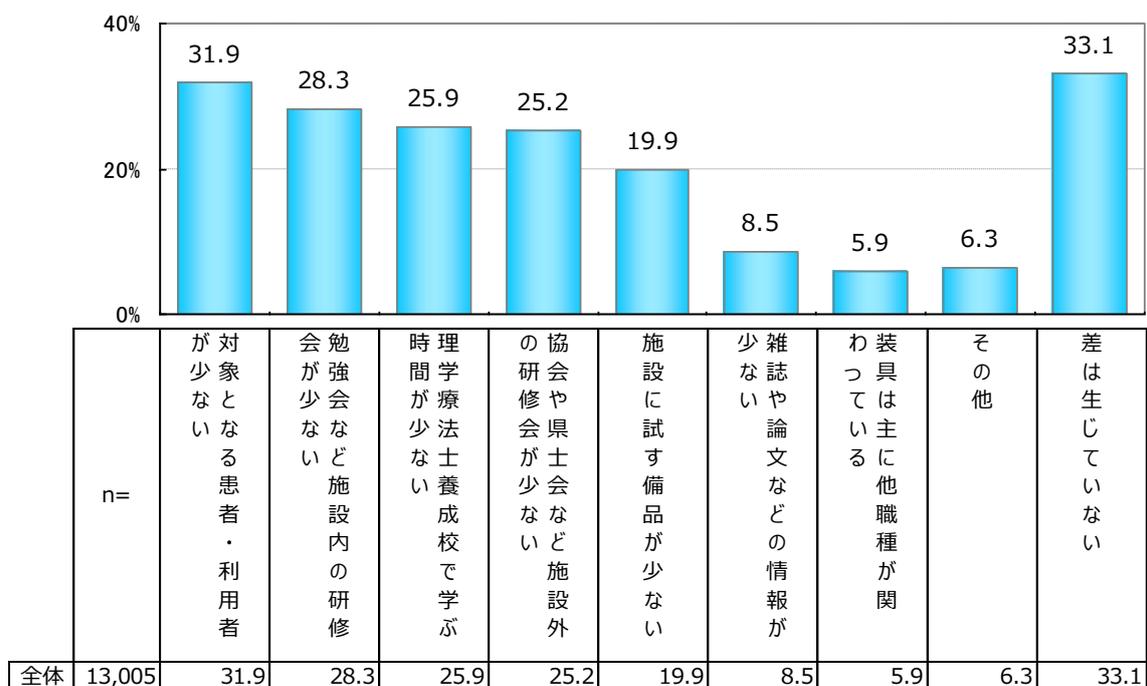
### 7-3) 装具活用の正常歩行の知識に対する理想と実際のギャップ



- ✓ 装具活用の正常歩行の知識において、「大いに持つべき知識・能力」と「大いに持っている知識・能力」とのギャップは、58.0pt であり、「持つべき知識・能力」と「持っている知識・能力」とのギャップは、24.7pt である。

7-4)装具活用の正常歩行の知識に対する理想と実際のギャップの理由

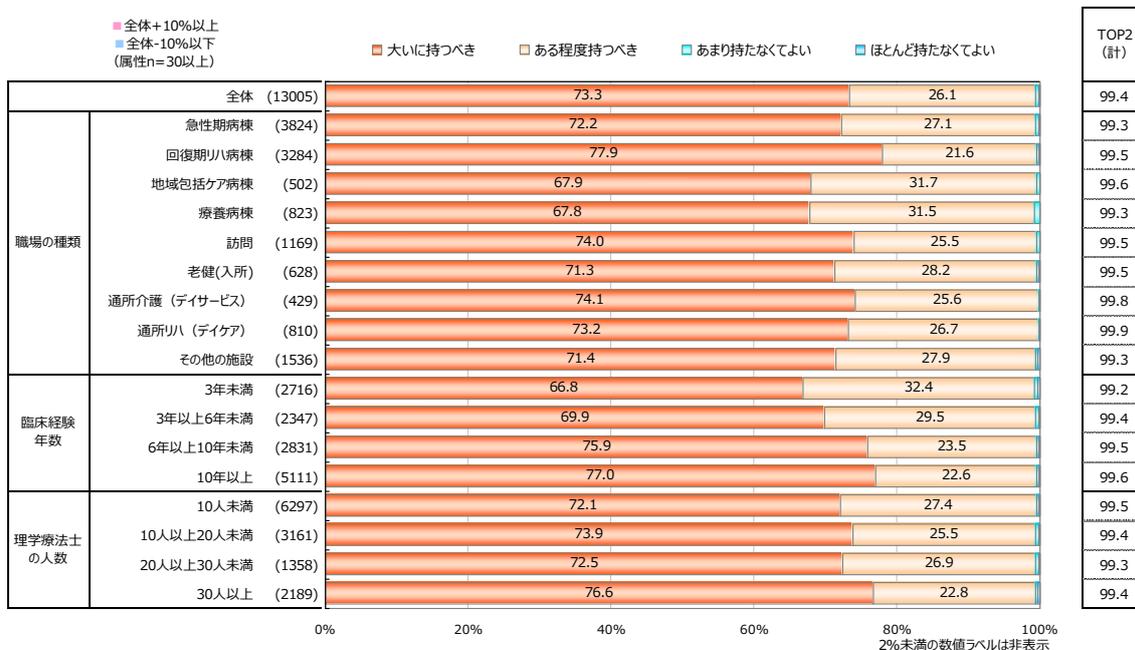
Q23 装具の活用に関わる正常歩行の知識について、【】と考えているのに実際には【】となっている理由をお答えください。(お答えはいくつでも)



装具活用の正常歩行の知識において、理想と実際のギャップの理由で最も多いのは、「差は生じていない」(33.1%)である。次いで「対象となる患者・利用者が少ない」(31.9%)、「勉強会など施設内の研修会が少ない」(28.3%)、「理学療法士養成校で学ぶ時間が少ない」(25.9%)と続く。

## 8-1)異常歩行の知識を理学療法士がどの程度持つべきか

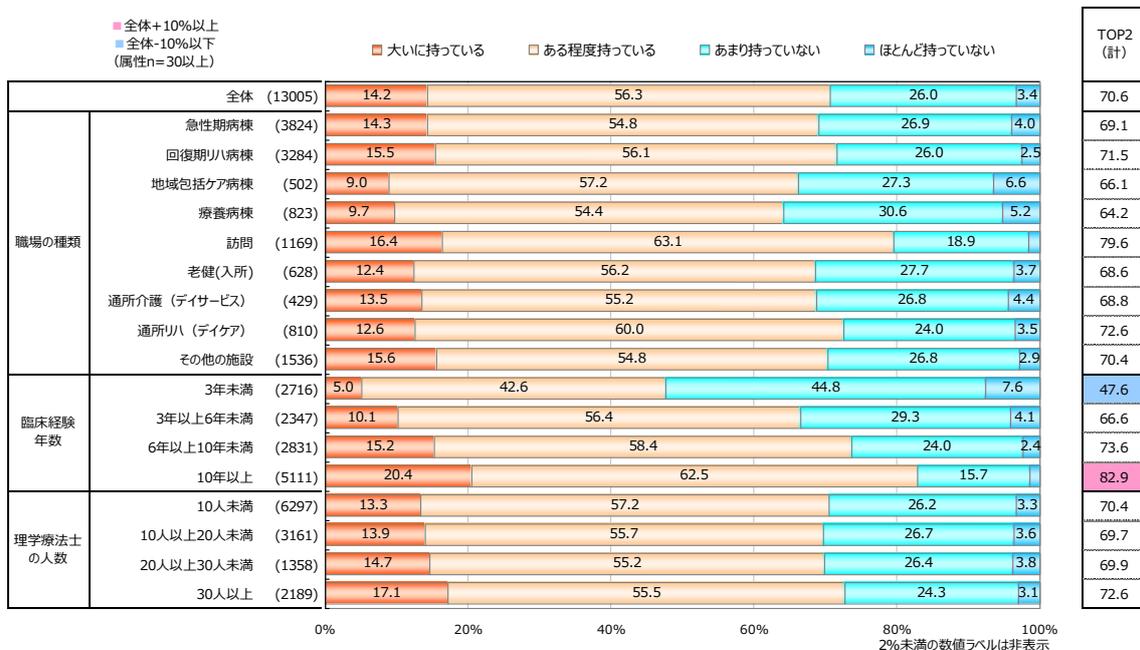
Q24\_1 装具の活用に関わる異常歩行の知識について、あなたは理学療法士がどの程度持つべきだと思いますか。(お答えは1つ)



- ✓ 異常歩行の知識を理学療法士がどの程度持つべきかについては、「大いに持つべき」は73.3%、「ある程度持つべき」(26.1%)を合計すると99.4%である。
- ✓ 職場の種類では、「大いに持つべき」が「回復期リハ病棟」(77.9%)で最も多く、次に「通所介護(デイサービス)」(74.1%)が続く。
- ✓ 臨床経験年数が多いほど、異常歩行の知識を「大いに持つべき」が増加する。
- ✓ 職場の理学療法士の人数が多いほど、異常歩行の知識を「大いに持つべき」が増加する傾向にある。

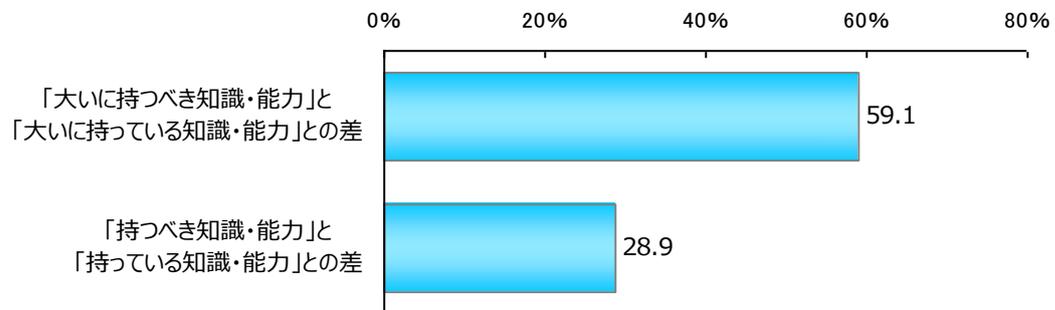
## 8-2)回答者の異常歩行の知識

Q24.2 装具の活用に関わる異常歩行の知識について、あなたはどの程度持っていますか。  
(お答えは1つ)



- ✓ 回答者の異常歩行の知識については、「大いに持っている」は14.2%、「ある程度持っている」は56.3%で、合計した「知識・能力保有数」は70.6%である。
- ✓ 職場の種類では、「知識・能力保有数」が「訪問」(79.6%)で最も多く、次に「通所リハ(デイケア)」(72.6%)が続く。
- ✓ 臨床経験年数が少ないほど、「知識・能力保有数」が少なく、「10年以上」では82.9%であるが、3年未満では47.6%である。
- ✓ 理学療法士の人数では、「30人以上」で「知識・能力保有数」が最も多い。

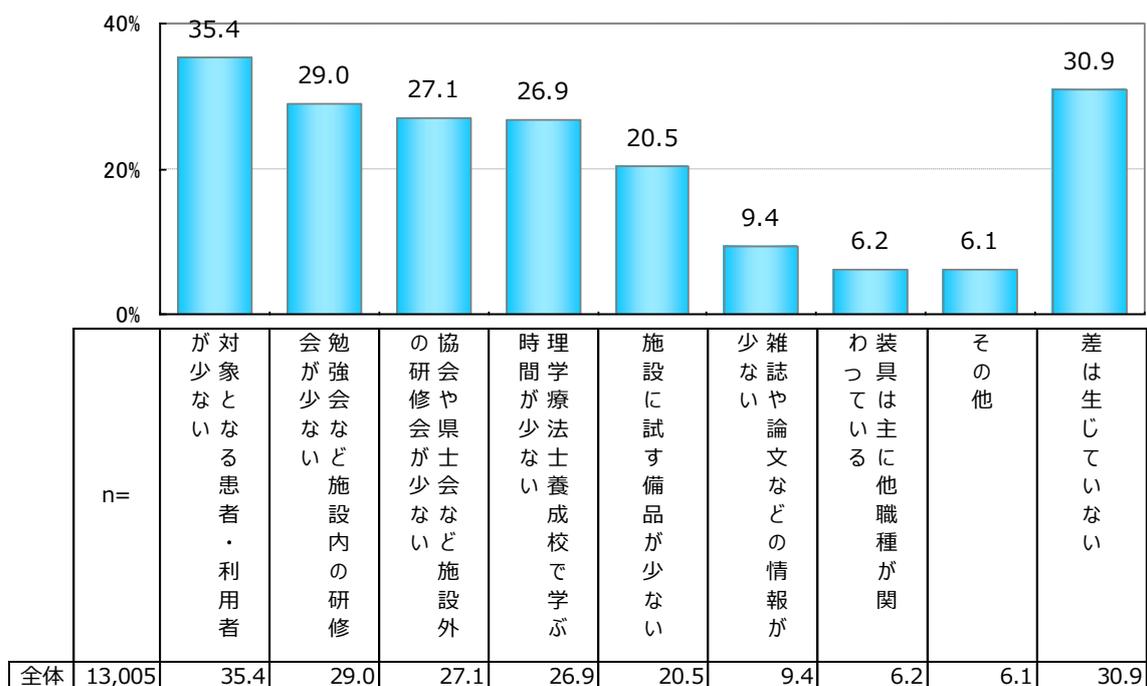
### 8-3) 装具活用の異常歩行の知識に対する理想と実際のギャップ



- ✓ 装具活用の異常歩行の知識において、「大いに持つべき知識・能力」と「大いに持っている知識・能力」とのギャップは、59.1pt であり、「持つべき知識・能力」と「持っている知識・能力」とのギャップは、28.9pt である。

#### 8-4)装具活用の異常歩行の知識に対する理想と実際のギャップの理由

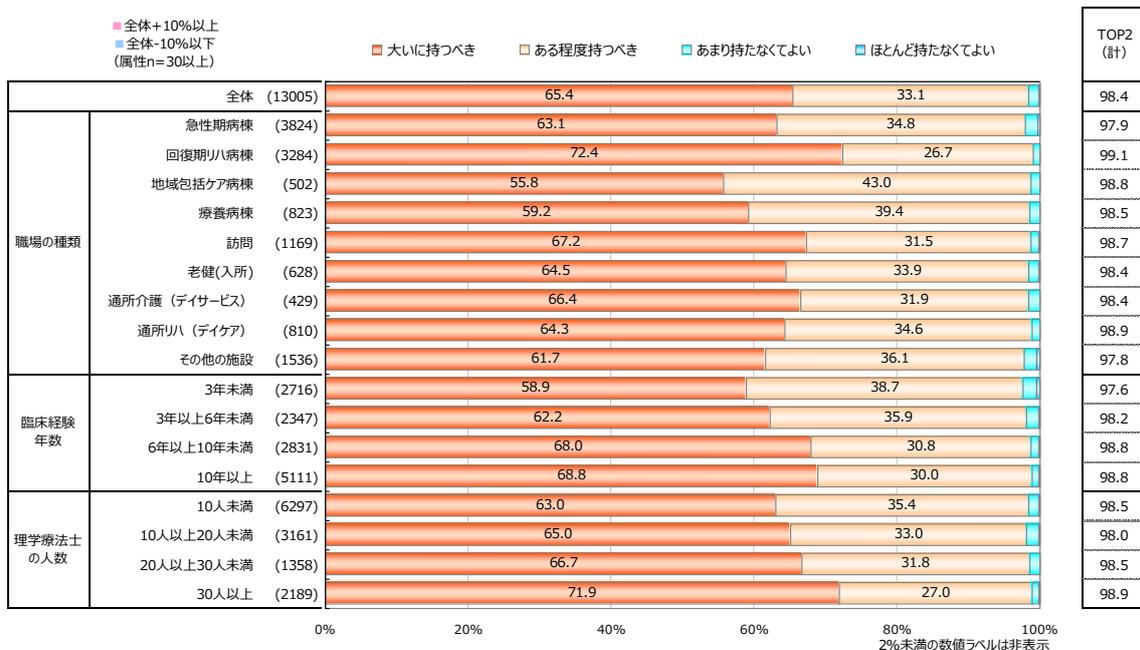
Q25 装具の活用に関わる異常歩行の知識について、【】と考えているのに実際には【】となっている理由をお答えください。(お答えはいくつでも)



装具活用の異常歩行の知識において、理想と実際のギャップの理由で最も多いのは、「対象となる患者・利用者が少ない」(35.4%)である。次いで「差は生じていない」(30.9%)、「勉強会など施設内の研修会が少ない」(29.0%)、「協会や県士会など施設外の研修会が少ない」(27.1%)と続く。

9-1) 装具選択や部品調整時の歩行評価能力を理学療法士がどの程度持つべきか

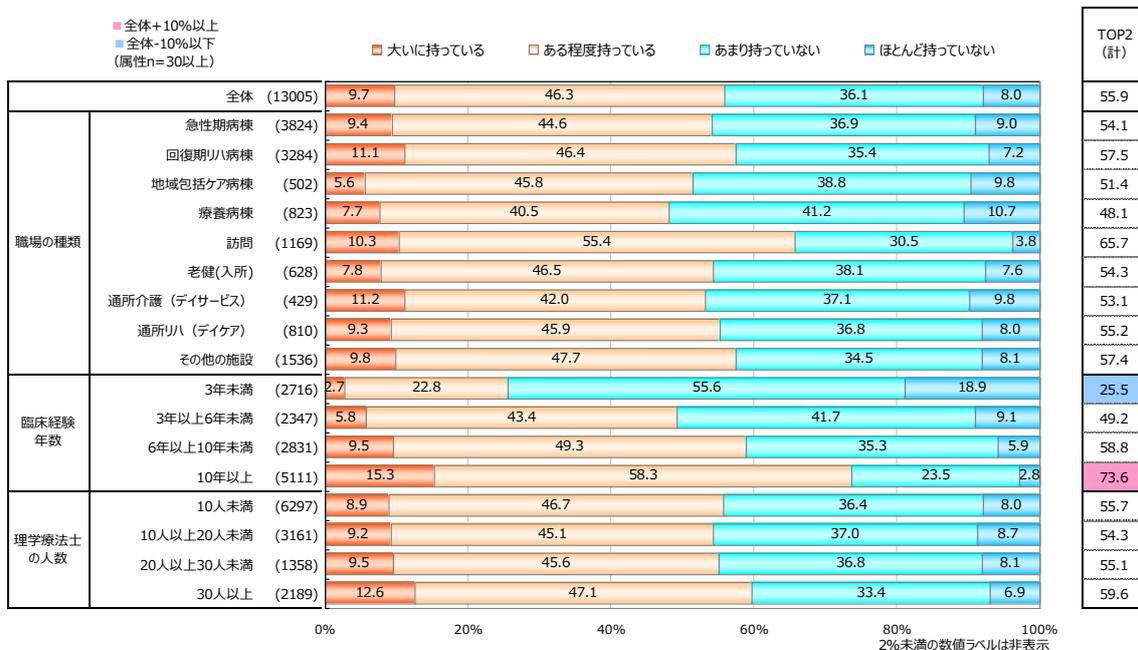
Q26\_1 装具の選択や部品の調整時における歩行を評価する能力について、あなたは理学療法士がどの程度持つべきだと思いますか。(お答えは1つ)



- ✓ 装具選択や部品調整時の歩行評価能力を理学療法士がどの程度持つべきかについては、「大いに持つべき」は 65.4%、「ある程度持つべき」(33.1%)を合計すると 98.4%である。
- ✓ 職場の種類では、「大いに持つべき」が「回復期リハ病棟」(72.4%)で最も多く、次に「訪問」(67.2%)が続く。
- ✓ 臨床経験年数が多いほど、装具選択や部品調整時の歩行評価能力を「大いに持つべき」が増加する。
- ✓ 職場の理学療法士の人数が多いほど、装具選択や部品調整時の歩行評価能力を「大いに持つべき」が増加する。

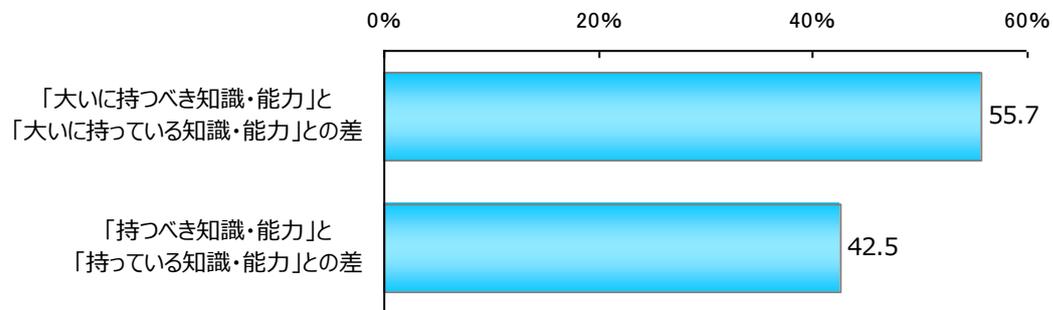
## 9-2)回答者の装具選択や部品調整時の歩行評価能力

Q26\_2 装具の選択や部品の調整時における歩行を評価する能力について、あなたはどの程度持っていますか。(お答えは1つ)



- ✓ 回答者の装具選択や部品調整時の歩行評価能力については、「大いに持っている」は 9.7%、「ある程度持っている」は 46.3%で、合計した「知識・能力保有数」は 55.9%である。
- ✓ 職場の種類では、「知識・能力保有数」が「訪問」(65.7%)で最も多く、次に「回復期リハ病棟」(57.5%)が続く。
- ✓ 臨床経験年数が少ないほど、「知識・能力保有数」が少なく、「10年以上」では73.6%であるが、3年未満では25.5%である。
- ✓ 理学療法士の人数では、「30人以上」で「知識・能力保有数」が最も多い。

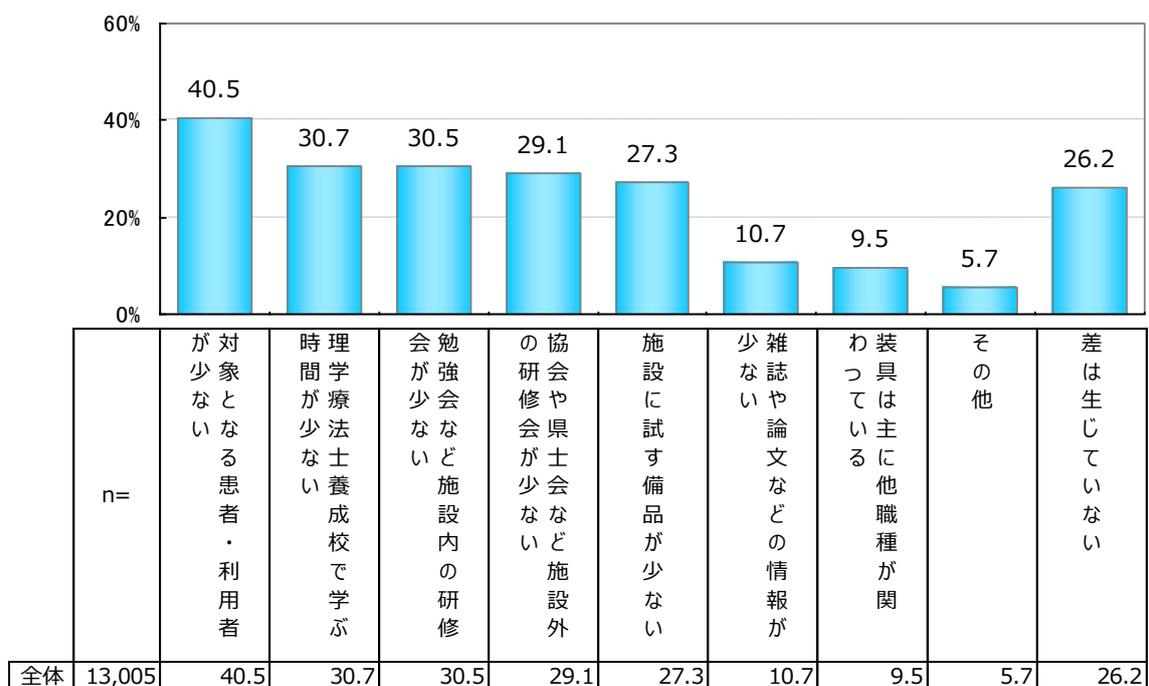
9-3) 装具の選択や部品の調整時の歩行評価能力に対する理想と実際のギャップ



- ✓ 装具の選択や部品の調整時の歩行評価能力において、「大いに持つべき知識・能力」と「大いに持っている知識・能力」とのギャップは、55.7pt であり、「持つべき知識・能力」と「持っている知識・能力」とのギャップは、42.5pt である。

9-4)装具の選択や部品の調整時の歩行評価能力に対する理想と実際のギャップの理由

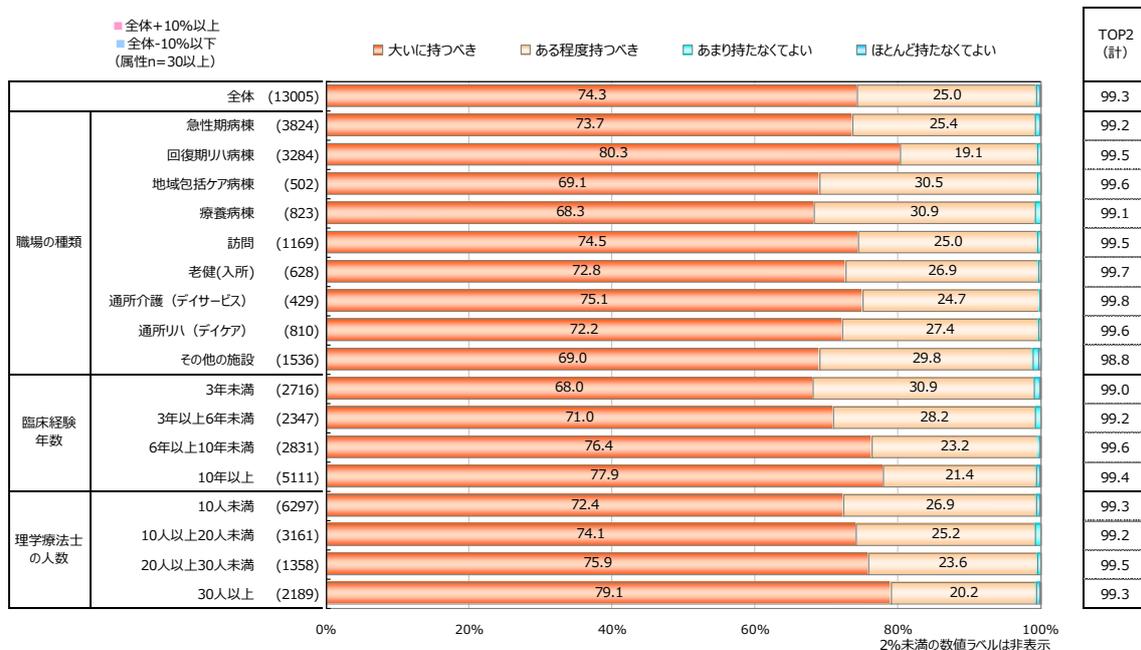
Q27 装具の選択や部品の調整時における歩行を評価する能力について、【】と考えているのに実際には【】となっている理由をお答えください。(お答えはいくつでも)



装具の選択や部品の調整時の歩行評価能力において、理想と実際のギャップの理由で最も多いのは、「対象となる患者・利用者が少ない」(40.5%)である。次いで「理学療法士養成校で学ぶ時間が少ない」(30.7%)、「勉強会など施設内の研修会が少ない」(30.5%)、「協会や県士会など施設外の研修会が少ない」(29.1%)と続く。

### 10-1)歩行練習や介助方法の技術を理学療法士がどの程度持つべきか

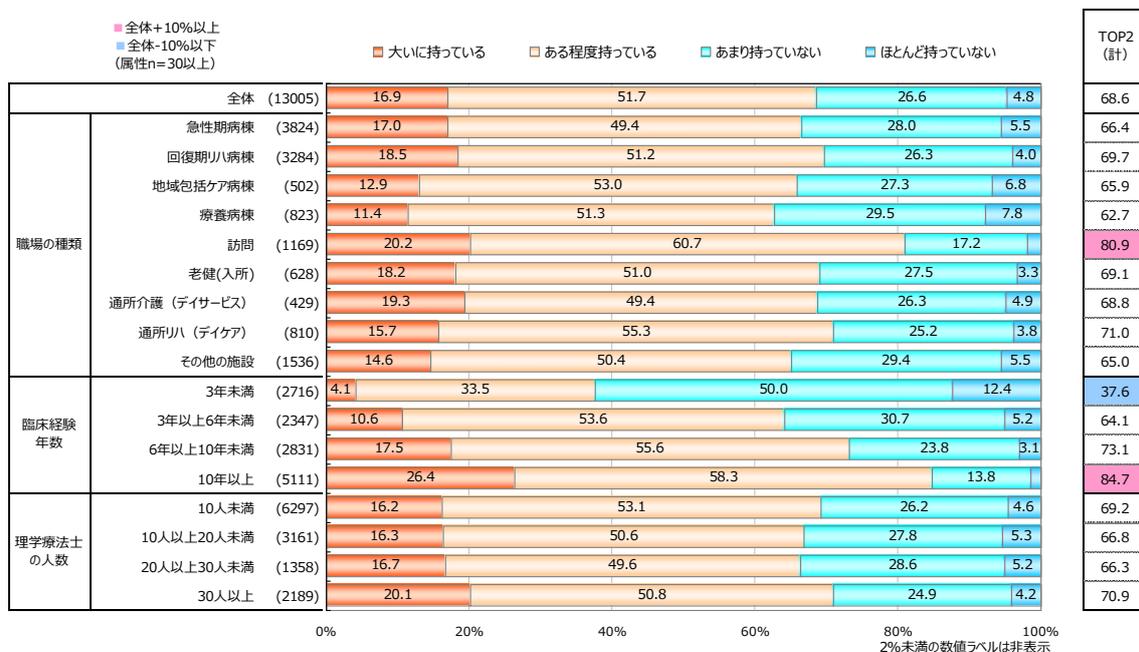
Q28\_1 装具を活用した歩行練習や介助方法の技術について、あなたは理学療法士がどの程度持つべきだと思いますか。(お答えは1つ)



- ✓ 歩行練習や介助方法の技術を理学療法士がどの程度持つべきかについては、「大いに持つべき」は74.3%、「ある程度持つべき」(25.0%)を合計すると99.3%である。
- ✓ 職場の種類では、「大いに持つべき」が「回復期リハ病棟」(80.3%)で最も多く、次に「通所介護(デイサービス)」(75.1%)が続く。
- ✓ 臨床経験年数が多いほど、歩行練習や介助方法の技術を「大いに持つべき」が増加する。
- ✓ 職場の理学療法士の人数が多いほど、歩行練習や介助方法の技術を「大いに持つべき」が増加する。

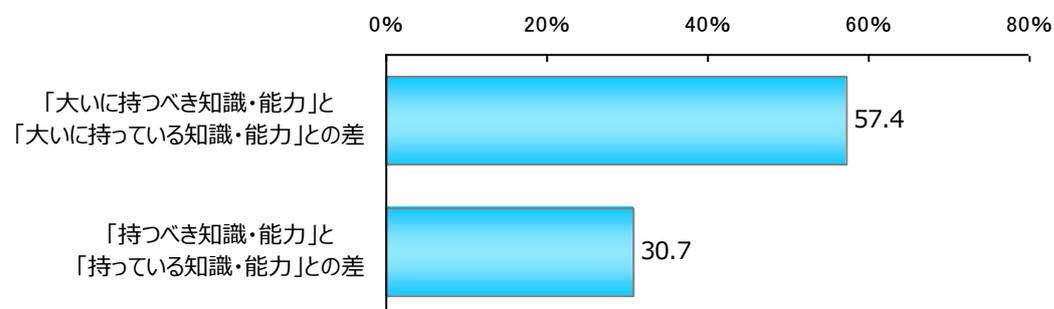
## 10-2)回答者の歩行練習や介助方法の技術

Q28\_2 装具を活用した歩行練習や介助方法の技術について、あなたはどの程度持っていますか。(お答えは1つ)



- ✓ 回答者の歩行練習や介助方法の技術については、「大いに持っている」は 16.9%、「ある程度持っている」は 51.7%で、合計した「知識・能力保有数」は 68.6%である。
- ✓ 職場の種類では、「知識・能力保有数」が「訪問」(80.9%)で最も多く、次に「通所リハ(デイケア)」(71.0%)が続く。
- ✓ 臨床経験年数が少ないほど、「知識・能力保有数」が少なく、「10年以上」では 84.7%であるが、3年未満では 37.6%である。
- ✓ 理学療法士の人数では、「30人以上」で「知識・能力保有数」が最も多い。

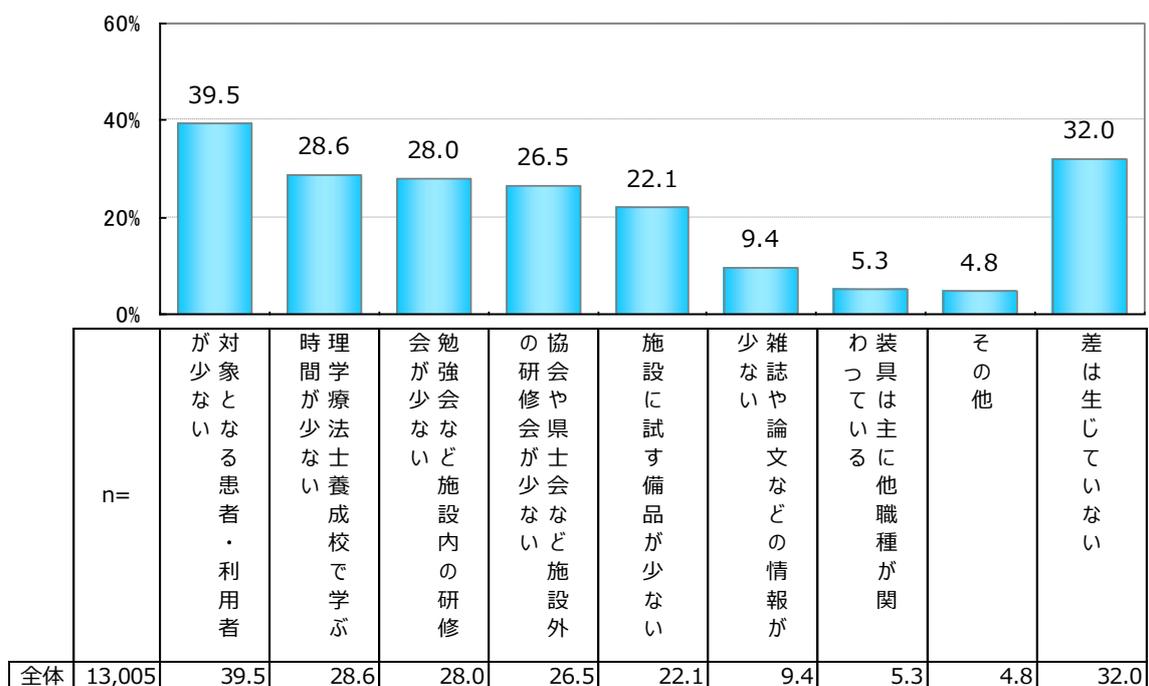
### 10-3) 装具を活用した歩行練習や介助方法の技術に対する理想と実際のギャップ



- ✓ 装具を活用した歩行練習や介助方法の技術において、「大いに持つべき知識・能力」と「大いに持っている知識・能力」とのギャップは、57.4pt であり、「持つべき知識・能力」と「持っている知識・能力」とのギャップは、30.7pt である。

10-4)装具を活用した歩行練習や介助方法の技術に対する理想と実際のギャップの理由

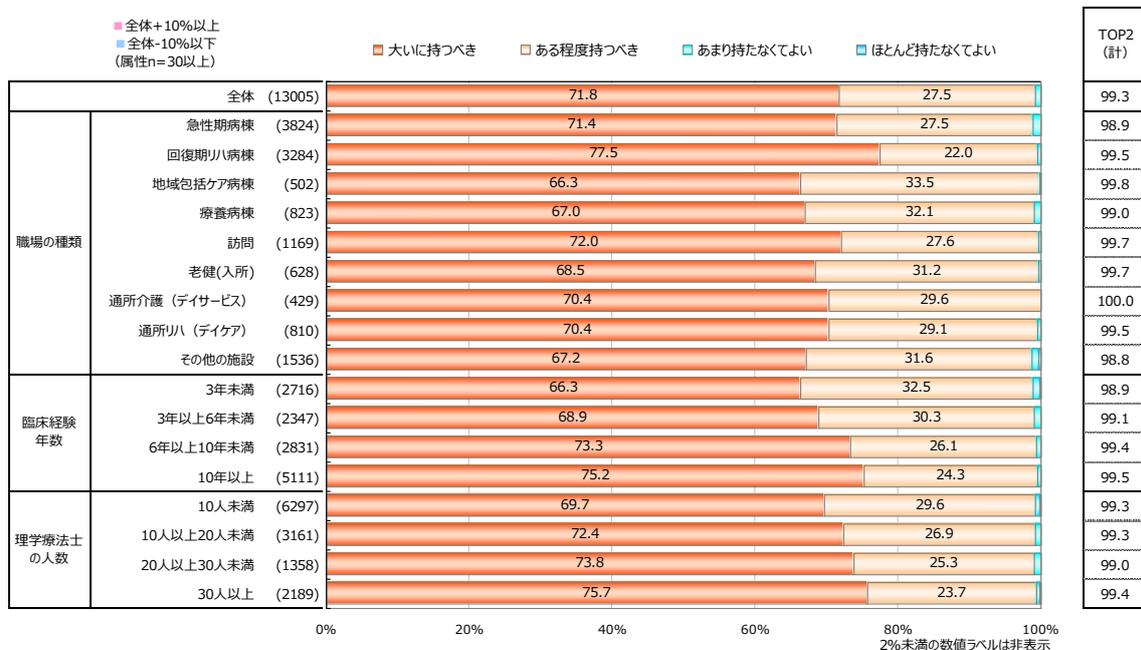
Q29 装具を活用した歩行練習や介助方法の技術について、【】と考えているのに実際には【】となっている理由をお答えください。(お答えはいくつでも)



装具を活用した歩行練習や介助方法の技術において、理想と実際のギャップの理由で最も多いのは、「対象となる患者・利用者が少ない」(39.5%)である。次いで「差は生じていない」(32.0%)、「理学療法士養成校で学ぶ時間が少ない」(28.6%)、「勉強会など施設内の研修会が少ない」(28.0%)と続く。

### 11-1)装具の必要性判断能力を理学療法士がどの程度持つべきか

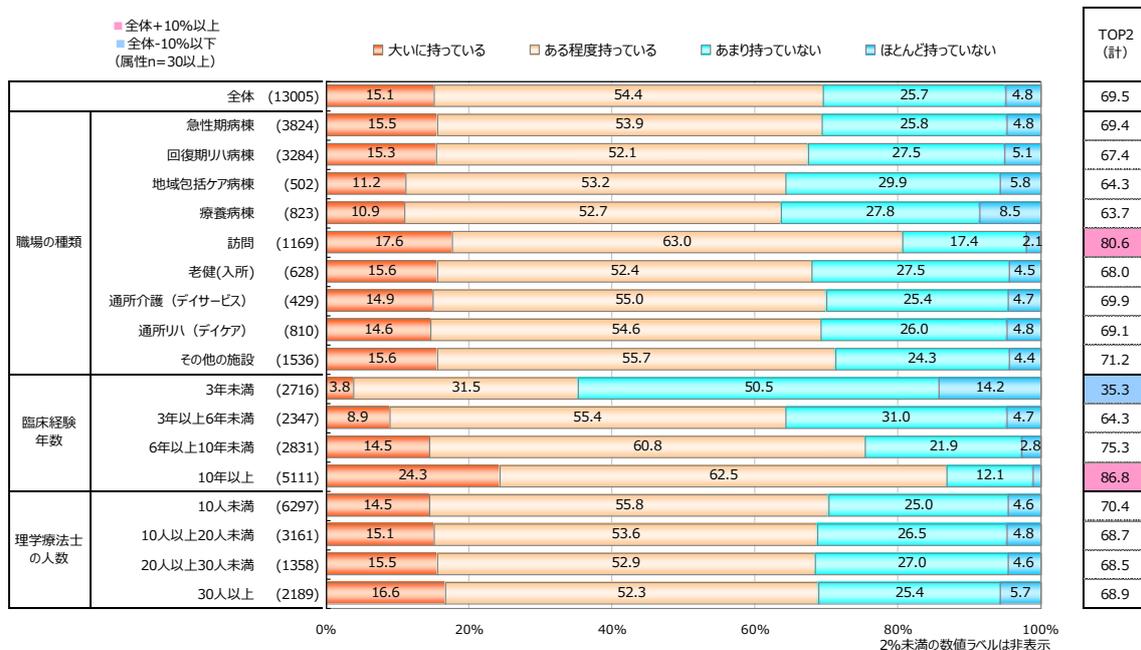
Q30\_1 装具が必要かどうかを判断する能力について、あなたは理学療法士がどの程度持つべきだと思いますか。(お答えは1つ)



- ✓ 装具の必要性判断能力を理学療法士がどの程度持つべきかについては、「大いに持つべき」は71.8%、「ある程度持つべき」(27.5%)を合計すると99.3%である。
- ✓ 職場の種類では、「大いに持つべき」が「回復期リハ病棟」(77.5%)で最も多く、次に「訪問」(72.0%)が続く。
- ✓ 臨床経験年数が多いほど、装具の必要性判断能力を「大いに持つべき」が増加する。
- ✓ 職場の理学療法士の人数が多いほど、装具の必要性判断能力を「大いに持つべき」が増加する。

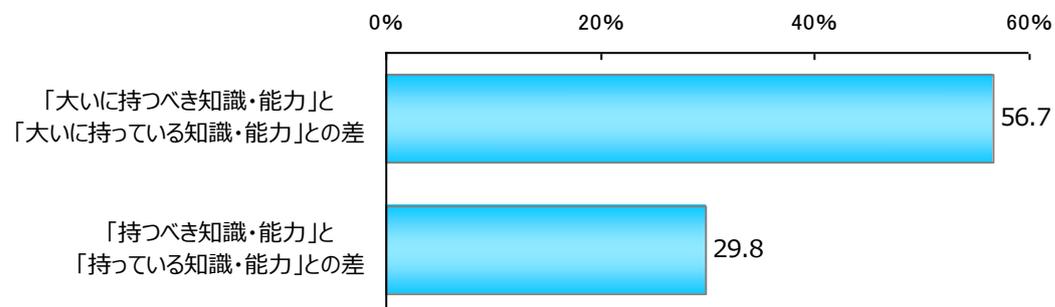
## 11-2)回答者の装具の必要性判断能力

Q30\_2 装具が必要かどうかを判断する能力について、あなたはどの程度持っていますか。(お答えは1つ)



- ✓ 回答者の装具の必要性判断能力については、「大いに持っている」は 15.1%、「ある程度持っている」は 54.4%で、合計した「知識・能力保有数」は 69.5%である。
- ✓ 職場の種類では、「知識・能力保有数」が「訪問」(80.6%)で最も多く、次に「その他の施設」(71.2%)が続く。
- ✓ 臨床経験年数が少ないほど、「知識・能力保有数」が少なく、「10年以上」では 86.8%であるが、3年未満では 35.3%である。
- ✓ 理学療法士の人数では、「知識・能力保有数」に差はみられない。

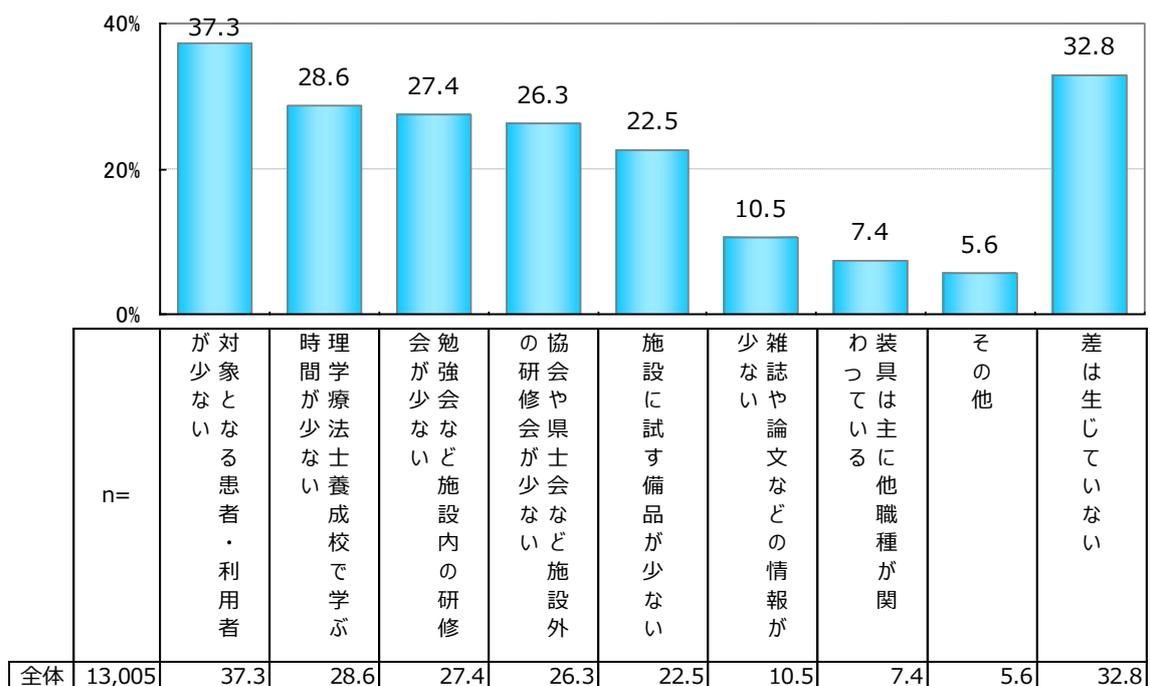
### 11-3) 装具が必要かどうかを判断する能力に対する理想と実際のギャップ



- ✓ 装具が必要かどうかを判断する能力において、「大いに持つべき知識・能力」と「大いに持っている知識・能力」とのギャップは、56.7pt であり、「持つべき知識・能力」と「持っている知識・能力」とのギャップは、29.8pt である。

11-4)装具が必要かどうかを判断する能力に対する理想と実際のギャップの理由

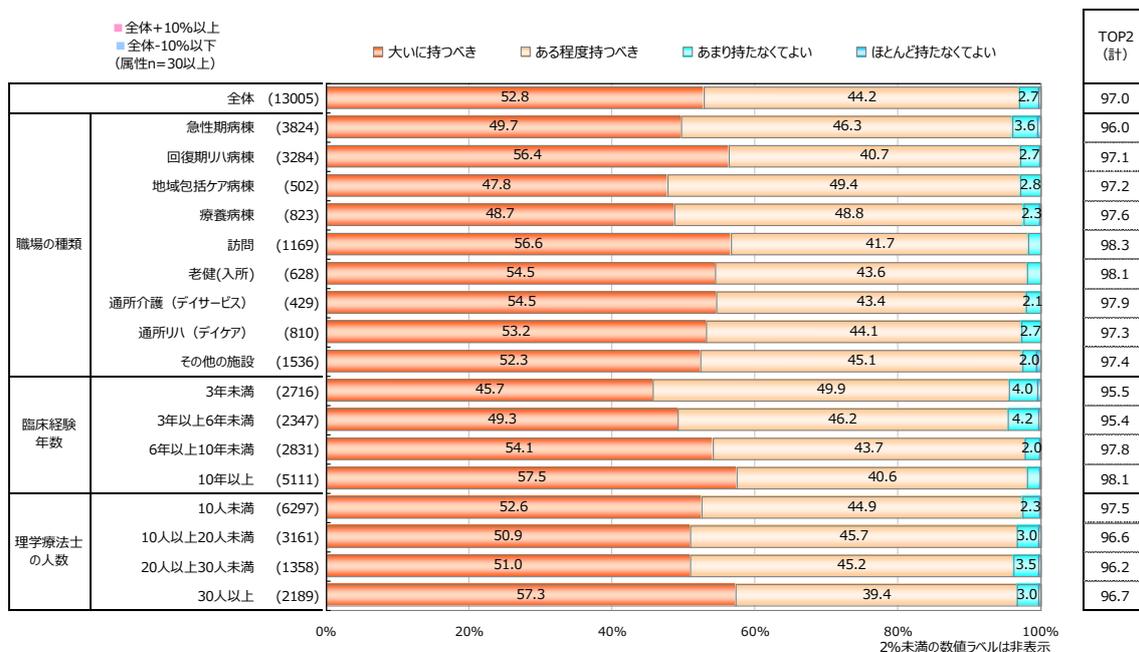
Q31 装具が必要かどうかを判断する能力について、【】と考えているのに実際には【】となっている理由をお答えください。(お答えはいくつでも)



装具が必要かどうかを判断する能力において、理想と実際のギャップの理由で最も多いのは、「対象となる患者・利用者が少ない」(37.3%)である。次いで「差は生じていない」(32.8%)、「理学療法士養成校で学ぶ時間が少ない」(28.6%)、「勉強会など施設内の研修会が少ない」(27.4%)と続く。

## 12-1)装具の劣化・破損知識を理学療法士がどの程度持つべきか

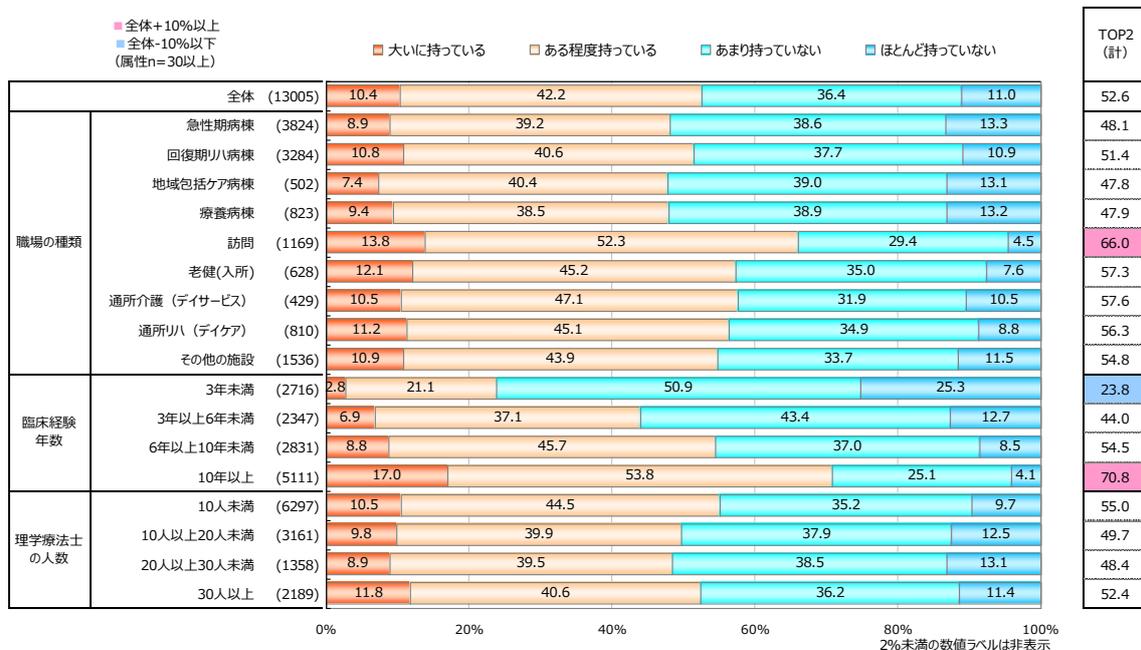
Q32\_1 装具の劣化・破損に関する知識について、あなたは理学療法士がどの程度持つべきだと思いますか。(お答えは1つ)



- ✓ 装具の劣化・破損知識を理学療法士がどの程度持つべきかについては、「大いに持つべき」は52.8%、「ある程度持つべき」(44.2%)を合計すると97.0%である。
- ✓ 職場の種類では、「大いに持つべき」が「訪問」(56.6%)で最も多く、次に「回復期リハ病棟」(56.4%)が続く。
- ✓ 臨床経験年数が多いほど、装具の劣化・破損知識を「大いに持つべき」が増加する。
- ✓ 職場の理学療法士の人数が「30人以上」では装具の必要性判断能力を「大いに持つべき」が最も多い。

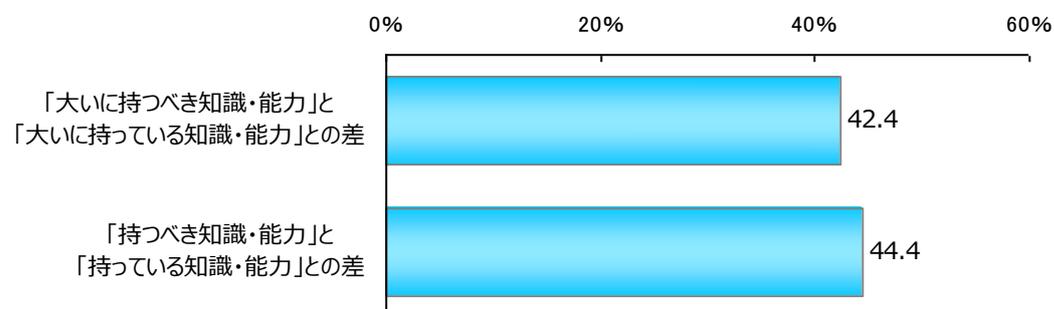
## 12-2)回答者の装具の劣化・破損知識

Q32\_2 装具の劣化・破損に関する知識について、あなたはどの程度持っていますか。(お答えは1つ)



- ✓ 回答者の装具の劣化・破損知識については、「大いに持っている」は 10.4%、「ある程度持っている」は 42.2%で、合計した「知識・能力保有数」は 52.6%である。
- ✓ 職場の種類では、「知識・能力保有数」が「訪問」(66.0%)で最も多く、次に「通所介護(デイサービス)」(57.6%)が続く。
- ✓ 臨床経験年数が少ないほど、「知識・能力保有数」が少なく、「10年以上」では70.8%であるが、3年未満では23.8%である。
- ✓ 理学療法士の人数では、「10人未満」で「知識・能力保有数」が最も多い。

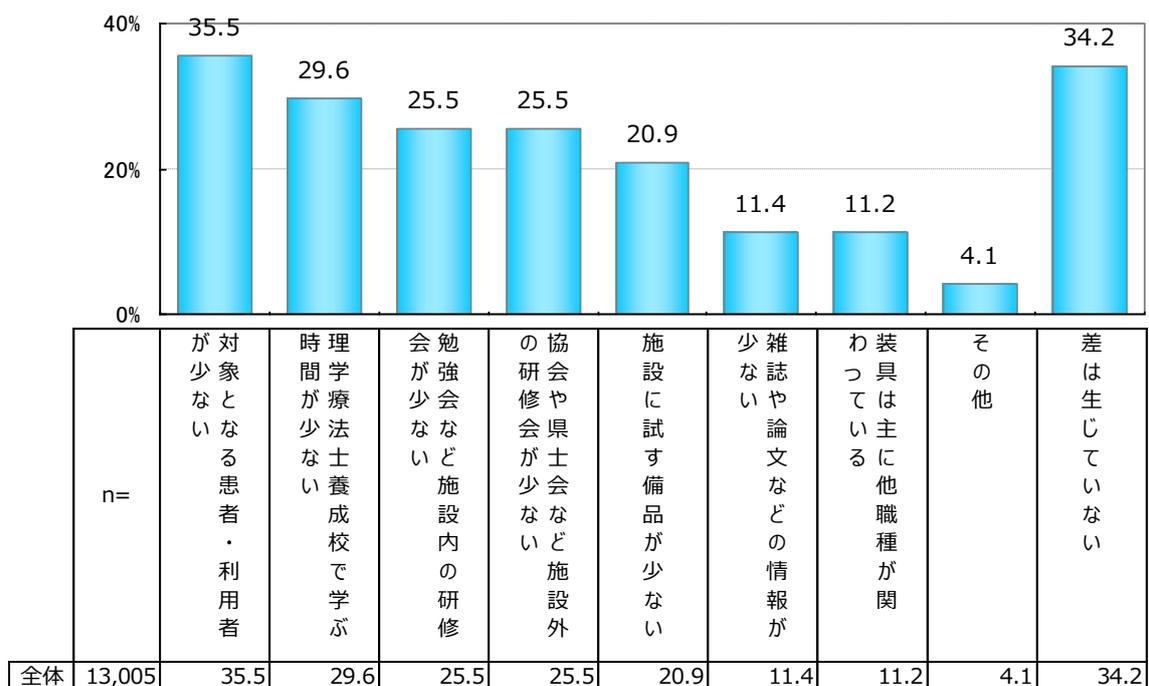
### 12-3) 装具の劣化・破損の知識に対する理想と実際のギャップ



- ✓ 装具の劣化・破損の知識において、「大いに持つべき知識・能力」と「大いに持っている知識・能力」とのギャップは、42.4pt であり、「持つべき知識・能力」と「持っている知識・能力」とのギャップは、44.4pt である。

12-4)装具の劣化・破損の知識に対する理想と実際のギャップの理由

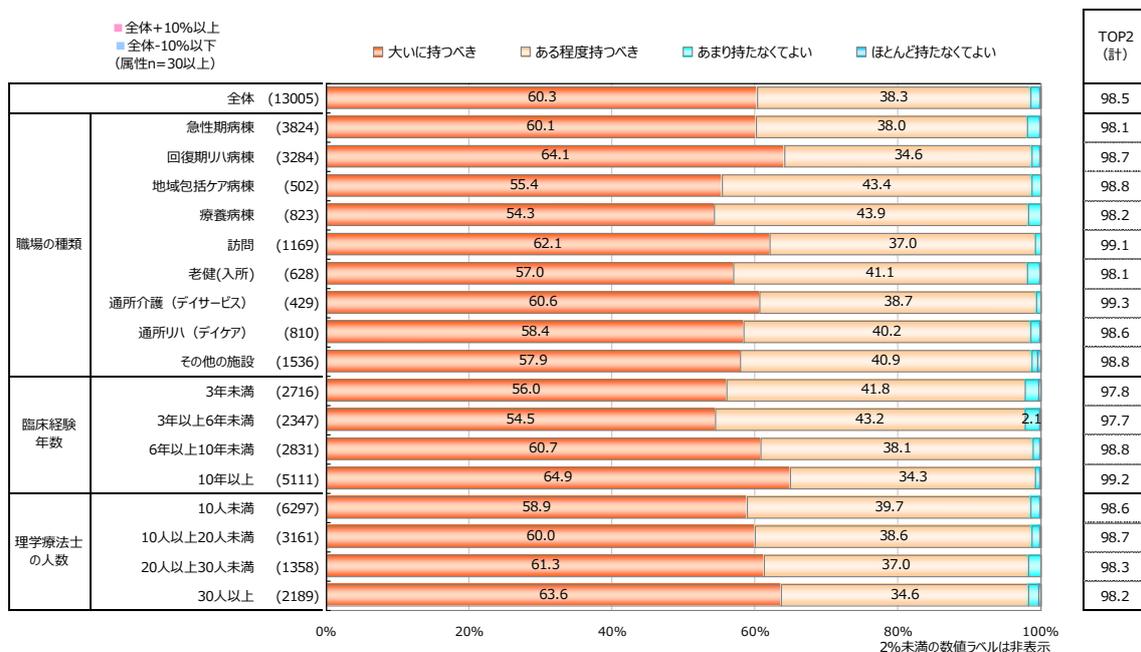
Q33 装具の劣化・破損に関する知識について、【】と考えているのに実際には【】となっている理由をお答えください。(お答えはいくつでも)



装具の劣化・破損の知識において、理想と実際のギャップの理由で最も多いのは、「対象となる患者・利用者が少ない」(35.5%)である。次いで「差は生じていない」(34.2%)、「理学療法士養成校で学ぶ時間が少ない」(29.6%)、「勉強会など施設内の研修会が少ない」(25.5%)と続く。

### 13-1)装具活用による足部の創傷と対応知識を理学療法士がどの程度持つべきか

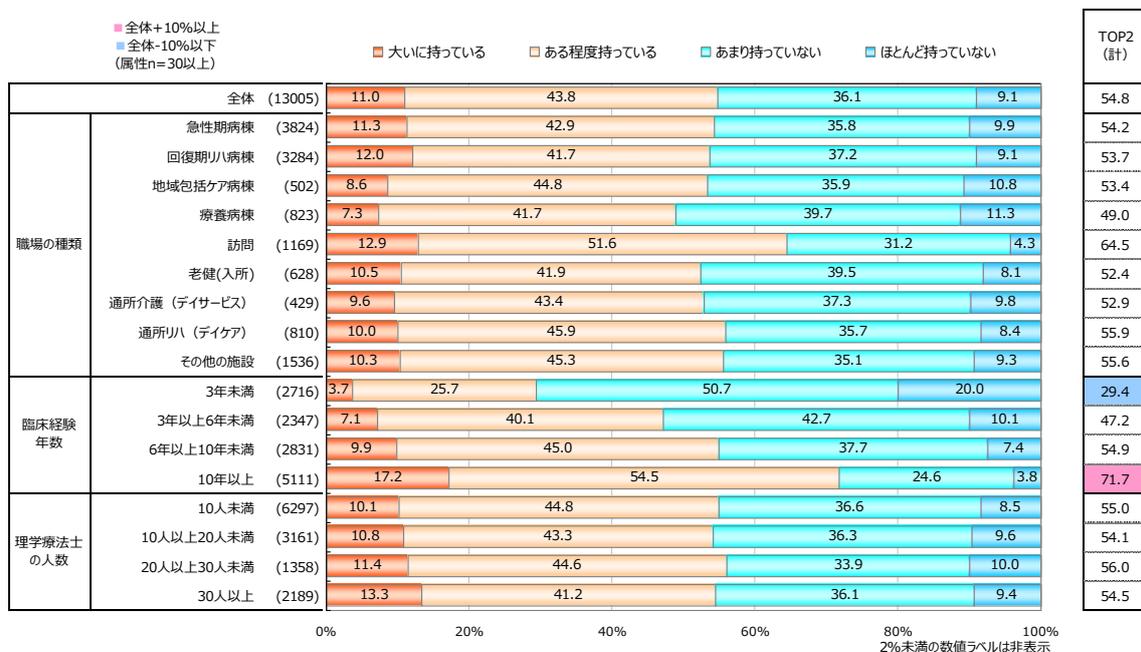
Q34\_1 装具活用による足部の創傷と対応に関する知識について、あなたは理学療法士がどの程度持つべきだと思いますか。(お答えは1つ)



- ✓ 装具活用による足部の創傷と対応知識を理学療法士がどの程度持つべきかについては、「大いに持つべき」は60.3%、「ある程度持つべき」(38.3%)を合計すると98.5%である。
- ✓ 職場の種類では、「大いに持つべき」が「回復期リハ病棟」(64.1%)で最も多く、次に「訪問」(62.1%)が続く。
- ✓ 臨床経験年数が多いほど、装具活用による足部の創傷と対応知識を「大いに持つべき」が増加する傾向にある。
- ✓ 職場の理学療法士の人数が多いほど、装具活用による足部の創傷と対応知識を「大いに持つべき」が増加する。

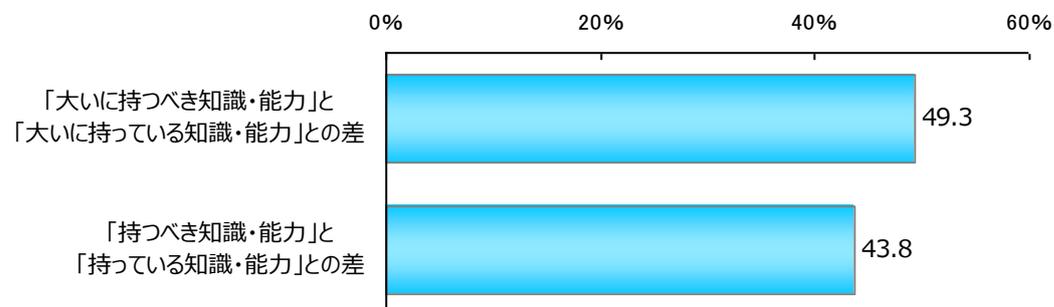
### 13-2)回答者の装具活用による足部の創傷と対応知識

Q34.2 装具活用による足部の創傷と対応に関する知識について、あなたはどの程度持っていますか。(お答えは1つ)



- ✓ 回答者の装具活用による足部の創傷と対応知識については、「大いに持っている」は 11.0%、「ある程度持っている」は 43.8%で、合計した「知識・能力保有数」は 54.8%である。
- ✓ 職場の種類では、「知識・能力保有数」が「訪問」(64.5%)で最も多く、次に「通所リハ(デイケア)」(55.9%)が続く。
- ✓ 臨床経験年数が少ないほど、「知識・能力保有数」が少なく、「10年以上」では71.7%であるが、3年未満では29.4%である。
- ✓ 理学療法士の人数では、「知識・能力保有数」に差はみられない。

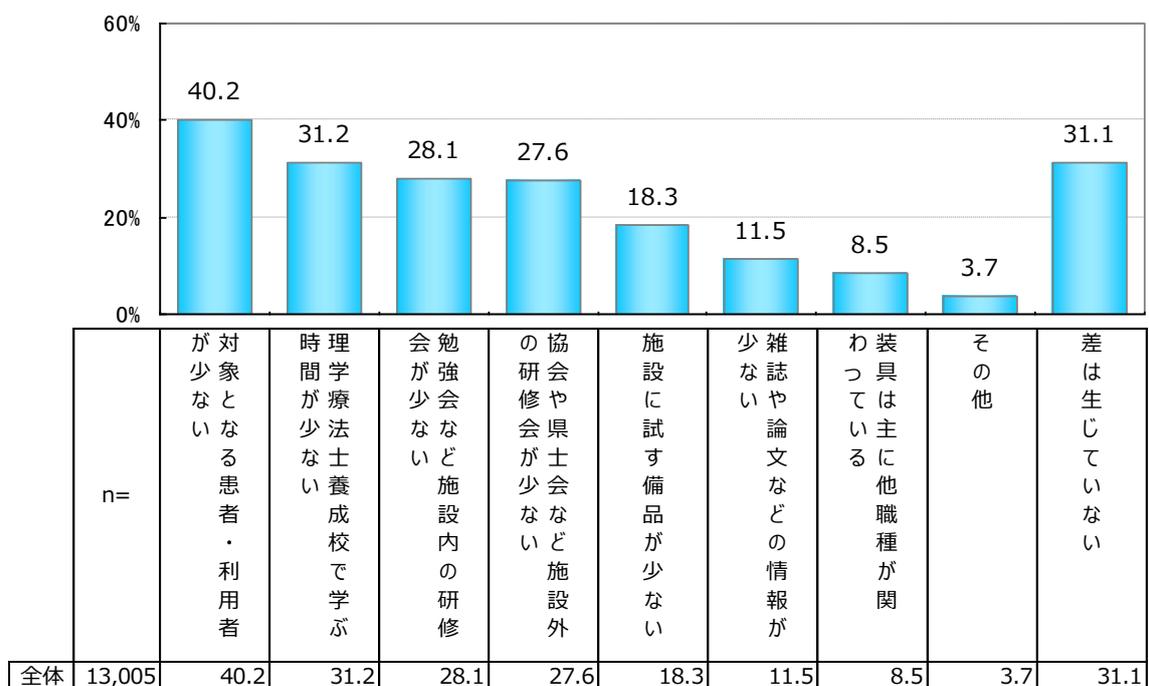
### 13-3) 装具活用による足部の創傷と対応の知識に対する理想と実際のギャップ



- ✓ 装具活用による足部の創傷と対応の知識において、「大いに持つべき知識・能力」と「大いに持っている知識・能力」とのギャップは、49.3pt であり、「持つべき知識・能力」と「持っている知識・能力」とのギャップは、43.8pt である。

13-4)装具活用による足部の創傷と対応の知識に対する理想と実際のギャップの理由

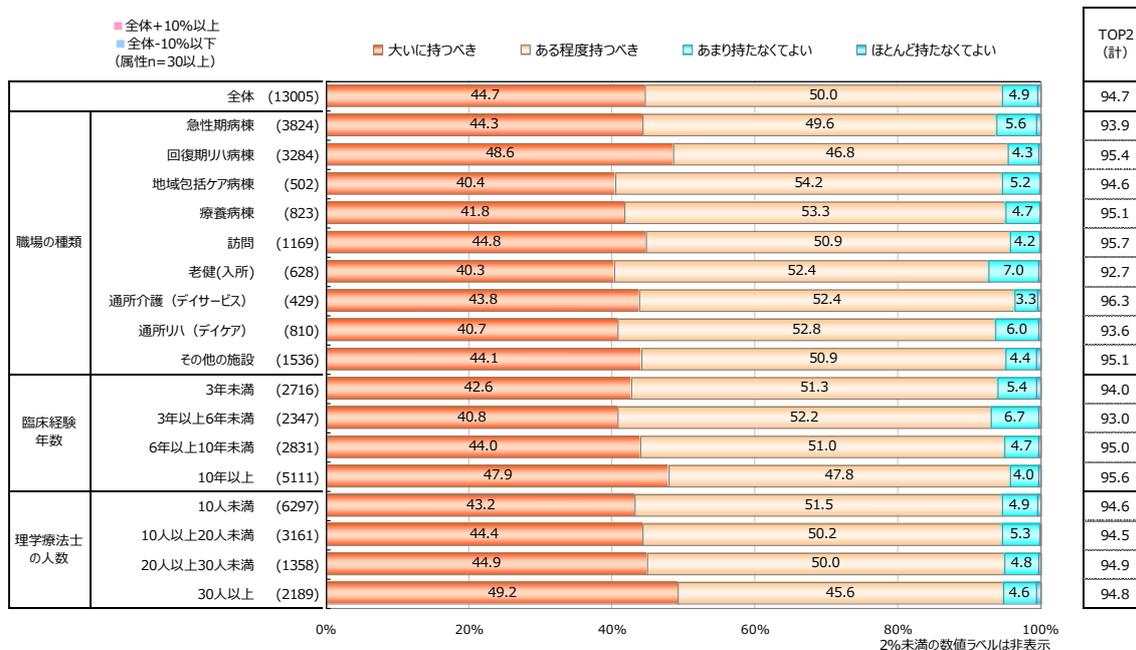
Q35 装具活用による足部の創傷と対応に関する知識について、【】と考えているのに実際には【】となっている理由をお答えください。(お答えはいくつでも)



装具活用による足部の創傷と対応の知識において、理想と実際のギャップの理由で最も多いのは、「対象となる患者・利用者が少ない」(40.2%)である。次いで「理学療法士養成校で学ぶ時間が少ない」(31.2%)、「差は生じていない」(31.1%)、「勉強会など施設内の研修会が少ない」(28.1%)と続く。

### 14-1)装具の衛生管理知識を理学療法士がどの程度持つべきか

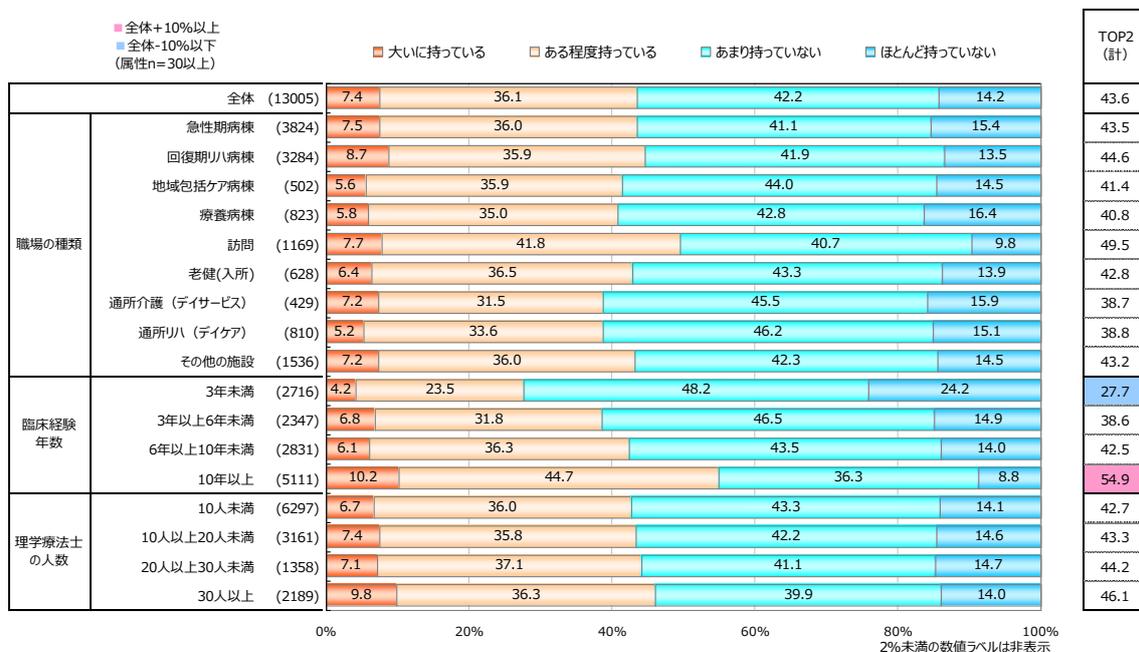
Q36\_1 装具の汚れや除菌など衛生管理に関する知識について、あなたは理学療法士がどの程度持つべきだと思いますか。(お答えは1つ)



- ✓ 装具の衛生管理知識を理学療法士がどの程度持つべきかについては、「大いに持つべき」は44.7%、「ある程度持つべき」(50.0%)を合計すると94.7%である。
- ✓ 職場の種類では、「大いに持つべき」が「回復期リハ病棟」(48.6%)で最も多く、次に「訪問」(44.8%)が続く。
- ✓ 臨床経験年数が多いほど、装具の衛生管理知識を「大いに持つべき」が増加する傾向にある。
- ✓ 職場の理学療法士の人数が多いほど、装具の衛生管理知識を「大いに持つべき」が増加する。

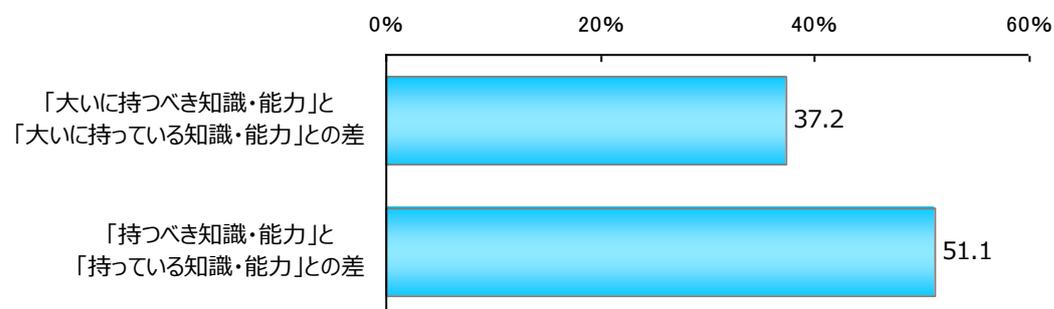
## 14-2)回答者の装具の衛生管理知識

Q36\_2 装具の汚れや除菌など衛生管理に関する知識について、あなたはどの程度持っていますか。(お答えは1つ)



- ✓ 回答者の装具の衛生管理知識については、「大いに持っている」は 7.4%、「ある程度持っている」は 36.1%で、合計した「知識・能力保有数」は 43.6%である。
- ✓ 職場の種類では、「知識・能力保有数」が「訪問」(49.5%)で最も多く、次に「回復期リハ病棟」(44.6%)が続く。
- ✓ 臨床経験年数が少ないほど、「知識・能力保有数」が少なく、「10年以上」では 54.9%であるが、3年未満では 27.7%である。
- ✓ 理学療法士の人数では、「30人以上」で「知識・能力保有数」で最も多い。

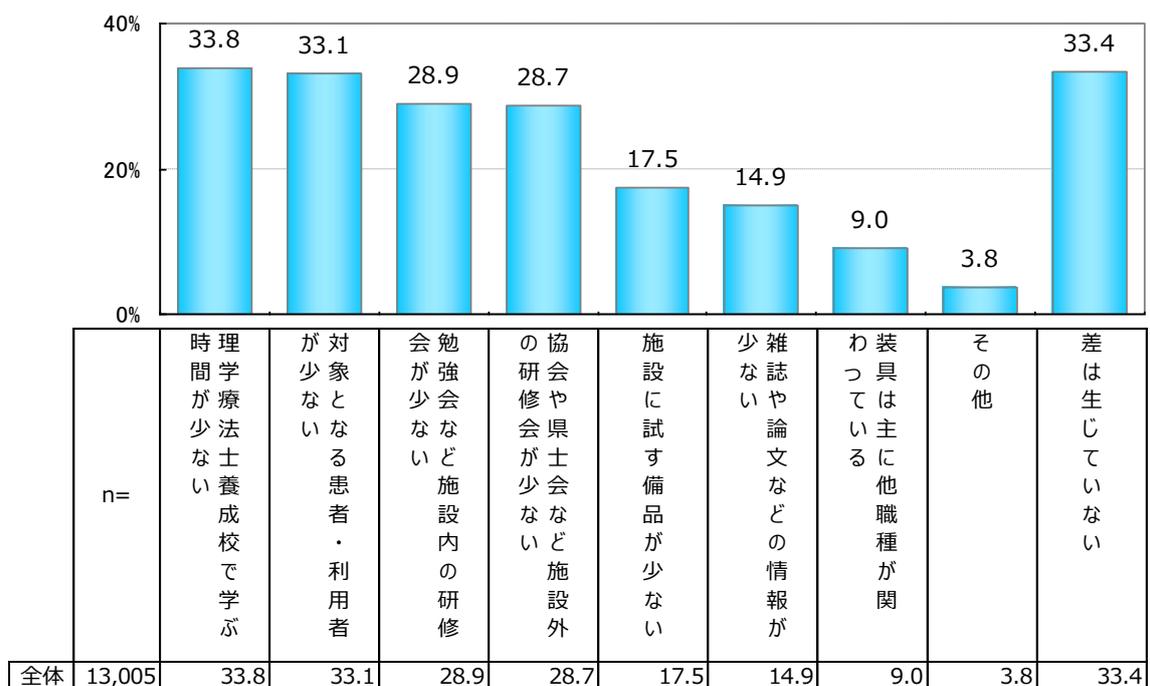
### 14-3) 装具の汚れや除菌など衛生管理の知識に対する理想と実際のギャップ



- ✓ 装具の汚れや除菌など衛生管理の知識において、「大いに持つべき知識・能力」と「大いに持っている知識・能力」とのギャップは、37.2pt であり、「持つべき知識・能力」と「持っている知識・能力」とのギャップは、51.1pt である。

14-4) 装具の汚れや除菌など衛生管理の知識に対する理想と実際のギャップの理由

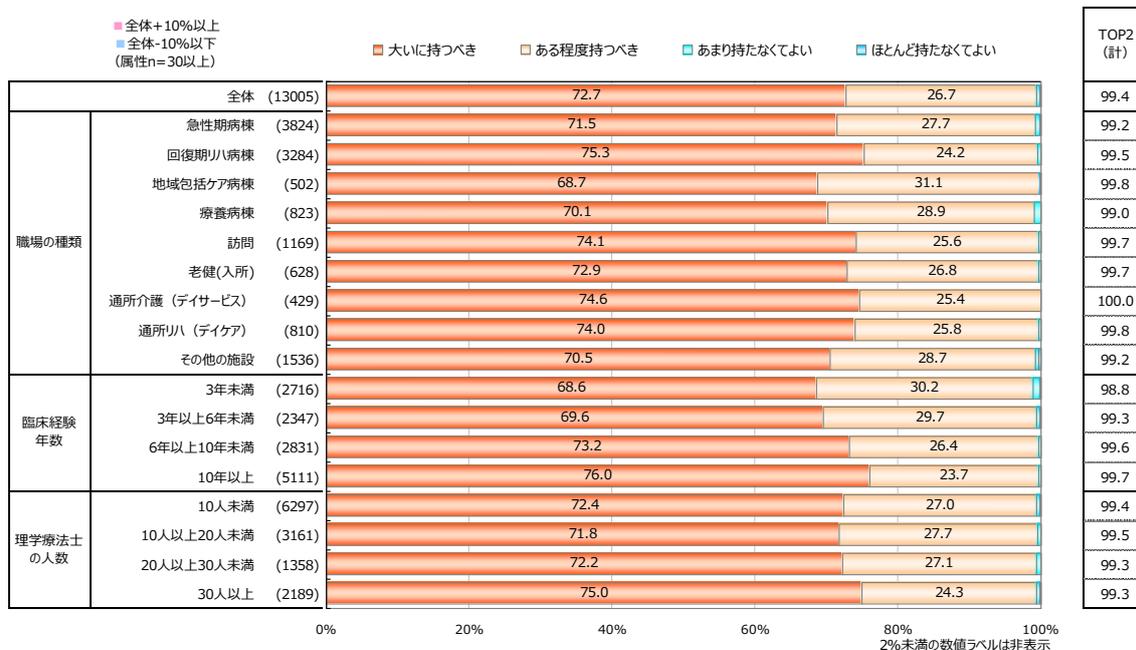
Q37 装具の汚れや除菌など衛生管理に関する知識について、【】と考えているのに実際には【】となっている理由をお答えください。(お答えはいくつでも)



装具の汚れや除菌など衛生管理の知識において、理想と実際のギャップの理由で最も多いのは、「理学療法士養成校で学ぶ時間が少ない」(33.8%)である。次いで「差は生じていない」(33.4%)、「対象となる患者・利用者が少ない」(33.1%)、「勉強会など施設内の研修会が少ない」(28.9%)と続く。

### 15-1) 装具の装着知識を理学療法士がどの程度持つべきか

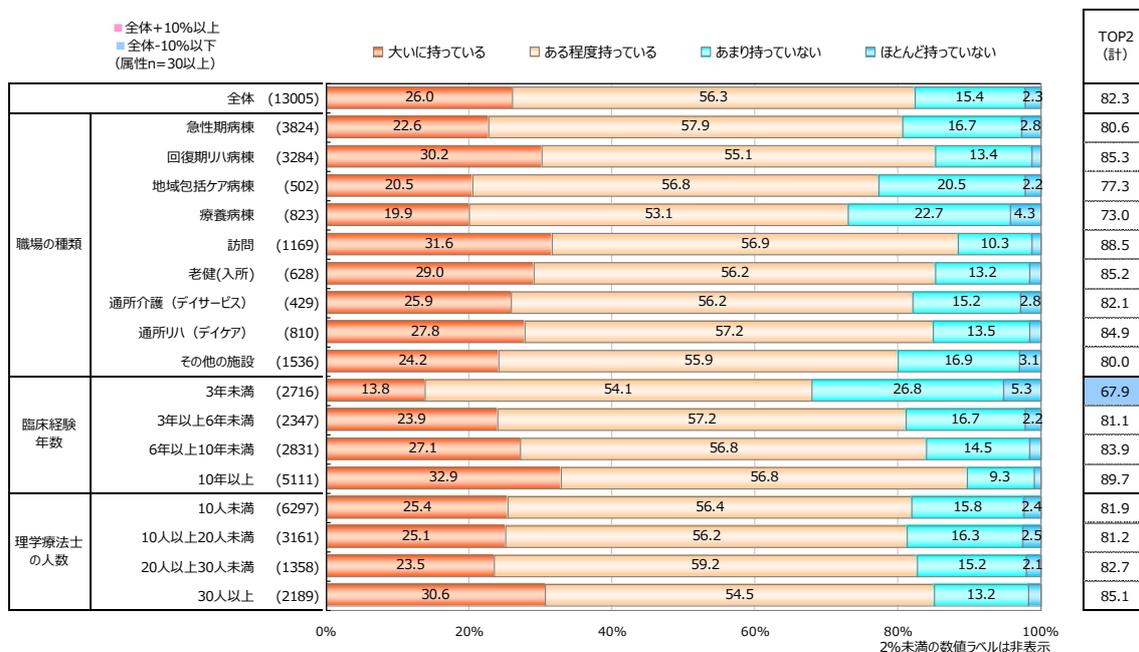
Q38\_1 装具の装着方法に関する知識について、あなたは理学療法士がどの程度持つべきだと思いますか。(お答えは1つ)



- ✓ 装具の装着知識を理学療法士がどの程度持つべきかについては、「大いに持つべき」は72.7%、「ある程度持つべき」(26.7%)を合計すると99.4%である。
- ✓ 職場の種類では、「大いに持つべき」が「回復期リハ病棟」(75.3%)で最も多く、次に「通所介護(デイサービス)」(74.6%)が続く。
- ✓ 臨床経験年数が多いほど、装具の装着知識を「大いに持つべき」が増加する。
- ✓ 職場の理学療法士の人数が「30人以上」では、装具の装着知識を「大いに持つべき」が最も多い。

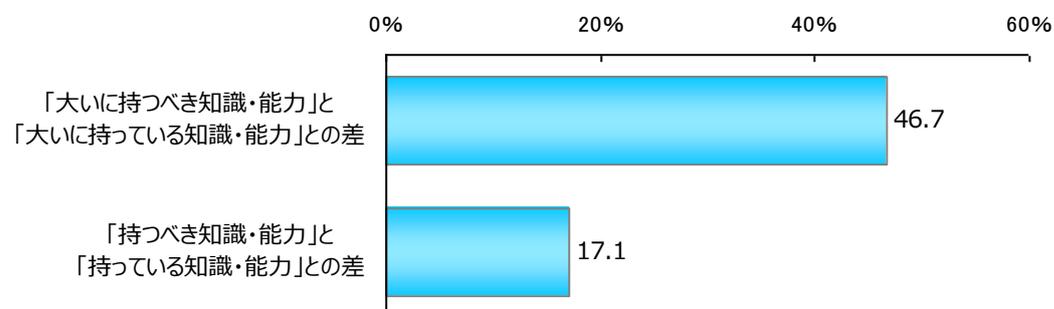
## 15-2)回答者の装具の装着知識

Q38\_2 装具の装着方法に関する知識について、あなたはどの程度持っていますか。(お答えは1つ)



- ✓ 回答者の装具の装着知識については、「大いに持っている」は26.0%、「ある程度持っている」は56.3%で、合計した「知識・能力保有数」は82.3%である。
- ✓ 職場の種類では、「知識・能力保有数」が「訪問」(88.5%)で最も多く、次に「回復期リハ病棟」(85.3%)が続く。
- ✓ 臨床経験年数が少ないほど、「知識・能力保有数」が少なく、「10年以上」では89.7%であるが、3年未満では67.9%である。
- ✓ 理学療法士の人数では、「30人以上」で「知識・能力保有数」で最も多い。

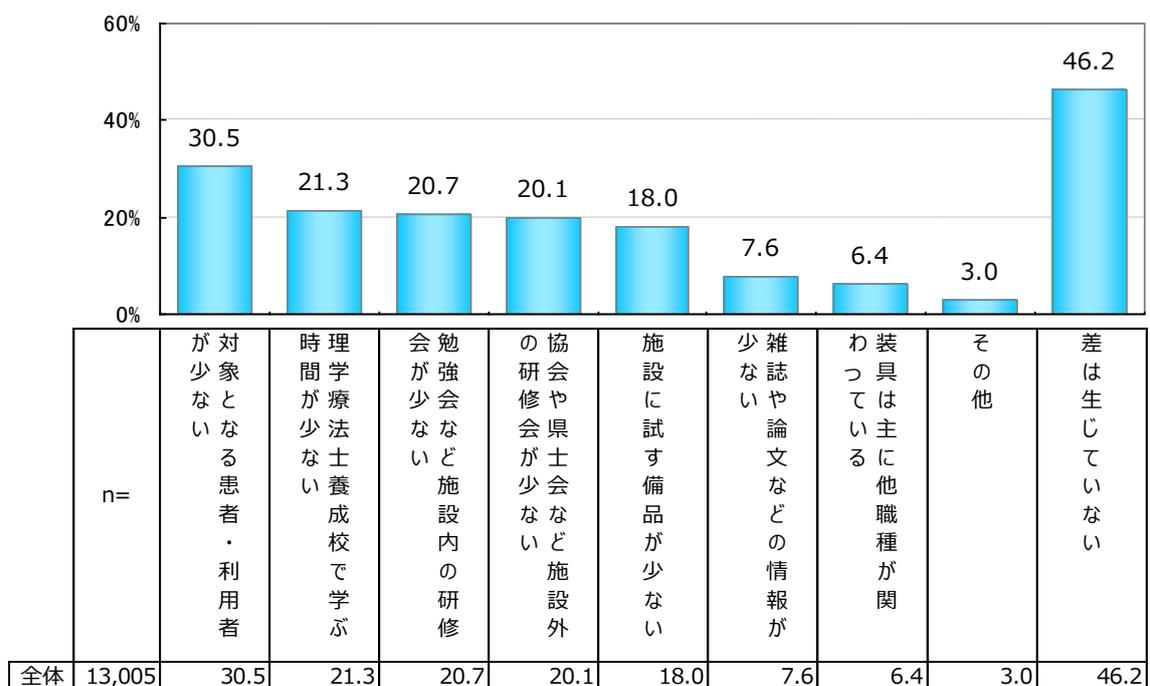
### 15-3) 装具の装着方法の知識に対する理想と実際のギャップ



- ✓ 装具の装着方法の知識において、「大いに持つべき知識・能力」と「大いに持っている知識・能力」とのギャップは、46.7pt であり、「持つべき知識・能力」と「持っている知識・能力」とのギャップは、17.1pt である。

15-4)装具の装着方法の知識に対する理想と実際のギャップの理由

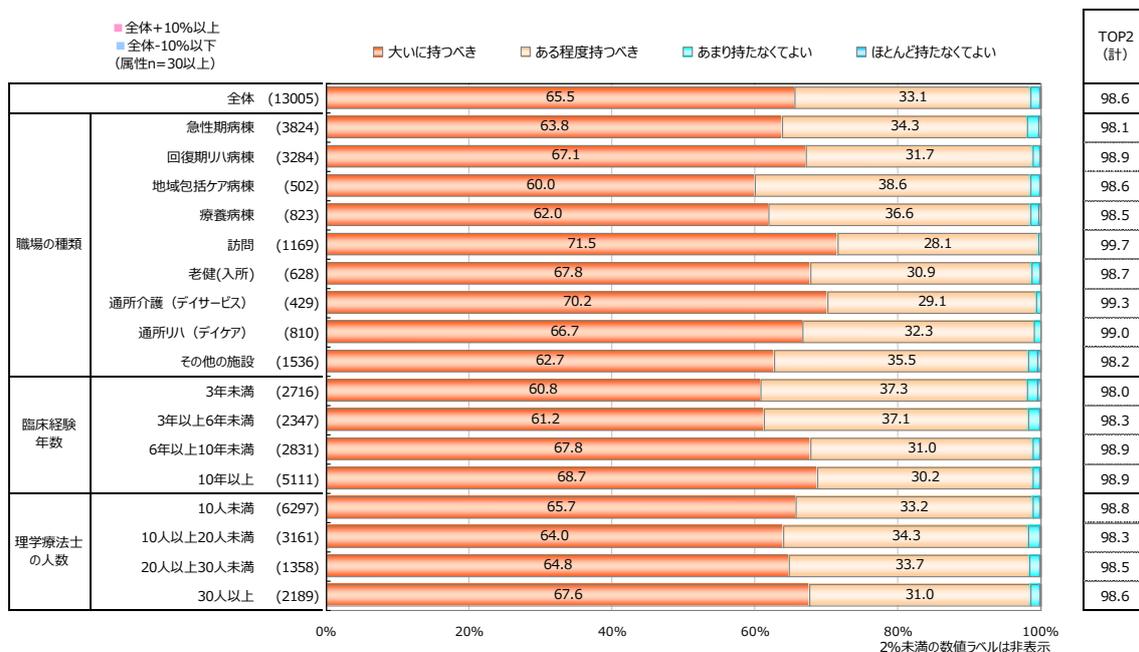
Q39 装具の装着方法に関する知識について、【】と考えているのに実際には【】となっている理由をお答えください。(お答えはいくつでも)



装具の装着方法の知識において、理想と実際のギャップの理由で最も多いのは、「差は生じていない」(46.2%)である。次いで「対象となる患者・利用者が少ない」(30.5%)、「理学療法士養成校で学ぶ時間が少ない」(21.3%)、「勉強会など施設内の研修会が少ない」(20.7%)と続く。

## 16-1)装具の生活関連動作活用知識を理学療法士がどの程度持つべきか

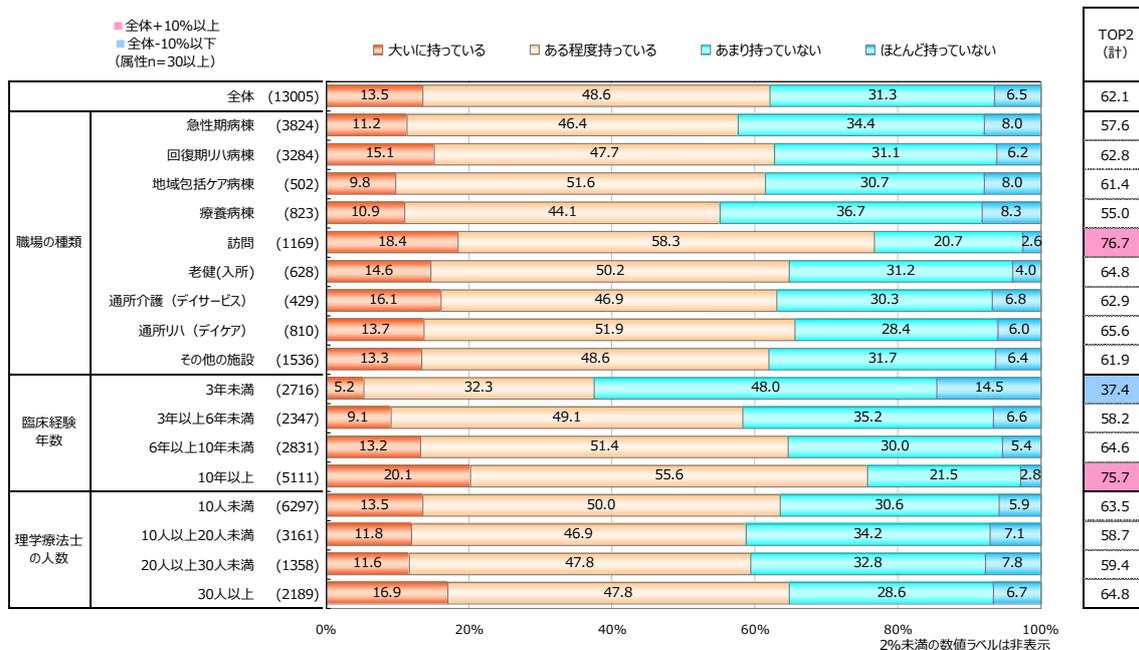
Q40\_1 装具を生活関連動作(移乗動作、入浴動作等)に活用する知識について、あなたは理学療法士がどの程度持つべきだと思いますか。(お答えは1つ)



- ✓ 装具の生活関連動作活用知識を理学療法士がどの程度持つべきかについては、「大いに持つべき」は 65.5%、「ある程度持つべき」(33.1%)を合計すると 98.6%である。
- ✓ 職場の種類では、「大いに持つべき」が「訪問」(71.5%)で最も多く、次に「通所介護(デイサービス)」(70.2%)が続く。
- ✓ 臨床経験年数が多いほど、装具の生活関連動作活用知識を「大いに持つべき」が増加する。
- ✓ 職場の理学療法士の人数が「30人以上」では、装具の生活関連動作活用知識を「大いに持つべき」が最も多い。

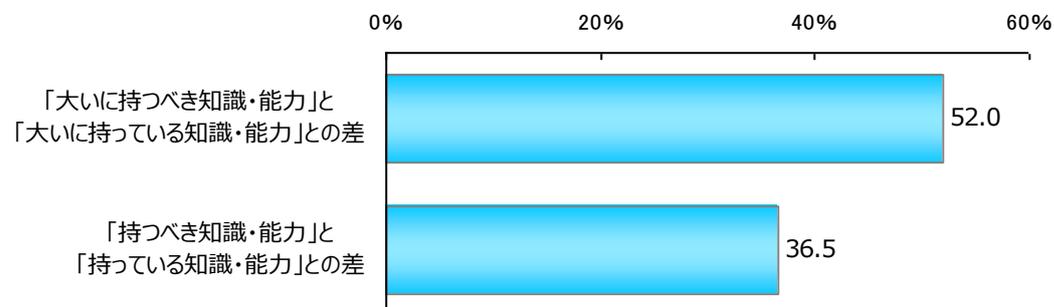
## 16-2)回答者の装具の生活関連動作活用知識

Q40\_2 装具を生活関連動作(移乗動作、入浴動作等)に活用する知識について、あなたはどの程度持っていますか。(お答えは1つ)



- ✓ 回答者の装具の生活関連動作活用知識については、「大いに持っている」は 13.5%、「ある程度持っている」は 48.6%で、合計した「知識・能力保有数」は 62.1%である。
- ✓ 職場の種類では、「知識・能力保有数」が「訪問」(76.7%)で最も多く、次に「通所リハ(デイケア)」(65.6%)が続く。
- ✓ 臨床経験年数が少ないほど、「知識・能力保有数」が少なく、「10年以上」では75.7%であるが、3年未満では37.4%である。
- ✓ 理学療法士の人数では、「30人以上」で「知識・能力保有数」で最も多い。

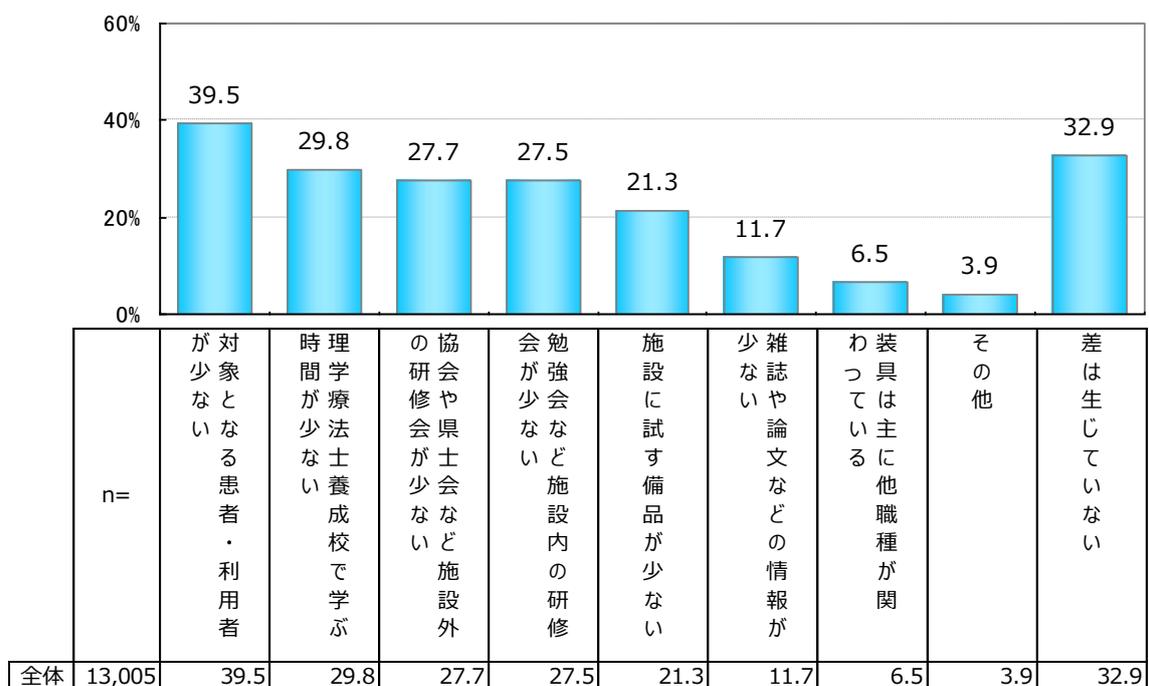
### 16-3) 装具を生活関連動作に活用する知識に対する理想と実際のギャップ



- ✓ 装具を生活関連動作に活用する知識において、「大いに持つべき知識・能力」と「大いに持っている知識・能力」とのギャップは、52.0pt であり、「持つべき知識・能力」と「持っている知識・能力」とのギャップは、36.5pt である。

16-4)装具を生活関連動作に活用する知識に対する理想と実際のギャップの理由

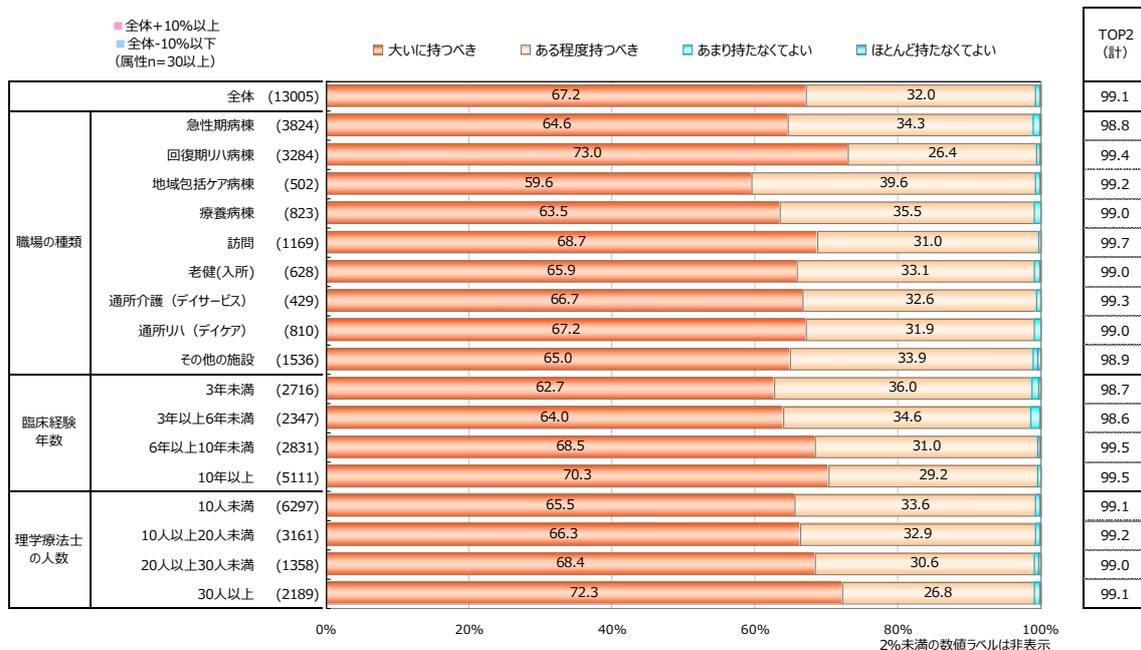
Q41 装具を生活関連動作(移乗動作、入浴動作等)に活用する知識について、【】と考えているのに実際には【】となっている理由をお答えください。(お答えはいくつでも)



装具を生活関連動作に活用する知識において、理想と実際のギャップの理由で最も多いのは、「対象となる患者・利用者が少ない」(39.5%)である。次いで「差は生じていない」(32.9%)、「理学療法士養成校で学ぶ時間が少ない」(29.8%)、「協会や県士会など施設外の研修会が少ない」(27.7%)と続く。

17-1)患者や家族への装具の活用説明能力を理学療法士がどの程度持つべきか

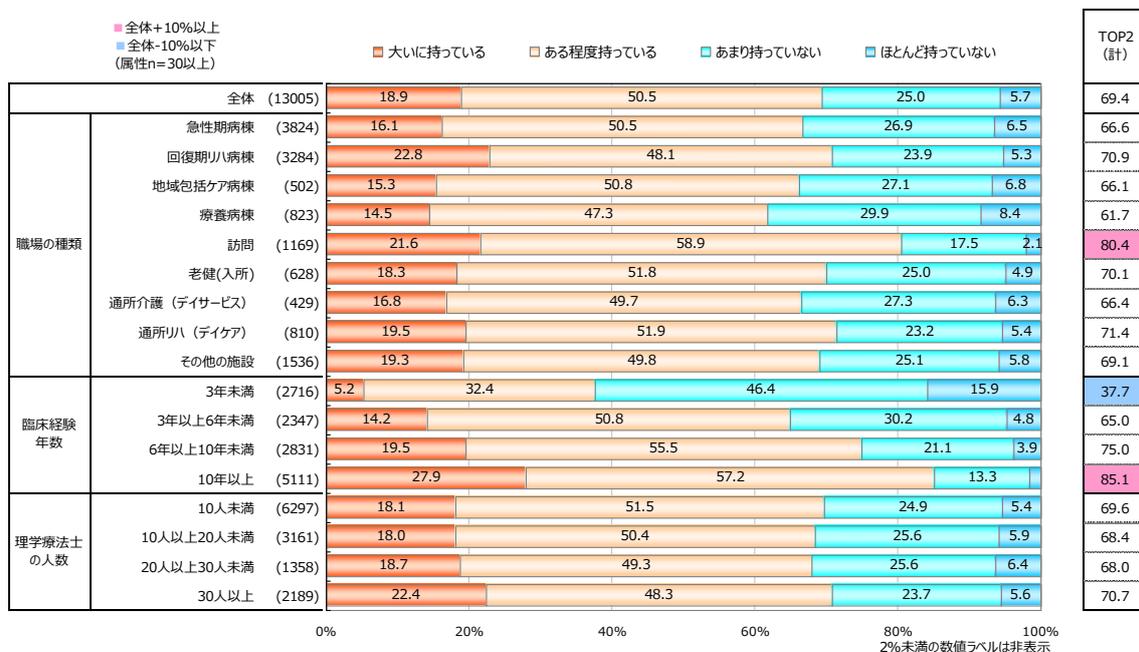
Q42\_1 装具の活用に関して患者(利用者)や家族に説明する能力について、あなたは理学療法士がどの程度持つべきだと思いますか。(お答えは1つ)



- ✓ 患者や家族への装具の活用説明能力を理学療法士がどの程度持つべきかについては、「大いに持つべき」は67.2%、「ある程度持つべき」(32.0%)を合計すると99.1%である。
- ✓ 職場の種類では、「大いに持つべき」が「回復期リハ病棟」(73.0%)で最も多く、次に「訪問」(68.7%)が続く。
- ✓ 臨床経験年数が多いほど、患者や家族への装具の活用説明能力を「大いに持つべき」が増加する。
- ✓ 職場の理学療法士の人数が多いほど、患者や家族への装具の活用説明能力を「大いに持つべき」が増加する。

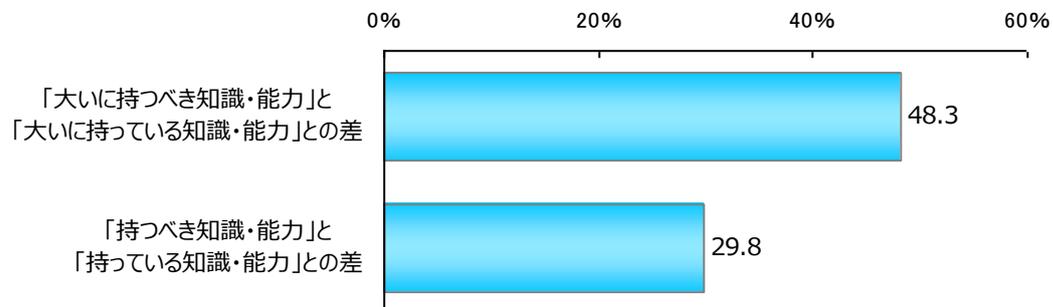
## 17-2)回答者の患者や家族への装具の活用説明能力

Q42.2 装具の活用に関して患者(利用者)や家族に説明する能力について、あなたはどの程度持っていますか。(お答えは1つ)



- ✓ 回答者の患者や家族への装具の活用説明能力については、「大いに持っている」は18.9%、「ある程度持っている」は50.5%で、合計した「知識・能力保有数」は69.4%である。
- ✓ 職場の種類では、「知識・能力保有数」が「訪問」(80.4%)で最も多く、次に「通所リハ(デイケア)」(71.4%)が続く。
- ✓ 臨床経験年数が少ないほど、「知識・能力保有数」が少なく、「10年以上」では85.1%であるが、3年未満では37.7%である。
- ✓ 理学療法士の人数では、「30人以上」で「知識・能力保有数」で最も多い。

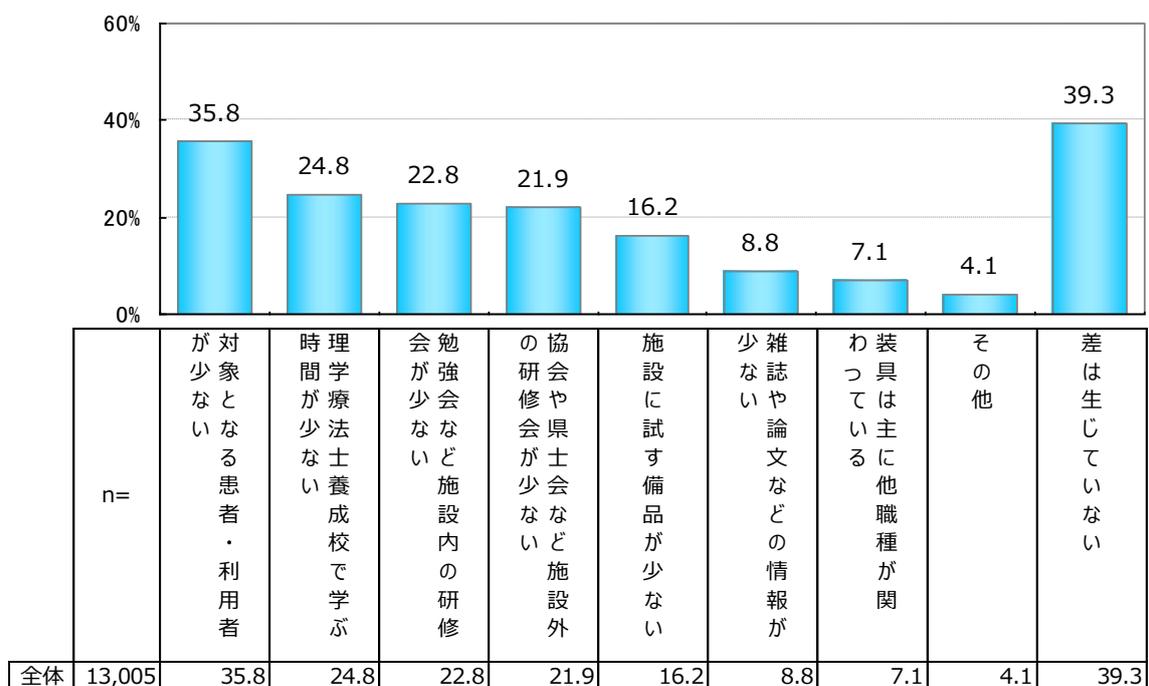
17-3) 装具活用の患者や家族に説明する能力に対する理想と実際のギャップ



- ✓ 装具活用の患者や家族に説明する能力において、「大いに持つべき知識・能力」と「大いに持っている知識・能力」とのギャップは、48.3pt であり、「持つべき知識・能力」と「持っている知識・能力」とのギャップは、29.8pt である。

17-4) 装具活用の患者や家族に説明する能力に対する理想と実際のギャップの理由

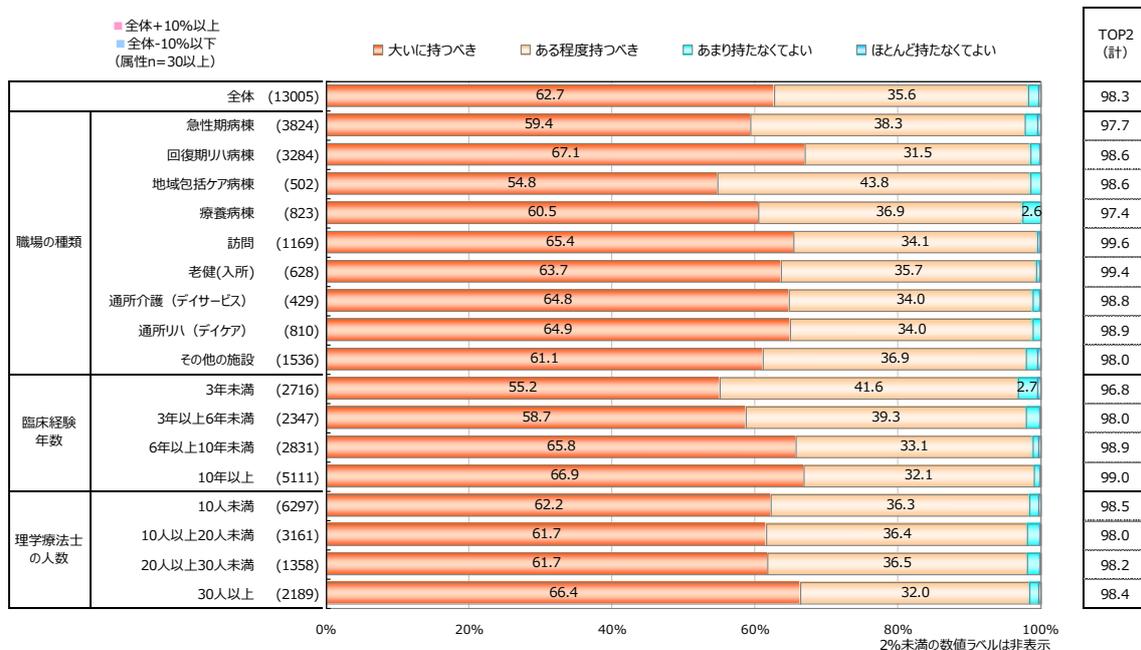
Q43 装具の活用に関して患者(利用者)や家族に説明する能力について、【】と考えているのに実際には【】となっている理由をお答えください。(お答えはいくつでも)



装具活用の患者や家族に説明する能力において、理想と実際のギャップの理由で最も多いのは、「差は生じていない」(39.3%)である。次いで「対象となる患者・利用者が少ない」(35.8%)、「理学療法士養成校で学ぶ時間が少ない」(24.8%)、「勉強会など施設内の研修会が少ない」(22.8%)と続く。

### 18-1)他職種への装具活用説明能力を理学療法士がどの程度持つべきか

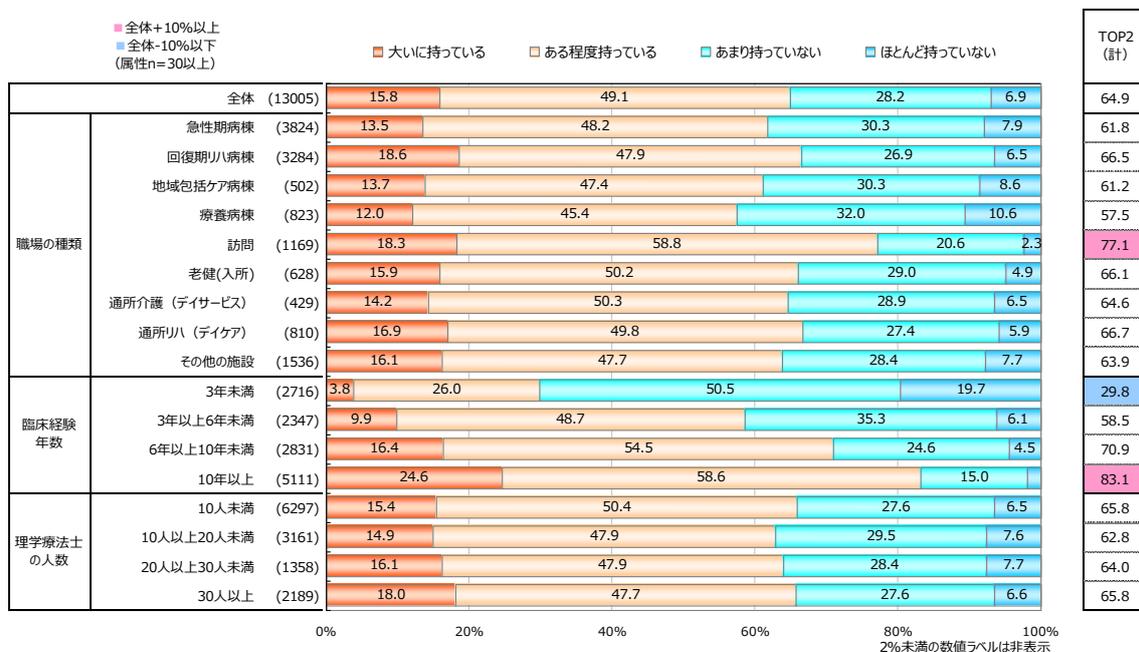
Q44\_1 装具の活用に関して他職種(医師、義肢装具士、ケアマネージャ等)に説明する能力について、あなたは理学療法士がどの程度持つべきだと思いますか。(お答えは1つ)



- ✓ 他職種への装具活用説明能力を理学療法士がどの程度持つべきかについては、「大いに持つべき」は62.7%、「ある程度持つべき」(35.6%)を合計すると98.3%である。
- ✓ 職場の種類では、「大いに持つべき」が「回復期リハ病棟」(67.1%)で最も多く、次に「訪問」(65.4%)が続く。
- ✓ 臨床経験年数が多いほど、他職種への装具活用説明能力を「大いに持つべき」が増加する。
- ✓ 職場の理学療法士の人数が「30人以上」では、他職種への装具活用説明能力を「大いに持つべき」が最も多い。

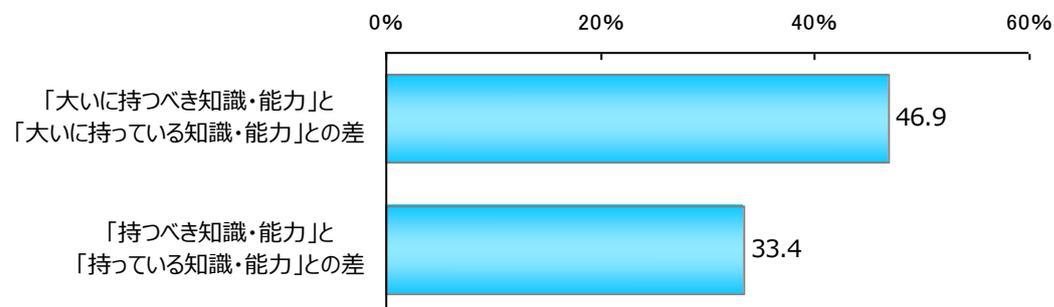
## 18-2)回答者の他職種への装具活用説明能力

Q44\_2 装具の活用に関して他職種(医師、義肢装具士、ケアマネージャ等)に説明する能力について、あなたはどの程度持っていますか。(お答えは1つ)



- ✓ 回答者の他職種への装具活用説明能力については、「大いに持っている」は 15.8%、「ある程度持っている」は 49.1%で、合計した「知識・能力保有数」は 64.9%である。
- ✓ 職場の種類では、「知識・能力保有数」が「訪問」(77.1%)で最も多く、次に「通所リハ(デイケア)」(66.7%)が続く。
- ✓ 臨床経験年数が少ないほど、「知識・能力保有数」が少なく、「10年以上」では83.1%であるが、3年未満では29.8%である。
- ✓ 理学療法士の人数では、「30人以上」で「知識・能力保有数」で最も多い。

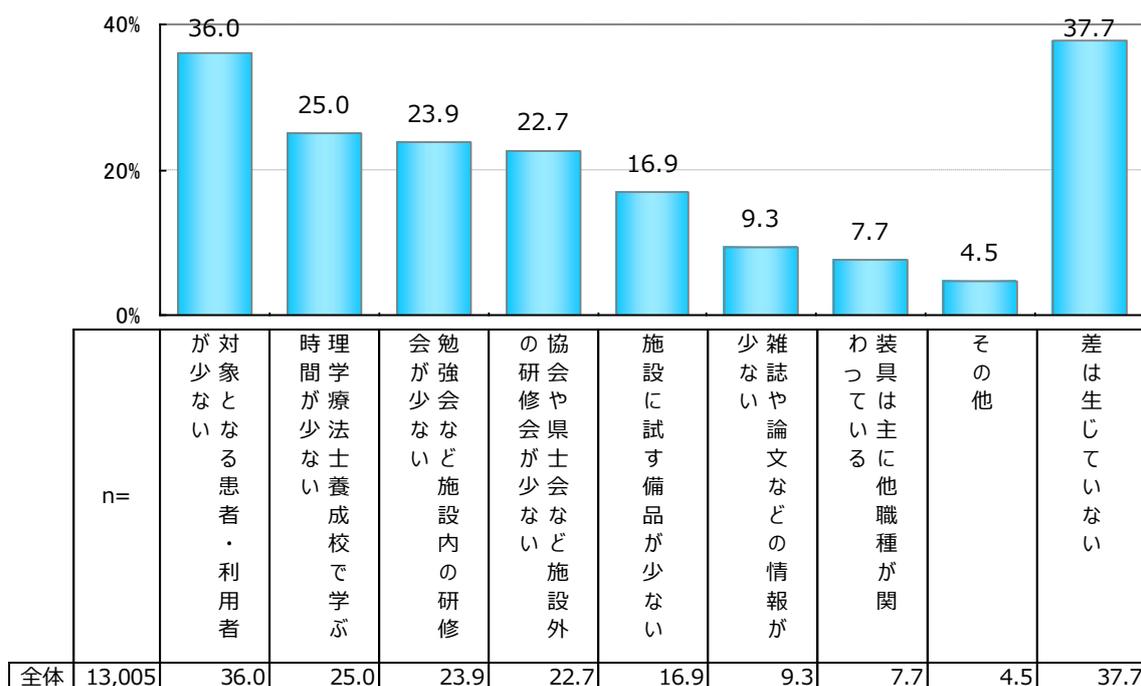
### 18-3) 装具の活用に関して他職種に説明する能力に対する理想と実際のギャップ



- ✓ 装具の活用に関して他職種に説明する能力において、「大いに持つべき知識・能力」と「大いに持っている知識・能力」とのギャップは、46.9pt であり、「持つべき知識・能力」と「持っている知識・能力」とのギャップは、33.4pt である。

18-4)装具の活用に関して他職種に説明する能力に対する理想と実際のギャップの理由

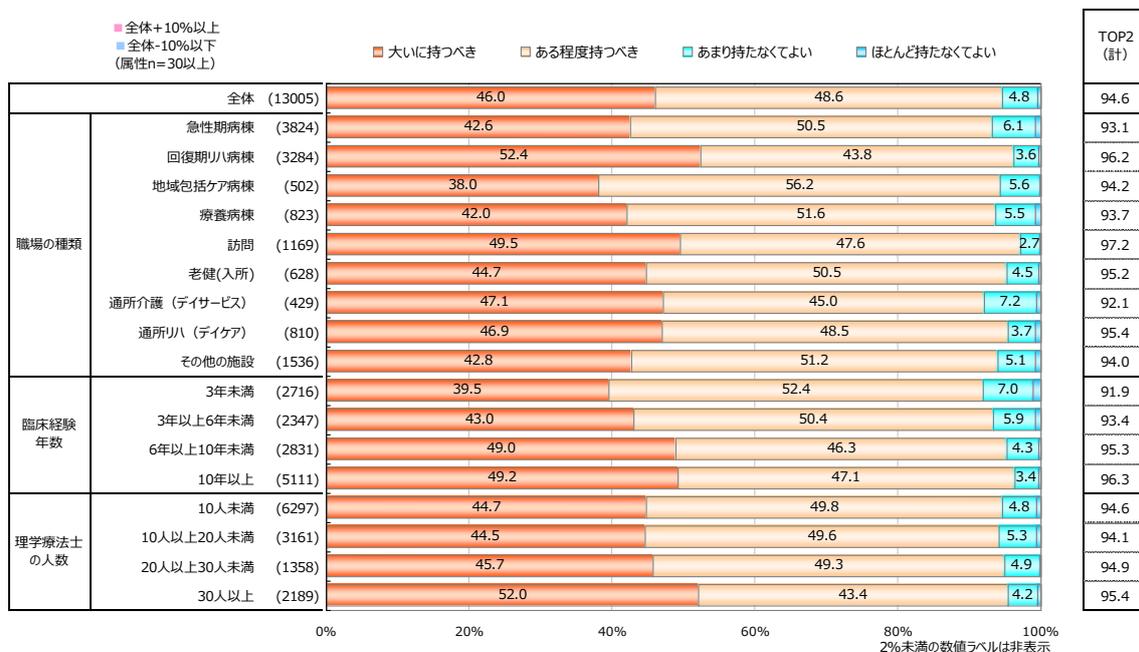
Q45 装具の活用に関して他職種(医師、義肢装具士、ケアマネージャ等)に説明する能力について、【】と考えているのに実際には【】となっている理由をお答えください。(お答えはいくつでも)



装具の活用に関して他職種に説明する能力において、理想と実際のギャップの理由で最も多いのは、「差は生じていない」(37.7%)である。次いで「対象となる患者・利用者が少ない」(36.0%)、「理学療法士養成校で学ぶ時間が少ない」(25.0%)、「勉強会など施設内の研修会が少ない」(23.9%)と続く。

## 19-1)装具作製・修理制度の知識を理学療法士がどの程度持つべきか

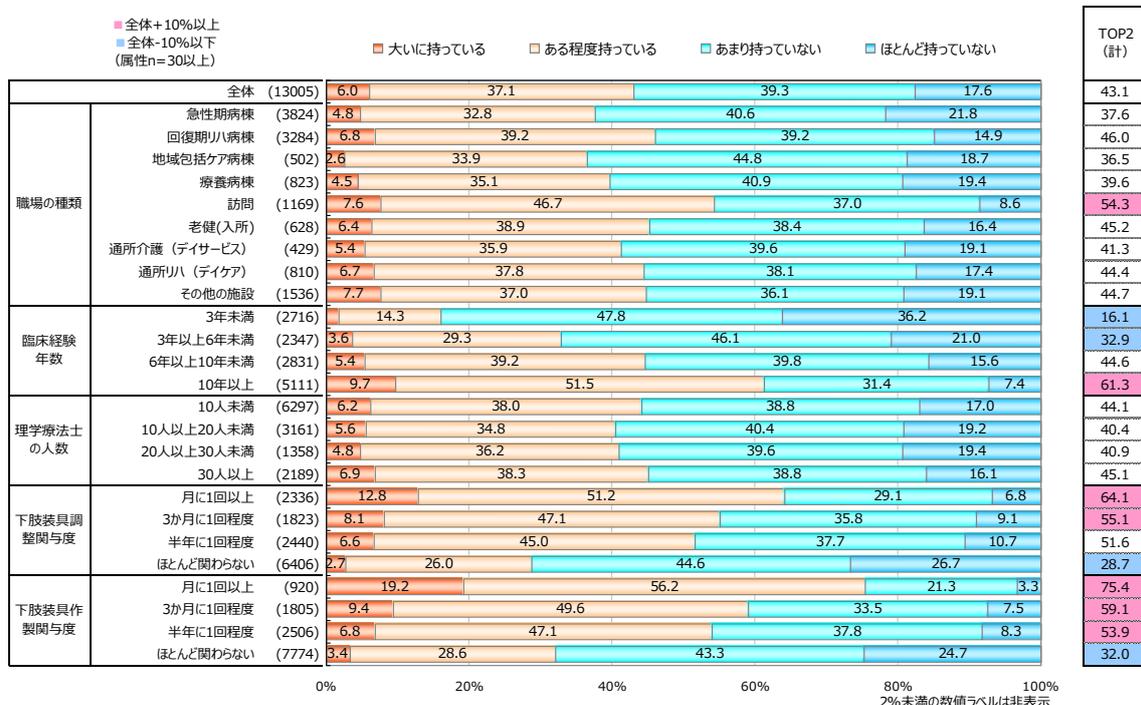
Q46\_1 装具作製・修理に関する制度(医療保険制度・障害者総合支援法等)の知識について、あなたは理学療法士がどの程度持つべきだと思いますか。(お答えは1つ)



- ✓ 装具作製・修理制度の知識を理学療法士がどの程度持つべきかについては、「大いに持つべき」は46.0%、「ある程度持つべき」(48.6%)を合計すると94.6%である。
- ✓ 職場の種類では、「大いに持つべき」が「回復期リハ病棟」(52.4%)で最も多く、次に「訪問」(49.5%)が続く。
- ✓ 臨床経験年数が多いほど、装具作製・修理制度の知識を「大いに持つべき」が増加する。
- ✓ 職場の理学療法士の人数が「30人以上」では、装具作製・修理制度の知識を「大いに持つべき」が最も多い。

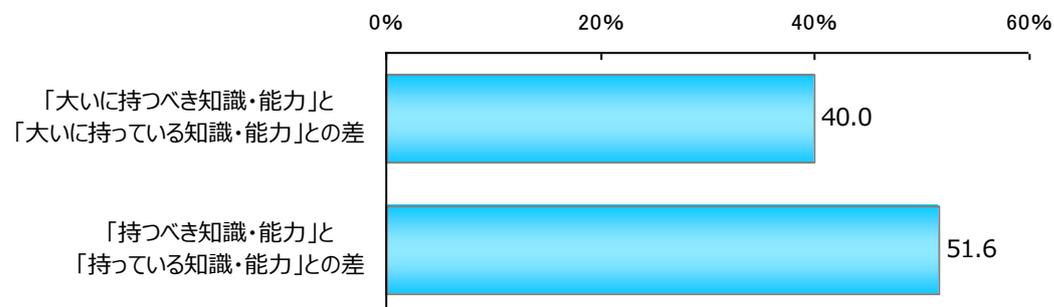
## 19-2)回答者の装具作製・修理制度の知識

Q46\_2 装具作製・修理に関する制度(医療保険制度・障害者総合支援法等)の知識について、あなたはどの程度持っていますか。(お答えは1つ)



- ✓ 回答者の装具作製・修理制度の知識については、「大いに持っている」は 6.0%、「ある程度持っている」は 37.1%で、合計した「知識・能力保有数」は 43.1%である。
- ✓ 職場の種類では、「知識・能力保有数」が「訪問」(54.3%)で最も多く、次に「回復期リハ病棟」(46.0%)が続く。
- ✓ 臨床経験年数が少ないほど、「知識・能力保有数」が少なく、「10年以上」では61.3%であるが、3年未満では16.1%である。
- ✓ 理学療法士の人数では、「30人以上」で「知識・能力保有数」で最も多い。
- ✓ 下肢装具の調整関与度が多いほど、制度に関する「知識・能力保有数」は増加する。
- ✓ 下肢装具の作製関与度が多いほど、制度に関する「知識・能力保有数」は増加する。

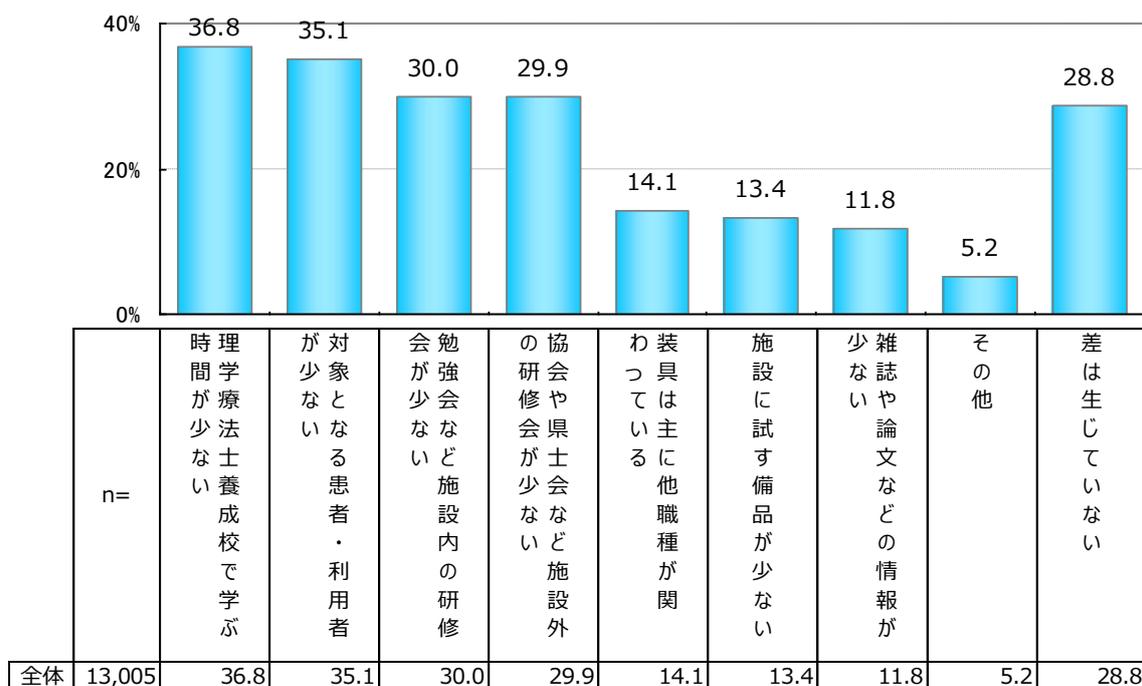
### 19-3) 装具作製・修理に関する制度の知識に対する理想と実際のギャップ



- ✓ 装具作製・修理に関する制度の知識において、「大いに持つべき知識・能力」と「大いに持っている知識・能力」とのギャップは、40.0pt であり、「持つべき知識・能力」と「持っている知識・能力」とのギャップは、51.6pt である。

19-4)装具作製・修理に関する制度の知識に対する理想と実際のギャップの理由

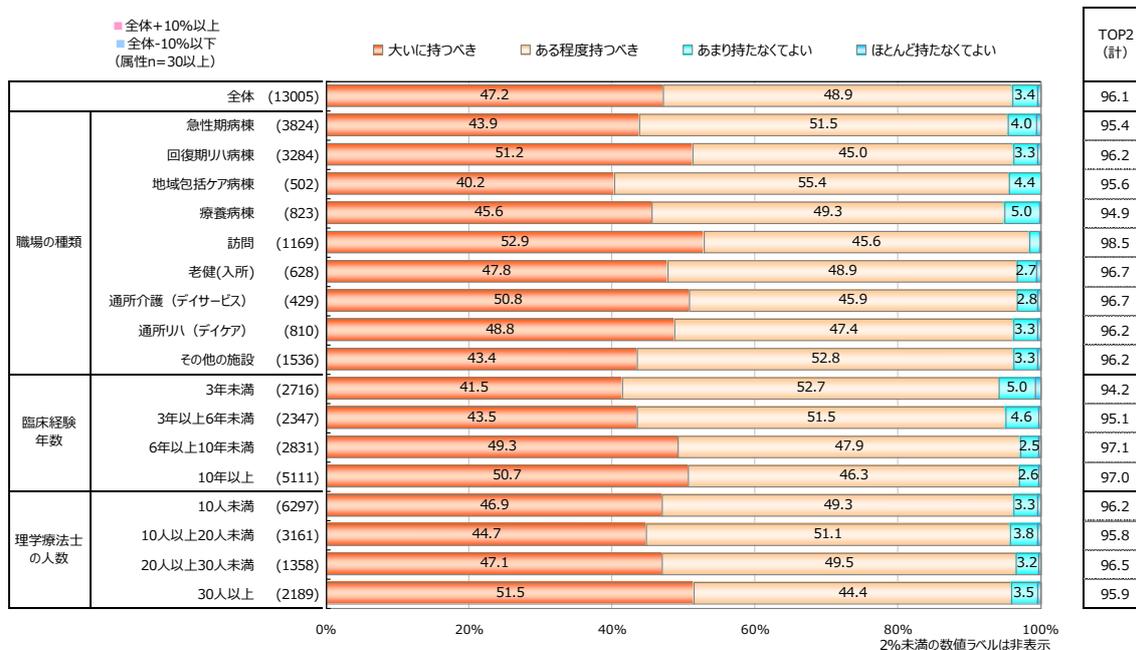
Q47 装具作製・修理に関する制度(医療保険制度・障害者総合支援法等)の知識について、【】と考えているのに実際には【】となっている理由をお答えください。(お答えはいくつでも)



装具作製・修理に関する制度の知識において、理想と実際のギャップの理由で最も多いのは、「理学療法士養成校で学ぶ時間が少ない」(36.8%)である。次いで「対象となる患者・利用者が少ない」(35.1%)、「勉強会など施設内の研修会が少ない」(30.0%)、「協会や県士会など施設外の研修会が少ない」(29.9%)と続く。

## 20-1) 装具の相談先の知識を理学療法士がどの程度持つべきか

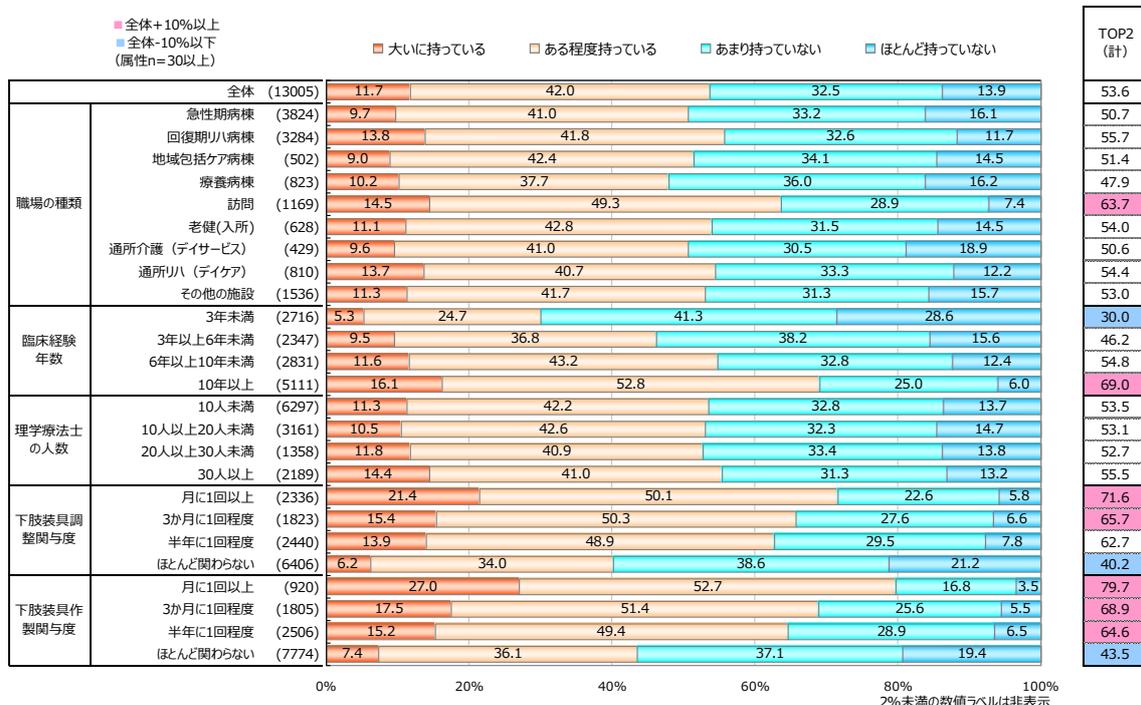
Q48\_1 装具に関する相談先についての知識について、あなたは理学療法士がどの程度持つべきだと思いますか。(お答えは1つ)



- ✓ 装具の相談先の知識を理学療法士がどの程度持つべきかについては、「大いに持つべき」は47.2%、「ある程度持つべき」(48.9%)を合計すると96.1%である。
- ✓ 職場の種類では、「大いに持つべき」が「訪問」(52.9%)で最も多く、次に「回復期リハ病棟」(51.2%)が続く。
- ✓ 臨床経験年数が多いほど、装具の相談先の知識を「大いに持つべき」が増加する。
- ✓ 職場の理学療法士の人数が「30人以上」では、装具の相談先の知識を「大いに持つべき」が最も多い。

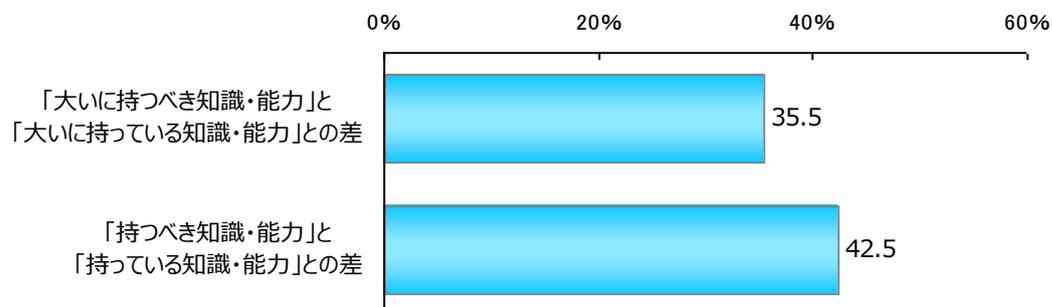
## 20-2)回答者の装具の相談先の知識

Q48\_2 装具に関する相談先についての知識について、あなたはどの程度持っていますか。  
(お答えは1つ)



- ✓ 回答者の装具の相談先の知識については、「大いに持っている」は 11.7%、「ある程度持っている」は 42.0%で、合計した「知識・能力保有数」は 53.6%である。
- ✓ 職場の種類では、「知識・能力保有数」が「訪問」(63.7%)で最も多く、次に「回復期リハ病棟」(55.7%)が続く。
- ✓ 臨床経験年数が少ないほど、「知識・能力保有数」が少なく、「10年以上」では69.0%であるが、3年未満では30.0%である。
- ✓ 理学療法士の人数では、「30人以上」で「知識・能力保有数」で最も多い。
- ✓ 下肢装具の調整関与度が多いほど、相談先に関する「知識・能力保有数」は増加する。
- ✓ 下肢装具の作製関与度が多いほど、相談先に関する「知識・能力保有数」は増加する。

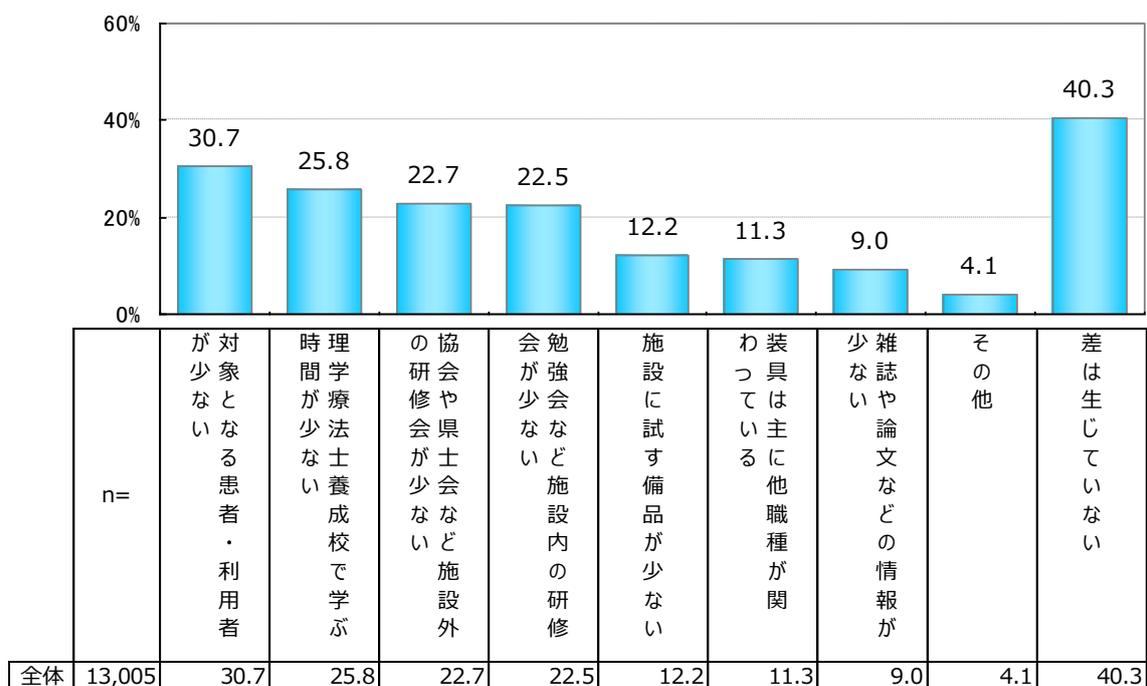
### 20-3) 装具の相談先の知識に対する理想と実際のギャップ



- ✓ 装具の相談先の知識において、「大いに持つべき知識・能力」と「大いに持っている知識・能力」とのギャップは、35.5pt であり、「持つべき知識・能力」と「持っている知識・能力」とのギャップは、42.5pt である。

20-4)装具の相談先の知識に対する理想と実際のギャップの理由

Q49 装具に関する相談先についての知識について、【】と考えているのに実際には【】となっている理由をお答えください。(お答えはいくつでも)



装具の相談先の知識において、理想と実際のギャップの理由で最も多いのは、「差は生じていない」(40.3%)である。次いで「対象となる患者・利用者が少ない」(30.7%)、「理学療法士養成校で学ぶ時間が少ない」(25.8%)、「協会や県士会など施設外の研修会が少ない」(22.7%)と続く。

## 第3章 結果のまとめ

今回の調査では、下肢装具の目的・種類・部品・修理等に関する知識、疾患や病態・機能解剖学・運動学等に関する知識、歩行練習や介助方法・歩行評価等に関する知識、装具による創傷対応や衛生管理に関する知識、患者・家族や他職種への説明能力、装具に関する制度や問い合わせの知識等、理学療法士に必要とされる装具の知識・能力に関する 20 項目について web アンケートを実施した。

その結果、すべての項目において半数以上の理学療法士がこれらの知識・能力に対して「大いに持つべき」、ほぼ全員が「持つべき」と回答している。一方、回答者の持っている装具の知識・能力については、「大いに持っている」と回答した者は 3 割未満で、「持っている」を合わせた知識・能力保有数も半数程度に留まっている。次に装具の知識・能力に対する理想と実際のギャップにおいて、「大いに持つべき」と「大いに持っている」の間には、40pt から 60pt 程度の差があり、「持つべき」と「持っている」の間にも 20pt から 50pt 程度の差がみられる。これより、実際に保有している装具の知識・能力は、本来持つべき理想に比べると、大いに不足していることが示唆される。

装具の知識・能力において、理想の「大いに持つべき」と実際の「大いに持っている」とのギャップが大きい項目は、装具活用の機能解剖学の知識、異常歩行の知識、正常歩行の知識、歩行練習や介助方法の技術の順であるが、これらは日常的に必要とされる知識・能力である。一方、理想の「持つべき」と実際の「持っている」とのギャップが大きい項目は、装具作製・修理制度の知識、装具の衛生管理知識、装具部品の種類と適応の知識、装具の劣化・破損知識の順であるが、これらは必要な場面が生じたときにのみ対応する知識・能力である。すなわち、装具学習の基礎となる装具活用の意義・目的に関する知識、装具の種類や適応の知識とは別な項目において、理想と実際との間に大きなギャップが生じているのが現状である。

これらのギャップを生じさせる理由として、すべての質問項目において理学療法士養成校で学ぶ時間が少ない、協会や県士会など施設外の研修会が少ない、勉強会など施設内の研修会が少ないなど、卒前・卒後に関わらず教育の不足が挙げられる。また対象となる患者・利用者の数が少ない、施設に試す備品が少ないなど、日常業務において装具に関わる機会が少ないことも挙げられる。一方、装具の装着方法に関する知識、装具に関する相談先についての知識、装具の活用に関して患者や家族に説明する能力、装具の活用に関して他職種に説明する能力、装具の活用に関わる正常歩行の知識では、理想と実際との間に差は生じていないという回答も多い。これらは理想と実際がどちらも高い状態、すなわち日常業務において装具に十分に関われているという状況と、反対に理想と実際がどちらも低い状態、すなわち装具に関わる機会が少ないために差が生じていない状況が存在するため注意が必要である。

装具の知識・能力において、「大いに持つべきである」と回答した理学療法士は、職場の種類では、回復期リハ病棟、訪問で多く、地域包括ケア病棟や療養病棟では少ない傾向がみられる。また臨床経験年数が少ないほど減少し、職場の理学療法士の人数が 30 人以上では増加する傾向がみられる。装具の知識・能力において、「大いに持っている」と「持っている」を合わせた知識・能力保有数は、職場の種類では訪問、回復期リハ病棟、通所リハ（デイケア）が

多く、地域包括ケア病棟や療養病棟では少ない傾向がみられる。また臨床経験年数が少ないほど減少し、職場の理学療法士の人数が30人以上では増加する傾向がみられる。このように装具の知識・能力において、「大いに持つべき」とする回答数と知識・能力保有数との間には、職場の種類、臨床経験年数、職場の理学療法士の人数において共通した傾向がある。その他、装具の作製や調整に関わる頻度が高いほど、装具の作製・修理に関する制度や相談先の知識は増加するという結果であるが、作製には約6割、調整には約5割の理学療法士が「ほとんど関わらない」と回答しているのが現状である。

以上より、理学療法士に必要とされる装具の知識・能力は、多岐に渡り持つべきであると認識されているが、実際には大いに不足しており、特に教育の不足や装具に関わる機会の少なさが、理想と実際とのギャップを広げる理由となっている。また、装具の知識・能力を持つべき、持っているという認識は、職場の種類、臨床経験年数、職場の理学療法士の人数において差があり、今後装具の啓発・教育活動を行う際には、これらを踏まえたきめ細かな対策が必要であると考えられる。



# 資料

## 1. 依頼文（メール文）

【勤務先】

【氏名】様

---

（本メールは装具に関する調査のご案内メールです。）

---

謹啓 時下、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素より協会運営にご理解を賜り、厚く御礼申し上げます。

日本支援工学理学療法学会では装具に対する理学療法士の関わりの実態を明らかにし、啓発・教育に生かすことを目指して、この度アンケート調査を実施させて頂くこととなりました。

師走のお忙しい時期とは存じますが、何卒ご協力賜りますよう、お願い申し上げます。

なお、今回の調査は、機密性を保持するため、

（株）ネオマーケティング経由で調査のやりとり及びデータ分析を行います。

### ◆アンケート内容に関して

- ・装具に関する調査
  - ・設問数:49問(10～15分程度)
  - ・ご回答期間:2017年12月26日(火)18:00まで
- 

### 回答方法

---

以下のURLよりアンケートページにお入りください。

IDとパスワードを入力し、ご回答をお願いします。

※アンケートにご回答いただく際のネットワーク環境は

「IE8以上」にてお願いいたします。

▽こちら

URL:https://\*\*\*\*\*

ID:\*\*\*\*\*

PW:\*\*\*\*\*

※回答者お一人ごとにID、パスワードは異なります。

IDはランダムに割り振っており、個人を特定する目的ではございません。

ご不明点等ございましたら、下記連絡先までお気軽にご連絡ください。

今後とも宜しくお願い致します。

---

**【アンケートの内容に関するお問い合わせ】**

お問い合わせはメールにてお願い致します。

日本理学療法士協会

支援工学学会調査担当

academics@japanpt.or.jp

**【結果の利用について】**

ご回答いただきました内容は、本調査以外の目的には使用いたしません。

また、結果公表にあたっては統計処理を行い、個人が特定できないよういたします。

## 2. 調査項目

### ■ 本調査

全員回答

[改ページ](#)

- FA IDとパスワードを入力してください。

ID:

パスワード:

全員回答

[改ページ](#)

Q1 SA あなたが現在、主に勤務している職場の種類をお答えください。  
(お答えは1つ)

<input type="radio"/>	○1	急性期病棟
<input type="radio"/>	○2	回復期リハ病棟
<input type="radio"/>	○3	地域包括ケア病棟
<input type="radio"/>	○4	療養病棟
<input type="radio"/>	○5	訪問
<input type="radio"/>	○6	老健(入所)
<input type="radio"/>	○7	通所介護(デイサービス)
<input type="radio"/>	○8	通所リハ(デイケア)
<input type="radio"/>	○9	その他、臨床業務を行っている施設( )
<input type="radio"/>	○10	臨床業務を行っていない(教育・研究機関等)

→調査終了

全員回答

[改ページ](#)

Q2 SA 前問でご回答いただいた職場【※Q1の回答を表示 その他の場合は回答内容を表示】の理学療法士の人数をお答えください。  
(お答えは1つ)

<input type="radio"/>	○1	10人未満
<input type="radio"/>	○2	10人以上20人未満
<input type="radio"/>	○3	20人以上30人未満
<input type="radio"/>	○4	30人以上

全員回答

[改ページ](#)

Q3 SA あなたの臨床経験年数をお答えください(臨床業務を行っていない期間は除いてください)。  
(お答えは1つ)

<input type="radio"/>	○1	3年未満
<input type="radio"/>	○2	3年以上6年未満
<input type="radio"/>	○3	6年以上10年未満
<input type="radio"/>	○4	10年以上

全員回答

[改ページ](#)

Q4 MA あなたが日常的に関わっている主な疾患を3つまでお答えください。  
(お答えは3つまで)

<input type="checkbox"/>	□1	脳血管障害
<input type="checkbox"/>	□2	脊髄損傷
<input type="checkbox"/>	□3	運動器疾患
<input type="checkbox"/>	□4	廃用症候群
<input type="checkbox"/>	□5	神経難病
<input type="checkbox"/>	□6	脳性麻痺
<input type="checkbox"/>	□7	内部疾患
<input type="checkbox"/>	□8	小児疾患
<input type="checkbox"/>	□9	虚弱高齢
<input type="checkbox"/>	□10	その他( )

全員回答

[改ページ](#)

Q5 NUM あなたが関わる支援対象者のうち、装具を必要とする方のおおよその割合をお答えください。  
(お答えは半角数字で)  
※0~10の数字でお答えください。対象者がいない場合は「0」と入力してください。

割程度 ※0~10の整数のみ

Q6 MA あなたが日常的に関わっている下肢装具の種類についてお答えください。  
 (お答えはいくつでも)  
 ※あなたが関わっている支援対象者に、装具を必要とする方がいない方は「ほとんど関わらない」をお選びください。

<input type="checkbox"/>	1	長下肢装具
<input type="checkbox"/>	2	金属支柱付き短下肢装具
<input type="checkbox"/>	3	靴べら式短下肢装具 (SHB)
<input type="checkbox"/>	4	継手付プラスチック製短下肢装具
<input type="checkbox"/>	5	オルトツプAFO
<input type="checkbox"/>	6	足関節サポーター
<input type="checkbox"/>	7	膝装具
<input type="checkbox"/>	8	その他 ( )
<input type="checkbox"/>	9	ほとんど関わらない

排他

Q7 SA あなたが日常業務において、下肢装具の「活用」に関わることはどの程度ありますか。  
 (お答えは1つ)

<input type="radio"/>	1	ほぼ毎日
<input type="radio"/>	2	1週間に1回程度
<input type="radio"/>	3	月に1回程度
<input type="radio"/>	4	ほとんど関わらない

Q8 SA あなたが日常業務において、下肢装具の「作製」に関わることはどの程度ありますか。  
 (お答えは1つ)

<input type="radio"/>	1	月に1回以上
<input type="radio"/>	2	3か月に1回程度
<input type="radio"/>	3	半年に1回程度
<input type="radio"/>	4	ほとんど関わらない

Q9 SA あなたが日常業務において、下肢装具の「調整」(関節角度の調整、部品の交換等)に関わることはどの程度ありますか。  
 (お答えは1つ)

<input type="radio"/>	1	月に1回以上
<input type="radio"/>	2	3か月に1回程度
<input type="radio"/>	3	半年に1回程度
<input type="radio"/>	4	ほとんど関わらない

Q10\_1 SA 装具活用の意義・目的に関する知識について、あなたは理学療法士がどの程度持つべきだと思いますか。  
 (お答えは1つ)

<input type="radio"/>	1	大いに持つべき
<input type="radio"/>	2	ある程度持つべき
<input type="radio"/>	3	あまり持たなくてよい
<input type="radio"/>	4	ほとんど持たなくてよい

Q10\_2 SA 装具活用の意義・目的に関する知識について、あなたはどの程度持っていますか。  
 (お答えは1つ)

<input type="radio"/>	1	大いに持っている
<input type="radio"/>	2	ある程度持っている
<input type="radio"/>	3	あまり持っていない
<input type="radio"/>	4	ほとんど持っていない

Q11 MA 装具活用の意義・目的についての知識について、  
 【※Q10\_1の回答を表示】と考えているのに実際には【※Q10\_2の回答を表示】となっている理由をお答えください。  
 (お答えはいくつでも)

<input type="checkbox"/>	1	理学療法士養成校で学ぶ時間が少ない
<input type="checkbox"/>	2	協会や県士会など施設外の研修会が少ない
<input type="checkbox"/>	3	勉強会など施設内の研修会が少ない
<input type="checkbox"/>	4	雑誌や論文などの情報が少ない
<input type="checkbox"/>	5	対象となる患者・利用者が少ない
<input type="checkbox"/>	6	施設に試す備品が少ない
<input type="checkbox"/>	7	装具は主に他職種が関わっている
<input type="checkbox"/>	8	その他 ( )
<input type="checkbox"/>	9	差は生じていない

※1~8は、Q10\_1=1目つQ10\_2=2~4にON、  
 またはQ10\_1=2目つQ10\_2=1,3,4にON、  
 またはQ10\_1=3目つQ10\_2=1,2,4にON、  
 またはQ10\_1=4目つQ10\_2=1~3にONの方のみ表示

←9はQ10\_1=1目つQ10\_2=1、またはQ10\_1=2目つQ10\_2=2、  
 またはQ10\_1=3目つQ10\_2=3、またはQ10\_1=4目つQ10\_2=4にONの方のみ表示

全員回答

改ページ

Q12\_1 SA 装具の種類（長下肢装具、プラスチック短下肢装具、オルトトップ等）と適応に関する知識について、あなたは理学療法士がどの程度持つべきだと思いますか。（お答えは1つ）

<input type="radio"/> 1	大いに持つべき
<input type="radio"/> 2	ある程度持つべき
<input type="radio"/> 3	あまり持たなくてよい
<input type="radio"/> 4	ほとんど持たなくてよい

Q12\_2 SA 装具の種類（長下肢装具、プラスチック短下肢装具、オルトトップ等）と適応に関する知識について、あなたはどの程度持っていますか。（お答えは1つ）

<input type="radio"/> 1	大いに持っている
<input type="radio"/> 2	ある程度持っている
<input type="radio"/> 3	あまり持っていない
<input type="radio"/> 4	ほとんど持っていない

戻る 次へ

全員回答

改ページ

Q13 MA 装具の種類（長下肢装具、プラスチック短下肢装具、オルトトップ等）と適応に関する知識について、【※Q12\_1の回答を表示】と考えているのに実際には【※Q12\_2の回答を表示】となっている理由をお答えください。（お答えはいくつでも）

<input type="checkbox"/> 1	理学療法士養成校で学ぶ時間が少ない
<input type="checkbox"/> 2	協会や県士会など施設外の研修会が少ない
<input type="checkbox"/> 3	勉強会など施設内の研修会が少ない
<input type="checkbox"/> 4	雑誌や論文などの情報が少ない
<input type="checkbox"/> 5	対象となる患者・利用者が少ない
<input type="checkbox"/> 6	施設に試す備品が少ない
<input type="checkbox"/> 7	装具は主に他職種が関わっている
<input type="checkbox"/> 8	その他（ ）
<input type="checkbox"/> 9	差は生じていない

※□1～8は、Q12\_1=1目つQ12\_2=2～4にON、  
またはQ12\_1=2目つQ12\_2=1,3,4にON、  
またはQ12\_1=3目つQ12\_2=1,2,4にON、  
またはQ12\_1=4目つQ12\_2=1～3にONの方のみ表示

←□9はQ12\_1=1目つQ12\_2=1、またはQ12\_1=2目つQ12\_2=2、  
またはQ12\_1=3目つQ12\_2=3、またはQ12\_1=4目つQ12\_2=4にONの方のみ表示

戻る 次へ

全員回答

改ページ

Q14\_1 SA 装具の部品（膝・足継手、Tストラップ、膝パッド等）の種類と適応に関する知識について、あなたは理学療法士がどの程度持つべきだと思いますか。（お答えは1つ）

<input type="radio"/> 1	大いに持つべき
<input type="radio"/> 2	ある程度持つべき
<input type="radio"/> 3	あまり持たなくてよい
<input type="radio"/> 4	ほとんど持たなくてよい

Q14\_2 SA 装具の部品（膝・足継手、Tストラップ、膝パッド等）の種類と適応に関する知識について、あなたはどの程度持っていますか。（お答えは1つ）

<input type="radio"/> 1	大いに持っている
<input type="radio"/> 2	ある程度持っている
<input type="radio"/> 3	あまり持っていない
<input type="radio"/> 4	ほとんど持っていない

戻る 次へ

全員回答

改ページ

Q15 MA 装具の部品（膝・足継手、Tストラップ、膝パッド等）の種類と適応に関する知識について、【※Q14\_1の回答を表示】と考えているのに実際には【※Q14\_2の回答を表示】となっている理由をお答えください。（お答えはいくつでも）

<input type="checkbox"/> 1	理学療法士養成校で学ぶ時間が少ない
<input type="checkbox"/> 2	協会や県士会など施設外の研修会が少ない
<input type="checkbox"/> 3	勉強会など施設内の研修会が少ない
<input type="checkbox"/> 4	雑誌や論文などの情報が少ない
<input type="checkbox"/> 5	対象となる患者・利用者が少ない
<input type="checkbox"/> 6	施設に試す備品が少ない
<input type="checkbox"/> 7	装具は主に他職種が関わっている
<input type="checkbox"/> 8	その他（ ）
<input type="checkbox"/> 9	差は生じていない

※□1～8は、Q14\_1=1目つQ14\_2=2～4にON、  
またはQ14\_1=2目つQ14\_2=1,3,4にON、  
またはQ14\_1=3目つQ14\_2=1,2,4にON、  
またはQ14\_1=4目つQ14\_2=1～3にONの方のみ表示

←□9はQ14\_1=1目つQ14\_2=1、またはQ14\_1=2目つQ14\_2=2、  
またはQ14\_1=3目つQ14\_2=3、またはQ14\_1=4目つQ14\_2=4にONの方のみ表示

戻る 次へ

全員回答

[改ページ](#)

Q16\_1 SA 器具の活用に関わる疾患や病態に関する知識について、あなたは理学療法士がどの程度持つべきだと思いますか。  
(お答えは1つ)

<input type="radio"/> 1	大いに持つべき
<input type="radio"/> 2	ある程度持つべき
<input type="radio"/> 3	あまり持たなくてよい
<input type="radio"/> 4	ほとんど持たなくてよい

Q16\_2 SA 器具の活用に関わる疾患や病態に関する知識について、あなたはどの程度持っていますか。  
(お答えは1つ)

<input type="radio"/> 1	大いに持っている
<input type="radio"/> 2	ある程度持っている
<input type="radio"/> 3	あまり持っていない
<input type="radio"/> 4	ほとんど持っていない

全員回答

[改ページ](#)

Q17 MA 器具の活用に関わる疾患や病態に関する知識について、  
【※Q16\_1の回答を表示】と考えているのに実際には【※Q16\_2の回答を表示】となっている理由をお答えください。  
(お答えはいくつでも)

<input type="checkbox"/> 1	理学療法士養成校で学ぶ時間が少ない
<input type="checkbox"/> 2	協会や県士会など施設外の研修会が少ない
<input type="checkbox"/> 3	勉強会など施設内の研修会が少ない
<input type="checkbox"/> 4	雑誌や論文などの情報が少ない
<input type="checkbox"/> 5	対象となる患者・利用者が少ない
<input type="checkbox"/> 6	施設に試す備品が少ない
<input type="checkbox"/> 7	器具は主に他職種が関わっている
<input type="checkbox"/> 8	その他 ( )
<input type="checkbox"/> 9	差は生じていない

※1~8は、Q16\_1=1目つQ16\_2=2~4にON、  
またはQ16\_1=2目つQ16\_2=1,3,4にON、  
またはQ16\_1=3目つQ16\_2=1,2,4にON、  
またはQ16\_1=4目つQ16\_2=1~3にONの方のみ表示

←9はQ16\_1=1目つQ16\_2=1、またはQ16\_1=2目つQ16\_2=2、  
またはQ16\_1=3目つQ16\_2=3、またはQ16\_1=4目つQ16\_2=4にONの方のみ表示

全員回答

[改ページ](#)

Q18\_1 SA 器具の活用に関わる機能解剖学（筋内の働き等）に関する知識について、あなたは理学療法士がどの程度持つべきだと思いますか。  
(お答えは1つ)

<input type="radio"/> 1	大いに持つべき
<input type="radio"/> 2	ある程度持つべき
<input type="radio"/> 3	あまり持たなくてよい
<input type="radio"/> 4	ほとんど持たなくてよい

Q18\_2 SA 器具の活用に関わる機能解剖学（筋内の働き等）に関する知識について、あなたはどの程度持っていますか。  
(お答えは1つ)

<input type="radio"/> 1	大いに持っている
<input type="radio"/> 2	ある程度持っている
<input type="radio"/> 3	あまり持っていない
<input type="radio"/> 4	ほとんど持っていない

全員回答

[改ページ](#)

Q19 MA 器具の活用に関わる機能解剖学（筋内の働き等）に関する知識について、  
【※Q18\_1の回答を表示】と考えているのに実際には【※Q18\_2の回答を表示】となっている理由をお答えください。  
(お答えはいくつでも)

<input type="checkbox"/> 1	理学療法士養成校で学ぶ時間が少ない
<input type="checkbox"/> 2	協会や県士会など施設外の研修会が少ない
<input type="checkbox"/> 3	勉強会など施設内の研修会が少ない
<input type="checkbox"/> 4	雑誌や論文などの情報が少ない
<input type="checkbox"/> 5	対象となる患者・利用者が少ない
<input type="checkbox"/> 6	施設に試す備品が少ない
<input type="checkbox"/> 7	器具は主に他職種が関わっている
<input type="checkbox"/> 8	その他 ( )
<input type="checkbox"/> 9	差は生じていない

※1~8は、Q18\_1=1目つQ18\_2=2~4にON、  
またはQ18\_1=2目つQ18\_2=1,3,4にON、  
またはQ18\_1=3目つQ18\_2=1,2,4にON、  
またはQ18\_1=4目つQ18\_2=1~3にONの方のみ表示

←9はQ18\_1=1目つQ18\_2=1、またはQ18\_1=2目つQ18\_2=2、  
またはQ18\_1=3目つQ18\_2=3、またはQ18\_1=4目つQ18\_2=4にONの方のみ表示

全員回答

改ページ

Q20\_1 SA 装具の運動学（重心・支持基底面・モーメント等）に関する知識について、あなたは理学療法士がどの程度持つべきだと思いますか。  
(お答えは1つ)

<input type="radio"/> 1	大いに持つべき
<input type="radio"/> 2	ある程度持つべき
<input type="radio"/> 3	あまり持たなくてよい
<input type="radio"/> 4	ほとんど持たなくてよい

Q20\_2 SA 装具の運動学（重心・支持基底面・モーメント等）に関する知識について、あなたはどの程度持っていますか。  
(お答えは1つ)

<input type="radio"/> 1	大いに持っている
<input type="radio"/> 2	ある程度持っている
<input type="radio"/> 3	あまり持っていない
<input type="radio"/> 4	ほとんど持っていない

全員回答

改ページ

Q21 MA 装具の運動学（重心・支持基底面・モーメント等）に関する知識について、  
【※Q20\_1の回答を表示】と考えているのに実際には【※Q20\_2の回答を表示】となっている理由をお答えください。  
(お答えはいくつでも)

<input type="checkbox"/> 1	理学療法士養成校で学ぶ時間が少ない
<input type="checkbox"/> 2	協会や県士会など施設外の研修会が少ない
<input type="checkbox"/> 3	勉強会など施設内の研修会が少ない
<input type="checkbox"/> 4	雑誌や論文などの情報が少ない
<input type="checkbox"/> 5	対象となる患者・利用者が少ない
<input type="checkbox"/> 6	施設に試す備品が少ない
<input type="checkbox"/> 7	装具は主に他職種が関わっている
<input type="checkbox"/> 8	その他 ( )
<input type="checkbox"/> 9	差は生じていない

※1～8は、Q20\_1=1目つQ20\_2=2～4にON、  
またはQ20\_1=2目つQ20\_2=1,3,4にON、  
またはQ20\_1=3目つQ20\_2=1,2,4にON、  
またはQ20\_1=4目つQ20\_2=1～3にONの方のみ表示

←9はQ20\_1=1目つQ20\_2=1、またはQ20\_1=2目つQ20\_2=2、  
またはQ20\_1=3目つQ20\_2=3、またはQ20\_1=4目つQ20\_2=4にONの方のみ表示

全員回答

改ページ

Q22\_1 SA 装具の活用に関わる正常歩行の知識について、あなたは理学療法士がどの程度持つべきだと思いますか。  
(お答えは1つ)

<input type="radio"/> 1	大いに持つべき
<input type="radio"/> 2	ある程度持つべき
<input type="radio"/> 3	あまり持たなくてよい
<input type="radio"/> 4	ほとんど持たなくてよい

Q22\_2 SA 装具の活用に関わる正常歩行の知識について、あなたはどの程度持っていますか。  
(お答えは1つ)

<input type="radio"/> 1	大いに持っている
<input type="radio"/> 2	ある程度持っている
<input type="radio"/> 3	あまり持っていない
<input type="radio"/> 4	ほとんど持っていない

全員回答

改ページ

Q23 MA 装具の活用に関わる正常歩行の知識について、  
【※Q22\_1の回答を表示】と考えているのに実際には【※Q22\_2の回答を表示】となっている理由をお答えください。  
(お答えはいくつでも)

<input type="checkbox"/> 1	理学療法士養成校で学ぶ時間が少ない
<input type="checkbox"/> 2	協会や県士会など施設外の研修会が少ない
<input type="checkbox"/> 3	勉強会など施設内の研修会が少ない
<input type="checkbox"/> 4	雑誌や論文などの情報が少ない
<input type="checkbox"/> 5	対象となる患者・利用者が少ない
<input type="checkbox"/> 6	施設に試す備品が少ない
<input type="checkbox"/> 7	装具は主に他職種が関わっている
<input type="checkbox"/> 8	その他 ( )
<input type="checkbox"/> 9	差は生じていない

※1～8は、Q22\_1=1目つQ22\_2=2～4にON、  
またはQ22\_1=2目つQ22\_2=1,3,4にON、  
またはQ22\_1=3目つQ22\_2=1,2,4にON、  
またはQ22\_1=4目つQ22\_2=1～3にONの方のみ表示

←9はQ22\_1=1目つQ22\_2=1、またはQ22\_1=2目つQ22\_2=2、  
またはQ22\_1=3目つQ22\_2=3、またはQ22\_1=4目つQ22\_2=4にONの方のみ表示

全員回答

[改ページ](#)

Q24\_1 SA 装具の活用に関わる異常歩行の知識について、あなたは理学療法士がどの程度持つべきだと思いますか。  
(お答えは1つ)

<input type="radio"/> 1	大いに持つべき
<input type="radio"/> 2	ある程度持つべき
<input type="radio"/> 3	あまり持たなくてよい
<input type="radio"/> 4	ほとんど持たなくてよい

Q24\_2 SA 装具の活用に関わる異常歩行の知識について、あなたはどの程度持っていますか。  
(お答えは1つ)

<input type="radio"/> 1	大いに持っている
<input type="radio"/> 2	ある程度持っている
<input type="radio"/> 3	あまり持っていない
<input type="radio"/> 4	ほとんど持っていない

全員回答

[改ページ](#)

Q25 MA 装具の活用に関わる異常歩行の知識について、  
【※Q24\_1の回答を表示】と考えているのに実際には【※Q24\_2の回答を表示】となっている理由をお答えください。  
(お答えはいくつでも)

<input type="checkbox"/> 1	理学療法士養成校で学ぶ時間が少ない
<input type="checkbox"/> 2	協会や県士会など施設外の研修会が少ない
<input type="checkbox"/> 3	勉強会など施設内の研修会が少ない
<input type="checkbox"/> 4	雑誌や論文などの情報が少ない
<input type="checkbox"/> 5	対象となる患者・利用者が少ない
<input type="checkbox"/> 6	施設に試す備品が少ない
<input type="checkbox"/> 7	装具は主に他職種が関わっている
<input type="checkbox"/> 8	その他 ( )
<input type="checkbox"/> 9	差は生じていない

※1～8は、Q24\_1=1目つQ24\_2=2～4にON、  
またはQ24\_1=2目つQ24\_2=1,3,4にON、  
またはQ24\_1=3目つQ24\_2=1,2,4にON、  
またはQ24\_1=4目つQ24\_2=1～3にONの方のみ表示

←9はQ24\_1=1目つQ24\_2=1、またはQ24\_1=2目つQ24\_2=2、  
またはQ24\_1=3目つQ24\_2=3、またはQ24\_1=4目つQ24\_2=4にONの方のみ表示

全員回答

[改ページ](#)

Q26\_1 SA 装具の選択や部品の調整時における歩行を評価する能力について、あなたは理学療法士がどの程度持つべきだと思いますか。  
(お答えは1つ)

<input type="radio"/> 1	大いに持つべき
<input type="radio"/> 2	ある程度持つべき
<input type="radio"/> 3	あまり持たなくてよい
<input type="radio"/> 4	ほとんど持たなくてよい

Q26\_2 SA 装具の選択や部品の調整時における歩行を評価する能力について、あなたはどの程度持っていますか。  
(お答えは1つ)

<input type="radio"/> 1	大いに持っている
<input type="radio"/> 2	ある程度持っている
<input type="radio"/> 3	あまり持っていない
<input type="radio"/> 4	ほとんど持っていない

全員回答

[改ページ](#)

Q27 MA 装具の選択や部品の調整時における歩行を評価する能力について、  
【※Q26\_1の回答を表示】と考えているのに実際には【※Q26\_2の回答を表示】となっている理由をお答えください。  
(お答えはいくつでも)

<input type="checkbox"/> 1	理学療法士養成校で学ぶ時間が少ない
<input type="checkbox"/> 2	協会や県士会など施設外の研修会が少ない
<input type="checkbox"/> 3	勉強会など施設内の研修会が少ない
<input type="checkbox"/> 4	雑誌や論文などの情報が少ない
<input type="checkbox"/> 5	対象となる患者・利用者が少ない
<input type="checkbox"/> 6	施設に試す備品が少ない
<input type="checkbox"/> 7	装具は主に他職種が関わっている
<input type="checkbox"/> 8	その他 ( )
<input type="checkbox"/> 9	差は生じていない

※1～8は、Q26\_1=1目つQ26\_2=2～4にON、  
またはQ26\_1=2目つQ26\_2=1,3,4にON、  
またはQ26\_1=3目つQ26\_2=1,2,4にON、  
またはQ26\_1=4目つQ26\_2=1～3にONの方のみ表示

←9はQ26\_1=1目つQ26\_2=1、またはQ26\_1=2目つQ26\_2=2、  
またはQ26\_1=3目つQ26\_2=3、またはQ26\_1=4目つQ26\_2=4にONの方のみ表示

全員回答

[改ページ](#)

Q28\_1 SA 器具を活用した歩行練習や介助方法の技術について、あなたは理学療法士がどの程度持つべきだと思いますか。  
(お答えは1つ)

<input type="radio"/> 1	大いに持つべき
<input type="radio"/> 2	ある程度持つべき
<input type="radio"/> 3	あまり持たなくてよい
<input type="radio"/> 4	ほとんど持たなくてよい

Q28\_2 SA 器具を活用した歩行練習や介助方法の技術について、あなたはどの程度持っていますか。  
(お答えは1つ)

<input type="radio"/> 1	大いに持っている
<input type="radio"/> 2	ある程度持っている
<input type="radio"/> 3	あまり持っていない
<input type="radio"/> 4	ほとんど持っていない

全員回答

[改ページ](#)

Q29 MA 器具を活用した歩行練習や介助方法の技術について、  
【※Q28\_1の回答を表示】と考えているのに実際には【※Q28\_2の回答を表示】となっている理由をお答えください。  
(お答えはいくつでも)

<input type="checkbox"/> 1	理学療法士養成校で学ぶ時間が少ない
<input type="checkbox"/> 2	協会や県士会など施設外の研修会が少ない
<input type="checkbox"/> 3	勉強会など施設内の研修会が少ない
<input type="checkbox"/> 4	雑誌や論文などの情報が少ない
<input type="checkbox"/> 5	対象となる患者・利用者が少ない
<input type="checkbox"/> 6	施設に試す備品が少ない
<input type="checkbox"/> 7	器具は主に他職種が関わっている
<input type="checkbox"/> 8	その他 ( )
<input type="checkbox"/> 9	差は生じていない

※1~8は、Q28\_1=1目つQ28\_2=2~4にON、  
またはQ28\_1=2目つQ28\_2=1,3,4にON、  
またはQ28\_1=3目つQ28\_2=1,2,4にON、  
またはQ28\_1=4目つQ28\_2=1~3にONの方のみ表示

←9はQ28\_1=1目つQ28\_2=1、またはQ28\_1=2目つQ28\_2=2、  
またはQ28\_1=3目つQ28\_2=3、またはQ28\_1=4目つQ28\_2=4にONの方のみ表示

全員回答

[改ページ](#)

Q30\_1 SA 器具が必要かどうかを判断する能力について、あなたは理学療法士がどの程度持つべきだと思いますか。  
(お答えは1つ)

<input type="radio"/> 1	大いに持つべき
<input type="radio"/> 2	ある程度持つべき
<input type="radio"/> 3	あまり持たなくてよい
<input type="radio"/> 4	ほとんど持たなくてよい

Q30\_2 SA 器具が必要かどうかを判断する能力について、あなたはどの程度持っていますか。  
(お答えは1つ)

<input type="radio"/> 1	大いに持っている
<input type="radio"/> 2	ある程度持っている
<input type="radio"/> 3	あまり持っていない
<input type="radio"/> 4	ほとんど持っていない

全員回答

[改ページ](#)

Q31 MA 器具が必要かどうかを判断する能力について、  
【※Q30\_1の回答を表示】と考えているのに実際には【※Q30\_2の回答を表示】となっている理由をお答えください。  
(お答えはいくつでも)

<input type="checkbox"/> 1	理学療法士養成校で学ぶ時間が少ない
<input type="checkbox"/> 2	協会や県士会など施設外の研修会が少ない
<input type="checkbox"/> 3	勉強会など施設内の研修会が少ない
<input type="checkbox"/> 4	雑誌や論文などの情報が少ない
<input type="checkbox"/> 5	対象となる患者・利用者が少ない
<input type="checkbox"/> 6	施設に試す備品が少ない
<input type="checkbox"/> 7	器具は主に他職種が関わっている
<input type="checkbox"/> 8	その他 ( )
<input type="checkbox"/> 9	差は生じていない

※1~8は、Q30\_1=1目つQ30\_2=2~4にON、  
またはQ30\_1=2目つQ30\_2=1,3,4にON、  
またはQ30\_1=3目つQ30\_2=1,2,4にON、  
またはQ30\_1=4目つQ30\_2=1~3にONの方のみ表示

←9はQ30\_1=1目つQ30\_2=1、またはQ30\_1=2目つQ30\_2=2、  
またはQ30\_1=3目つQ30\_2=3、またはQ30\_1=4目つQ30\_2=4にONの方のみ表示

全員回答

[改ページ](#)

Q32\_1 SA 装具の劣化・破損に関する知識について、あなたは理学療法士がどの程度持つべきだと思いますか。  
(お答えは1つ)

<input type="radio"/> 1	大いに持つべき
<input type="radio"/> 2	ある程度持つべき
<input type="radio"/> 3	あまり持たなくてよい
<input type="radio"/> 4	ほとんど持たなくてよい

Q32\_2 SA 装具の劣化・破損に関する知識について、あなたはどの程度持っていますか。  
(お答えは1つ)

<input type="radio"/> 1	大いに持っている
<input type="radio"/> 2	ある程度持っている
<input type="radio"/> 3	あまり持っていない
<input type="radio"/> 4	ほとんど持っていない

全員回答

[改ページ](#)

Q33 MA 装具の劣化・破損に関する知識について、  
【※Q32\_1の回答を表示】と考えているのに実際には【※Q32\_2の回答を表示】となっている理由をお答えください。  
(お答えはいくつでも)

<input type="checkbox"/> 1	理学療法士養成校で学ぶ時間が少ない
<input type="checkbox"/> 2	協会や県士会など施設外の研修会が少ない
<input type="checkbox"/> 3	勉強会など施設内の研修会が少ない
<input type="checkbox"/> 4	雑誌や論文などの情報が少ない
<input type="checkbox"/> 5	対象となる患者・利用者が少ない
<input type="checkbox"/> 6	施設に試す備品が少ない
<input type="checkbox"/> 7	装具は主に他職種が関わっている
<input type="checkbox"/> 8	その他 ( )
<input type="checkbox"/> 9	差は生じていない

※1~8は、Q32\_1=1目つQ32\_2=2~4にON、  
またはQ32\_1=2目つQ32\_2=1,3,4にON、  
またはQ32\_1=3目つQ32\_2=1,2,4にON、  
またはQ32\_1=4目つQ32\_2=1~3にONの方のみ表示

←9はQ32\_1=1目つQ32\_2=1、またはQ32\_1=2目つQ32\_2=2、  
またはQ32\_1=3目つQ32\_2=3、またはQ32\_1=4目つQ32\_2=4にONの方のみ表示

全員回答

[改ページ](#)

Q34\_1 SA 装具活用による足部の創傷と対応に関する知識について、あなたは理学療法士がどの程度持つべきだと思いますか。  
(お答えは1つ)

<input type="radio"/> 1	大いに持つべき
<input type="radio"/> 2	ある程度持つべき
<input type="radio"/> 3	あまり持たなくてよい
<input type="radio"/> 4	ほとんど持たなくてよい

Q34\_2 SA 装具活用による足部の創傷と対応に関する知識について、あなたはどの程度持っていますか。  
(お答えは1つ)

<input type="radio"/> 1	大いに持っている
<input type="radio"/> 2	ある程度持っている
<input type="radio"/> 3	あまり持っていない
<input type="radio"/> 4	ほとんど持っていない

全員回答

[改ページ](#)

Q35 MA 装具活用による足部の創傷と対応に関する知識について、  
【※Q34\_1の回答を表示】と考えているのに実際には【※Q34\_2の回答を表示】となっている理由をお答えください。  
(お答えはいくつでも)

<input type="checkbox"/> 1	理学療法士養成校で学ぶ時間が少ない
<input type="checkbox"/> 2	協会や県士会など施設外の研修会が少ない
<input type="checkbox"/> 3	勉強会など施設内の研修会が少ない
<input type="checkbox"/> 4	雑誌や論文などの情報が少ない
<input type="checkbox"/> 5	対象となる患者・利用者が少ない
<input type="checkbox"/> 6	施設に試す備品が少ない
<input type="checkbox"/> 7	装具は主に他職種が関わっている
<input type="checkbox"/> 8	その他 ( )
<input type="checkbox"/> 9	差は生じていない

※1~8は、Q34\_1=1目つQ34\_2=2~4にON、  
またはQ34\_1=2目つQ34\_2=1,3,4にON、  
またはQ34\_1=3目つQ34\_2=1,2,4にON、  
またはQ34\_1=4目つQ34\_2=1~3にONの方のみ表示

←9はQ34\_1=1目つQ34\_2=1、またはQ34\_1=2目つQ34\_2=2、  
またはQ34\_1=3目つQ34\_2=3、またはQ34\_1=4目つQ34\_2=4にONの方のみ表示

全員回答

[改ページ](#)

Q36\_1 SA 装具の汚れや除菌など衛生管理に関する知識について、あなたは理学療法士がどの程度持つべきだと思いますか。  
(お答えは1つ)

<input type="radio"/> 1	大いに持つべき
<input type="radio"/> 2	ある程度持つべき
<input type="radio"/> 3	あまり持たなくてよい
<input type="radio"/> 4	ほとんど持たなくてよい

Q36\_2 SA 装具の汚れや除菌など衛生管理に関する知識について、あなたはどの程度持っていますか。  
(お答えは1つ)

<input type="radio"/> 1	大いに持っている
<input type="radio"/> 2	ある程度持っている
<input type="radio"/> 3	あまり持っていない
<input type="radio"/> 4	ほとんど持っていない

全員回答

[改ページ](#)

Q37 MA 装具の汚れや除菌など衛生管理に関する知識について、  
【※Q36\_1の回答を表示】と考えているのに実際には【※Q36\_2の回答を表示】となっている理由をお答えください。  
(お答えはいくつでも)

<input type="checkbox"/> 1	理学療法士養成校で学ぶ時間が少ない
<input type="checkbox"/> 2	協会や県士会など施設外の研修会が少ない
<input type="checkbox"/> 3	勉強会など施設内の研修会が少ない
<input type="checkbox"/> 4	雑誌や論文などの情報が少ない
<input type="checkbox"/> 5	対象となる患者・利用者が少ない
<input type="checkbox"/> 6	施設に試す備品が少ない
<input type="checkbox"/> 7	装具は主に他職種が関わっている
<input type="checkbox"/> 8	その他 ( )
<input type="checkbox"/> 9	差は生じていない

※1~8は、Q36\_1=1目つQ36\_2=2~4にON、  
またはQ36\_1=2目つQ36\_2=1,3,4にON、  
またはQ36\_1=3目つQ36\_2=1,2,4にON、  
またはQ36\_1=4目つQ36\_2=1~3にONの方のみ表示

←9はQ36\_1=1目つQ36\_2=1、またはQ36\_1=2目つQ36\_2=2、  
またはQ36\_1=3目つQ36\_2=3、またはQ36\_1=4目つQ36\_2=4にONの方のみ表示

全員回答

[改ページ](#)

Q38\_1 SA 装具の装着方法に関する知識について、あなたは理学療法士がどの程度持つべきだと思いますか。  
(お答えは1つ)

<input type="radio"/> 1	大いに持つべき
<input type="radio"/> 2	ある程度持つべき
<input type="radio"/> 3	あまり持たなくてよい
<input type="radio"/> 4	ほとんど持たなくてよい

Q38\_2 SA 装具の装着方法に関する知識について、あなたはどの程度持っていますか。  
(お答えは1つ)

<input type="radio"/> 1	大いに持っている
<input type="radio"/> 2	ある程度持っている
<input type="radio"/> 3	あまり持っていない
<input type="radio"/> 4	ほとんど持っていない

全員回答

[改ページ](#)

Q39 MA 装具の装着方法に関する知識について、  
【※Q38\_1の回答を表示】と考えているのに実際には【※Q38\_2の回答を表示】となっている理由をお答えください。  
(お答えはいくつでも)

<input type="checkbox"/> 1	理学療法士養成校で学ぶ時間が少ない
<input type="checkbox"/> 2	協会や県士会など施設外の研修会が少ない
<input type="checkbox"/> 3	勉強会など施設内の研修会が少ない
<input type="checkbox"/> 4	雑誌や論文などの情報が少ない
<input type="checkbox"/> 5	対象となる患者・利用者が少ない
<input type="checkbox"/> 6	施設に試す備品が少ない
<input type="checkbox"/> 7	装具は主に他職種が関わっている
<input type="checkbox"/> 8	その他 ( )
<input type="checkbox"/> 9	差は生じていない

※1~8は、Q38\_1=1目つQ38\_2=2~4にON、  
またはQ38\_1=2目つQ38\_2=1,3,4にON、  
またはQ38\_1=3目つQ38\_2=1,2,4にON、  
またはQ38\_1=4目つQ38\_2=1~3にONの方のみ表示

←9はQ38\_1=1目つQ38\_2=1、またはQ38\_1=2目つQ38\_2=2、  
またはQ38\_1=3目つQ38\_2=3、またはQ38\_1=4目つQ38\_2=4にONの方のみ表示

全員回答

[改ページ](#)

Q40\_1 SA 義員を生活関連動作（移乗動作、入浴動作等）に活用する知識について、あなたは理学療法士がどの程度持つべきだと思いますか。  
(お答えは1つ)

<input type="radio"/> 1	大いに持つべき
<input type="radio"/> 2	ある程度持つべき
<input type="radio"/> 3	あまり持たなくてよい
<input type="radio"/> 4	ほとんど持たなくてよい

Q40\_2 SA 義員を生活関連動作（移乗動作、入浴動作等）に活用する知識について、あなたはどの程度持っていますか。  
(お答えは1つ)

<input type="radio"/> 1	大いに持っている
<input type="radio"/> 2	ある程度持っている
<input type="radio"/> 3	あまり持っていない
<input type="radio"/> 4	ほとんど持っていない

全員回答

[改ページ](#)

Q41 MA 義員を生活関連動作（移乗動作、入浴動作等）に活用する知識について、  
【※Q40\_1の回答を表示】と考えているのに実際には【※Q40\_2の回答を表示】となっている理由をお答えください。  
(お答えはいくつでも)

<input type="checkbox"/> 1	理学療法士養成校で学ぶ時間が少ない
<input type="checkbox"/> 2	協会や県士会など施設外の研修会が少ない
<input type="checkbox"/> 3	勉強会など施設内の研修会が少ない
<input type="checkbox"/> 4	雑誌や論文などの情報が少ない
<input type="checkbox"/> 5	対象となる患者・利用者が少ない
<input type="checkbox"/> 6	施設に試す備品が少ない
<input type="checkbox"/> 7	義員は主に他職種が関わっている
<input type="checkbox"/> 8	その他 ( )
<input type="checkbox"/> 9	差は生じていない

※1～8は、Q40\_1=1目つQ40\_2=2～4にON、  
またはQ40\_1=2目つQ40\_2=1,3,4にON、  
またはQ40\_1=3目つQ40\_2=1,2,4にON、  
またはQ40\_1=4目つQ40\_2=1～3にONの方のみ表示

←9はQ40\_1=1目つQ40\_2=1、またはQ40\_1=2目つQ40\_2=2、  
またはQ40\_1=3目つQ40\_2=3、またはQ40\_1=4目つQ40\_2=4にONの方のみ表示

全員回答

[改ページ](#)

Q42\_1 SA 義員の活用に関して患者（利用者）や家族に説明する能力について、あなたは理学療法士がどの程度持つべきだと思いますか。  
(お答えは1つ)

<input type="radio"/> 1	大いに持つべき
<input type="radio"/> 2	ある程度持つべき
<input type="radio"/> 3	あまり持たなくてよい
<input type="radio"/> 4	ほとんど持たなくてよい

Q42\_2 SA 義員の活用に関して患者（利用者）や家族に説明する能力について、あなたはどの程度持っていますか。  
(お答えは1つ)

<input type="radio"/> 1	大いに持っている
<input type="radio"/> 2	ある程度持っている
<input type="radio"/> 3	あまり持っていない
<input type="radio"/> 4	ほとんど持っていない

全員回答

[改ページ](#)

Q43 MA 義員の活用に関して患者（利用者）や家族に説明する能力について、  
【※Q42\_1の回答を表示】と考えているのに実際には【※Q42\_2の回答を表示】となっている理由をお答えください。  
(お答えはいくつでも)

<input type="checkbox"/> 1	理学療法士養成校で学ぶ時間が少ない
<input type="checkbox"/> 2	協会や県士会など施設外の研修会が少ない
<input type="checkbox"/> 3	勉強会など施設内の研修会が少ない
<input type="checkbox"/> 4	雑誌や論文などの情報が少ない
<input type="checkbox"/> 5	対象となる患者・利用者が少ない
<input type="checkbox"/> 6	施設に試す備品が少ない
<input type="checkbox"/> 7	義員は主に他職種が関わっている
<input type="checkbox"/> 8	その他 ( )
<input type="checkbox"/> 9	差は生じていない

※1～8は、Q42\_1=1目つQ42\_2=2～4にON、  
またはQ42\_1=2目つQ42\_2=1,3,4にON、  
またはQ42\_1=3目つQ42\_2=1,2,4にON、  
またはQ42\_1=4目つQ42\_2=1～3にONの方のみ表示

←9はQ42\_1=1目つQ42\_2=1、またはQ42\_1=2目つQ42\_2=2、  
またはQ42\_1=3目つQ42\_2=3、またはQ42\_1=4目つQ42\_2=4にONの方のみ表示

全員回答

改ページ

Q44\_1 SA 義員の活用に関して他職種（医師、義肢装具士、ケアマネージャ等）に説明する能力について、あなたは理学療法士がどの程度持つべきだと思いますか。  
(お答えは1つ)

<input type="radio"/> 1	大いに持つべき
<input type="radio"/> 2	ある程度持つべき
<input type="radio"/> 3	あまり持たなくてよい
<input type="radio"/> 4	ほとんど持たなくてよい

Q44\_2 SA 義員の活用に関して他職種（医師、義肢装具士、ケアマネージャ等）に説明する能力について、あなたはどの程度持っていますか。  
(お答えは1つ)

<input type="radio"/> 1	大いに持っている
<input type="radio"/> 2	ある程度持っている
<input type="radio"/> 3	あまり持っていない
<input type="radio"/> 4	ほとんど持っていない

全員回答

改ページ

Q45 MA 義員の活用に関して他職種（医師、義肢装具士、ケアマネージャ等）に説明する能力について、  
【※Q44\_1の回答を表示】と考えているのに実際には【※Q44\_2の回答を表示】となっている理由をお答えください。  
(お答えはいくつでも)

<input type="checkbox"/> 1	理学療法士養成校で学ぶ時間が少ない
<input type="checkbox"/> 2	協会や県士会など施設外の研修会が少ない
<input type="checkbox"/> 3	勉強会など施設内の研修会が少ない
<input type="checkbox"/> 4	雑誌や論文などの情報が少ない
<input type="checkbox"/> 5	対象となる患者・利用者が少ない
<input type="checkbox"/> 6	施設に試す備品が少ない
<input type="checkbox"/> 7	義員は主に他職種が関わっている
<input type="checkbox"/> 8	その他 ( )
<input type="checkbox"/> 9	差は生じていない

※1～8は、Q44\_1=1目つQ44\_2=2～4にON、  
またはQ44\_1=2目つQ44\_2=1,3,4にON、  
またはQ44\_1=3目つQ44\_2=1,2,4にON、  
またはQ44\_1=4目つQ44\_2=1～3にONの方のみ表示

←9はQ44\_1=1目つQ44\_2=1、またはQ44\_1=2目つQ44\_2=2、  
またはQ44\_1=3目つQ44\_2=3、またはQ44\_1=4目つQ44\_2=4にONの方のみ表示

全員回答

改ページ

Q46\_1 SA 義員作製・修理に関する制度（医療保険制度・障害者総合支援法等）の知識について、あなたは理学療法士がどの程度持つべきだと思いますか。  
(お答えは1つ)

<input type="radio"/> 1	大いに持つべき
<input type="radio"/> 2	ある程度持つべき
<input type="radio"/> 3	あまり持たなくてよい
<input type="radio"/> 4	ほとんど持たなくてよい

Q46\_2 SA 義員作製・修理に関する制度（医療保険制度・障害者総合支援法等）の知識について、あなたはどの程度持っていますか。  
(お答えは1つ)

<input type="radio"/> 1	大いに持っている
<input type="radio"/> 2	ある程度持っている
<input type="radio"/> 3	あまり持っていない
<input type="radio"/> 4	ほとんど持っていない

全員回答

改ページ

Q47 MA 義員作製・修理に関する制度（医療保険制度・障害者総合支援法等）の知識について、  
【※Q46\_1の回答を表示】と考えているのに実際には【※Q46\_2の回答を表示】となっている理由をお答えください。  
(お答えはいくつでも)

<input type="checkbox"/> 1	理学療法士養成校で学ぶ時間が少ない
<input type="checkbox"/> 2	協会や県士会など施設外の研修会が少ない
<input type="checkbox"/> 3	勉強会など施設内の研修会が少ない
<input type="checkbox"/> 4	雑誌や論文などの情報が少ない
<input type="checkbox"/> 5	対象となる患者・利用者が少ない
<input type="checkbox"/> 6	施設に試す備品が少ない
<input type="checkbox"/> 7	義員は主に他職種が関わっている
<input type="checkbox"/> 8	その他 ( )
<input type="checkbox"/> 9	差は生じていない

※1～8は、Q46\_1=1目つQ46\_2=2～4にON、  
またはQ46\_1=2目つQ46\_2=1,3,4にON、  
またはQ46\_1=3目つQ46\_2=1,2,4にON、  
またはQ46\_1=4目つQ46\_2=1～3にONの方のみ表示

←9はQ46\_1=1目つQ46\_2=1、またはQ46\_1=2目つQ46\_2=2、  
またはQ46\_1=3目つQ46\_2=3、またはQ46\_1=4目つQ46\_2=4にONの方のみ表示

Q48\_1 SA 職員に関する相談先についての知識について、あなたは理学療法士がどの程度持つべきだと思いますか。  
(お答えは1つ)

<input type="radio"/> 1	大いに持つべき
<input type="radio"/> 2	ある程度持つべき
<input type="radio"/> 3	あまり持たなくてよい
<input type="radio"/> 4	ほとんど持たなくてよい

Q48\_2 SA 職員に関する相談先についての知識について、あなたはどの程度持っていますか。  
(お答えは1つ)

<input type="radio"/> 1	大いに持っている
<input type="radio"/> 2	ある程度持っている
<input type="radio"/> 3	あまり持っていない
<input type="radio"/> 4	ほとんど持っていない

Q49 MA 職員に関する相談先についての知識について、  
【※Q48\_1の回答を表示】と考えているのに実際には【※Q48\_2の回答を表示】となっている理由をお答えください。  
(お答えはいくつでも)

<input type="checkbox"/> 1	理学療法士養成校で学ぶ時間が少ない
<input type="checkbox"/> 2	協会や県士会など施設外の研修会が少ない
<input type="checkbox"/> 3	勉強会など施設内の研修会が少ない
<input type="checkbox"/> 4	雑誌や論文などの情報が少ない
<input type="checkbox"/> 5	対象となる患者・利用者が少ない
<input type="checkbox"/> 6	施設に試す備品が少ない
<input type="checkbox"/> 7	職員は主に他職種が関わっている
<input type="checkbox"/> 8	その他 ( )
<input type="checkbox"/> 9	差は生じていない

※1~8は、Q48\_1=1目つQ48\_2=2~4にON、  
またはQ48\_1=2目つQ48\_2=1,3,4にON、  
またはQ48\_1=3目つQ48\_2=1,2,4にON、  
またはQ48\_1=4目つQ48\_2=1~3にONの方のみ表示

←9はQ48\_1=1目つQ48\_2=1、またはQ48\_1=2目つQ48\_2=2、  
またはQ48\_1=3目つQ48\_2=3、またはQ48\_1=4目つQ48\_2=4にONの方のみ表示



職能に資するエビデンス研究

福祉用具・義肢・装具支援に関する啓発と実態調査～装具編～

報告書

調査対象 会員

平成30年3月

---

発行：日本理学療法士学会

日本支援工学理学療法学会

〒151-0051 渋谷区千駄ヶ谷 3-8-5

公益社団法人日本理学療法士協会内

TEL 03-6804-1626（直通）

FAX 03-6804-1627

<http://www.japanpt.or.jp/>